

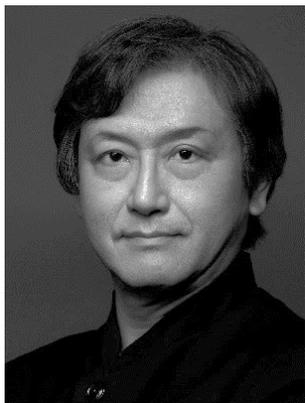
Contents

オペラ芸術監督 大野和士	2
<hr/>	
2022/2023シーズン オペラ ラインアップ	5
ジュリオ・チェーザレ	6
新国立劇場 開場25周年記念公演	
ボリス・ゴドゥノフ	12
ドン・ジョヴァンニ	17
タンホイザー	22
ファルスタッフ	27
ホフマン物語	32
新国立劇場 開場25周年記念公演	
アイーダ	37
リゴレット	42
サロメ	48
新国立劇場 開場25周年記念公演	
ラ・ボエーム	53
<hr/>	
令和4年度公演	59
新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2022 (新国立劇場公演)	
蝶々夫人	60
新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2022 (ロームシアター京都公演)	
蝶々夫人	62
<hr/>	
公演一覧(1997.10~2022.7)	64

※本資料中のスタッフ・キャストは全て予定であり、変更される可能性があります。
何卒ご承知おきください。

2022/2023 シーズン オペラ

オペラ芸術監督 大野和士



新国立劇場を支えて下さる皆様へ。

本日は、新国立劇場開場25周年を迎える2022/2023シーズンについて、大きな喜びを持って皆様にお伝え致したいと思います。来シーズンには、2年前に公演中止とせざるを得なかったプロダクションや出演者に帰って来てもらえるよう尽力しましたので、皆様にもぜひご期待いただき、温かく迎えていただきたいと思います。

2シーズン前にバロック・オペラシリーズ第1弾として計画され、リハーサルも進んでいたヘンデルの『ジュリオ・チェーザレ』がシーズン冒頭のの新制作となります。ロラン・ペリーの豪華な舞台とドラマティックな演出に加え、バロック音楽の大家、指揮者アレッサンドリーニの再度の来日、チェーザレ役にはマリアンネ・ベアーテ・キーランドを配して新たなる船出を待つばかりです。

続いて新国立劇場に初めて登場する作品は、ムソルグスキーの『ボリス・ゴドゥノフ』。王位篡奪によって新たにロシア皇帝に就いたゴドゥノフのうわべの栄光と内面にひろがる罪の意識と恐怖が作曲者の天才によってこれほど深く強烈な音楽ドラマとしてオペラ史に刻印されたことに、いまだ私たちは驚嘆の念を禁じ得ません。

ポーランド国立歌劇場との共同制作で、演出は、近年ポーランド人として初めてメトロポリタン歌劇場のシーズン開幕に『トリスタンとイゾルデ』公演を任された、才人マリウシュ・トレリンスキ。私達はエクサンプロヴァンス音楽祭でプロコフィエフの『炎の天使』を演奏して以来、今回の『ボリス・ゴドゥノフ』の話を進めてきました。彼はこのオペラを古色蒼然とした単なる歴史物としてではなく、現代に生きる誰もの中に巣食う自分自身の存在への恐怖、コンプレックス、故に陥る孤独に光を与え、ドラマを今日に蘇らせま

す。平面的な2層の舞台上には様々なキューブ状の部屋が設えられ、このオペラに多い、登場人物のモノローグがその中で語られる不思議な空間を創り出します。大僧正ピーメンだけは、少し時代がかった装飾的な装いで、彼が歴史を見続けている証人の役割を果たす効果は絶大です。ボリス役には、世界にこの役で名を馳せているエフゲニー・ニキティン、ボリスの悲劇とロシアの運命を予言する聖愚者ユロージヴィ役にはパーヴェル・コルガーティン。皇帝の大罪を見透かし常にその心に毒を盛るシュイスキー役にはマクシム・パステル。宿屋の女将、またボリスの2人の子供の乳母を演じる女声歌手は、清水華澄、金子美香ら日本のトップクラスの歌手で占められます。また、このオペラは、大合唱の活躍するオペラとしても知られていますので、新国立劇場合唱団の本領を発揮する機会ともなりましょう。

さて3つ目の新制作は、ベルカントシリーズの延長線上として、『リゴレット』を持って参りました。

これは、ビルバオやバレンシアで上演されたエミリオ・サージの演出による堅固な舞台セットに色彩と光が映える舞台。指揮者には待ちに待った、イタリア・オペラ指揮界の重鎮マウリツィオ・ベニーニ。ジョルジュ・ペテアンのリゴレット、ハスマック・トロシヤンのジルダと、今をときめく歌手たちの饗宴もお楽しみいただければと思います。

私のこれまで4シーズンは年4演目の新制作を続けて参りましたが、このシーズンは3本の新制作といたします。日本人作曲家委嘱シリーズやダブルビルは継続して企画していきますので、今後のシーズンにご期待いただきたいと思います。

そして、2020年に予定していた新国立劇場の誇るレパートリー公演が、多少の指揮者、キャストの変更を伴いながらもこのシーズンに組み込まれています。

『ドン・ジョヴァンニ』の公演には、2020年に予定していた『コジ・ファン・トゥッテ』の出演者がほとんどそっくり移っての上演となります。

『タンホイザー』は世界的ヘルデンテノール、ステファン・グールドがタイトルロール、スロヴェニアの名花、サビーナ・ツヴィラクのエリーザベト、ヴォルフラムは、一昨年の『夏の夜の夢』でディミートリアスを歌うはずだった、ダニエル・オクリッチです。

『ホフマン物語』『サロメ』は、驚異的なことに指揮者、歌手ともに2年前のキャスティングがほぼそのまま戻ってこられることとなりました。この日を待っていたエネルギーを存分に注いでくれることでしょう。

『アイダ』には指揮者リッツィほか、スター歌手たちが揃い、5年に一度の新国立劇場の祭典に華を添えてくれます。『ファルスタッフ』では、名バリトン、ニコラ・アライモのタイトルロールと、フォード役のメキシコの新星ホルヘ・エスピーノとの声の饗宴が期待されます。また、若い恋人役フェントン、ナンネッタには、ドン・ホセやピンカートンを演じるなど進境著しい村上公太と日本の名花、三宅理恵を配するなど、ヴェルディ最後のオペラに最高のキャストが揃います。

そして、シーズン最終作は『ラ・ボエーム』。ミミにアレクサンドラ・マリアネリ、ロドルフォにはアメリカのステイヴン・コステロ、ムゼッタにヴァレンティーナ・マストラランジェロと若々しい顔ぶれに、須藤慎吾をはじめとするボヘミアンが引き起こす愛と哀しみのドラマを、私の指揮でお届けします。このプロダクションを持って新しい時代の狼煙をあげるために。

〈プロフィール〉

東京生まれ。東京藝術大学卒。バイエルン州立歌劇場にてサヴァリッシュ、パタネー両氏に師事。1987年トスカニーニ国際指揮者コンクール優勝。世界各地でオペラ公演及びシンフォニーコンサートで聴衆を魅了し続けている。90～96年ザグレブ・フィル音楽監督。96～2002年バーデン州立歌劇場音楽総監督。92～99年、東京フィル常任指揮者を経て、現在同楽団桂冠指揮者。02～08年モネ劇場音楽監督。12～15年アルトゥーロ・トスカニーニ・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者、08～16年フランス国立リヨン歌劇場首席指揮者を歴任。15年から東京都交響楽団、バルセロナ交響楽団音楽監督。22年にはブリュッセル・フィルハーモニック音楽監督に就任予定。オペラでは、07年にミラノ・スカラ座にデビューし、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、バイエルン州立歌劇場、グライントボーン音楽祭、エクサンプロヴァンス音楽祭などへ出演。渡邊暁雄音楽基金音楽賞、芸術選奨文部大臣新人賞、出光音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、エクソンモービル音楽賞、サントリー音楽賞、日本芸術院賞ならびに恩賜賞、朝日賞など受賞多数。紫綬褒章受章。文化功労者。17年にはリヨン歌劇場がインターナショナル・オペラ・アワード「最優秀オペラハウス2017」を獲得し、フランス政府より芸術文化勲章オフィシエ、リヨン市からリヨン市特別メダルが授与された。18年9月より新国立劇場オペラ芸術監督。新国立劇場では98年『魔笛』、10～11年『トリスタンとイゾルデ』、19年『紫苑物語』『トゥーランドット』、20年『アルマゲドンの夢』、21年『ワルキューレ』『カルメン』、子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ『Super Angels スーパーエンジェル』、『ニュルンベルクのマイスタージッター』を指揮している。22年7月には『ペレアスとメリザンド』を、22/23シーズンは『ボリス・ゴドゥノフ』『ラ・ボエーム』を指揮する予定。

2022/2023 シーズン オペラ ラインアップ
〈新制作3演目／レパートリー7演目 合計10演目49公演〉

2022年10月

新制作

ジュリオ・チェーザレ

Giulio Cesare | G. F. ヘンデル
4回公演

2022年11月

新制作

新国立劇場 開場25周年記念公演

ボリス・ゴドゥノフ

Boris Godunov | M. ムソルグスキー
5回公演

2022年12月

ドン・ジョヴァンニ

Don Giovanni | W. A. モーツァルト
5回公演

2023年1月～2月

タンホイザー

Tannhäuser | R. ワーグナー
5回公演

2023年2月

ファルスタッフ

Falstaff | G. ヴェルディ
4回公演

2023年3月

ホフマン物語

Les Contes d'Hoffmann | J. オッフエンバック
4回公演

2023年4月

新国立劇場 開場25周年記念公演

アイーダ

Aida | G. ヴェルディ
7回公演

2023年5月～6月

新制作

リゴレット

Rigoletto | G. ヴェルディ
6回公演

2023年5月～6月

サロメ

Salome | R. シュトラウス
4回公演

2023年6月～7月

新国立劇場 開場25周年記念公演

ラ・ボエーム

La Bohème | G. プッチーニ
5回公演

2022年10/2~10/10

<新制作>

New Production

ジュリオ・チェーザレ

Giulio Cesare

オペラパレス | 4回公演 | 全3幕<イタリア語上演/日本語及び英語字幕付>

●会員先行販売期間: 2022年 7/30(土)~ 8/ 2(火)

●一般発売日: 2022年 8/ 7(日)

初演:1724年2月20日/ロンドン・ヘイマーケット王立劇場

作曲:ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル

台本:ニコラ・フランチェスコ・ハイム

プロダクションについて

大野和士芸術監督のバロック・オペラシリーズ第1弾として計画され、各方面から大注目を集める中、新型コロナウイルス感染症の急拡大によりリハーサルが中断、公演中止となった『ジュリオ・チェーザレ』が、2年半の時を経てオペラパレスへ登場します。

バロック音楽の大作曲家ヘンデルの『ジュリオ・チェーザレ』は、ヘンデルのオペラ作曲家としての地位を確立した記念碑的作品。歴史上のシーザーとクレオパトラの物語を題材にしたオペラ・セリアで、レチタティーヴォで導かれるアリアが次々に展開し、多彩な音楽の美しさと歌手の技巧を劇的効果とともに存分に楽しめるスペクタクルです。

ロラン・ペリー演出版は2011年にパリ・オペラ座ガルニエで上演され話題となり、14年にトリノ王立歌劇場でも上演されたもの。ペリーのコンセプトは、「史実をめぐる夢想」。「遊び心をもって歴史を見てみた」と、エジプトの博物館のバックヤードを舞台にし、巨大な彫像や絵画などが舞台上に次々現れ、古代と現代とが交ざり合ったファンタジーがドラマティックに展開します。

バロック音楽の第一人者リナルド・アレッシンドリーニを指揮に迎え、注目の歌手陣には森谷真理、藤木大地、加納悦子、金子美香ら2020年公演で出演を予定していたキャストが揃うほか、タイトルロールにはバロックや現代曲で活躍するノルウェーのメゾ、マリアンネ・ベアーテ・キーランドが出演します。



パリ・オペラ座公演より
©Agathe Poupeney

あらすじ

【第1幕】ローマの将軍チェーザレは、政敵ポンペオを追ってエジプトへ来る。エジプトの将軍アキッラがトロメーオ王からとポンペオの首を差し出す。悲嘆にくれるポンペオの妻コルネーリア。息子セストは復讐を誓い、チェーザレも暴挙に憤る。クレオパトラは弟トロメーオから王座を奪うべく、チェーザレへの接近を図っていた。アキッラはチェーザレの様子をトロメーオに報告、チェーザレ暗殺を唆し、報酬にコルネーリアを要求する。クレオパトラが侍女リディアと身を偽ってチェーザレを訪れると、彼はまんまと魅了され、クレオパトラは狂喜する。トロメーオは宴にチェーザレを招く。そこへ忍び込んだコルネーリアとセストは捕えられる。

【第2幕】クレオパトラのもとを従者ニレーノの手引きでチェーザレが訪れる。アキッラはコルネーリアに愛を迫るが拒否される。トロメーオもコルネーリアを口説くが拒絶される。コルネーリアは誇り高く自害しようとするが、ニレーノに導かれたセストが現れ、命を取り留める。クレオパトラとチェーザレが愛を交わしているとトロメーオのチェーザレ暗殺の動きが知らされ、チェーザレは出陣する。

【第3幕】アキッラはクレオパトラへ寝返る決心をする。クレオパトラはトロメーオに捕らえられ、絶望している。追い詰められ海へ飛び込んだチェーザレが生還。瀕死の傷を負ったアキッラは、自らがポンペオ殺害を唆し、コルネーリアを得るべくチェーザレ暗殺を諮ったことをセストに告白する。死を覚悟したクレオパトラの前へチェーザレが現れ助け出す。なおもコルネーリアに言い寄るトロメーオの前にセストが現れ、ついに復讐を果たす。クレオパトラとチェーザレ、コルネーリア、セストを人々が讃え、幕となる。

ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル

ジュリオ・チェーザレ

Georg Friedrich HÄNDEL / Giulio Cesare

全3幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

指揮 Conductor	リナルド・アレッサンドリーニ Rinaldo ALESSANDRINI
演出・衣裳 Production and Costume Design	ロラン・ペリー Laurent PELLY
美術 Set Design	シャンタル・トマ Chantal THOMAS
照明 Lighting Design	ジョエル・アダム Joël ADAM
ドラマトウルク Dramaturg	アガテ・メリナン Agathe MÉLINAND
演出補 Associate Director	ローリー・フェルドマン Laurie FELDMAN
ジュリオ・チェーザレ Giulio Cesare	マリアンネ・ベアーテ・キーランド Marianne Beate KIELLAND
クーリオ Curio	駒田敏章 KOMADA Toshiaki
コルネーリア Cornelia	加納悦子 KANO Etsuko
セスト Sesto	金子美香 KANEKO Mika
クレオパトラ Cleopatra	森谷真理 MORIYA Mari
トロメーオ Tolomeo	藤木大地 FUJIKI Daichi
アキッラ Achilla	ヴィタリ・ユシュマノフ Vitaly YUSHMANOV
ニレーノ Nireno	村松稔之 MURAMATSU Toshiyuki
合唱 Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽 Orchestra	東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra

2022年	10月	2日(日) 14:00	5日(水) 17:00
		8日(土) 14:00	10日(月・祝) 14:00

【チケット料金】 S:27,500円 ・ A:22,000円 ・ B:15,400円 ・ C:8,800円 ・ D:5,500円

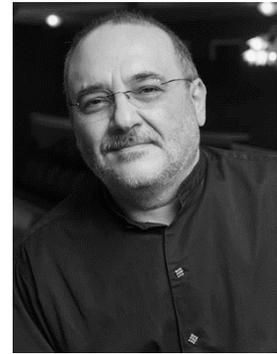
【会場】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:リナルド・アレッサンドリーニ

Conductor : Rinaldo ALESSANDRINI

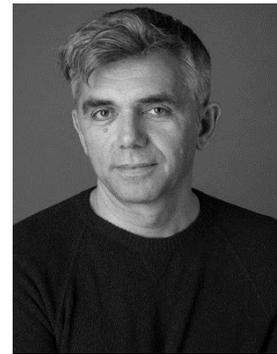
イタリア出身の指揮者、ハーブシコード、フォルテピアノ、オルガン奏者。ローマの古楽合奏団、コンチェルト・イタリアーノ創立者、音楽監督。スコットランド室内オーケストラ、エイジ・オブ・エンライトトゥメント管弦楽団、フライブルク・バロックオーケストラ、ボストン・ヘンデル・ハイドン・ソサエティ、フィレンツェ歌劇場管弦楽団、スポレート音楽祭管弦楽団、トスカーナ管弦楽団、トスカニーニ管弦楽団、ボルドー・オペラ管弦楽団、オビエド交響楽団、リヨン歌劇場管弦楽団など世界各国のオーケストラと共演。最近のオペラでは、ウェルシュ・ナショナル・オペラ及びザクセン州立歌劇場『オランダ』、ベルリン・フィルハーモニー及びブリュッセル・ボザールでの『妖精の女王』、ミュンヘンで『見てくれの馬鹿娘』『ツァイーデ』（モーツァルト）、ノルウェー国立歌劇場『オルフェオとエウリディーチェ』（グルック）と『フィガロの結婚』、ベルギー王立ワロン歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』などを指揮。ミラノ・スカラ座及びパリ・オペラ座ガルニエのモンテヴェルディ全作ツィクルスも指揮。イタリア音楽、バッハなどの録音も多く、グラモフォン賞など受賞も多い。フランス芸術文化勲章シュヴァリエ受勲。モンテヴェルディの正統的演奏者とみなされており、バーレーンライター版『オルフェオ』『ウリッセの帰還』を校訂している。新国立劇場初登場。



演出・衣装:ロラン・ペリー

Production and Costume Design : Laurent PELLY

フランスのオペラ、演劇演出家。『マノン』『サンドリヨン』『ペレアスとメリザンド』『ドン・パスクワレ』『愛の妙薬』『清教徒』『チェネレントラ』『椿姫』『ファルススタッフ』などフランス、イタリアの作品から、近年は『金鶏』『3つのオレンジへの恋』『利口な女狐の物語』などロシア、チェコの作品まで手がける。歌手と共に演劇的な洞察、シュールな発見や批評的なユーモアセンスによる演出が特徴で、全作品で衣裳もデザインし、舞台美術も手がけることがある。パリ・オペラ座、リヨン歌劇場、メトロポリタン歌劇場、テアトロ・レアル、モネ劇場などの著名歌劇場で活躍。2008年～18年のトゥールーズ国立劇場共同監督在任中に、イヨネスコ『禿の女歌手』、アリストファネス『鳥』、ユーゴー『千フランの報酬』『Mangerons-nous?』、シェイクスピア『マクベス』『夏の夜の夢』などを演出。21年にはメアリー・チェイス『ハーヴェイ』フランス語初演を演出し、コミックファンタジーの手腕を発揮した。オッフェンバックの専門家でもあり、『青ひげ』『パリの生活』『美しいエレヌス』『地獄のオルフェ』『ホフマン物語』などで数々の賞を受賞、最近ではオペラ・コミック座『月世界旅行』を演出。リヨン歌劇場『にんじんの王様』は16年インターナショナル・オペラ・アワードのベスト・リディスカバード・ワーク賞を受賞、同年の最優秀演出家賞も受賞した。21/22シーズンの新演出には、リール歌劇場『夏の夜の夢』、シャンゼリゼ劇場『コジ・ファン・トゥッテ』、グラインドボーン音楽祭のブーランク・ダブルビルがある。進行中の作品に、アムステルダム、ジュネーヴ、バレンシア、ロサンゼルス『チェネレントラ』、テアトロ・レアル、モネ劇場、ボルドー歌劇場、二期会『ファルススタッフ』、サンタフェ・オペラ『フィガロの結婚』がある。新国立劇場初登場。



ジュリオ・チェーザレ:マリアンネ・ベアーテ・キーランド(マノプラ)

Giulio Cesare : Marianne Beate KIELLAND

ノルウェー出身。ハノーファー州立歌劇場専属歌手としてキャリアを始めて以来、17世紀から現代までのレパートリーで活躍し、アントワープ交響楽団、ベルギー国立管弦楽団、ベルゲン交響楽団、イエーテボリ交響楽団、ウィーン交響楽団、ベルリン古楽アカデミーなどのオーケストラと共演。バロック・オペラのレパートリーにはパーセル『ディドとエネアス』ディド、アイオステイ『La Fede nei Tradimenti』フェルナンド、ヘンデル『テルプシコーレ』アポロ、カルダラ『偉大なる名声』エルコーレ、モンテヴェルディ『タンクレディとクロリンダの戦い』などがあり、ファビオ・ピオンティ指揮エウロパ・ガラントではヴィヴァルディ『メッセニアの神託』メローベで世界ツアーに参加。オペラではワーグナー『ラインの黄金』フリッカにも出演。バッハ、ヘンデルからベートーヴェン、シューマン、マーラー、ムソルグスキー、シェーンベルク、ウェーベルン、ベルク、ノルウェーの作曲家シーグル・イスランスモーンなどオペラ、カンタータ、声楽曲50以上のCDがある。最近では、オペラ・コミック座でモンテヴェルディ『オルフェオ』スペランツァ/プロセルピナ、ロイヤル・リヴァプール管弦楽団のヘンデル『メサイア』、NDR放送交響楽団のマーラー「交響曲第2番」、ベルギーの古楽アンサンブル、アニマ・アテルナのシューマン『女の愛と生涯』などに出演し、ブダペストのハイドノイム音楽祭、モスクワのハイドン音楽祭、フライブルク・バロック管弦楽団に登場している。新国立劇場初登場。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

クーリオ:駒田敏章(バリトン)

Curio : KOMADA Toshiaki

愛知教育大学を経て、東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。同大学大学院修士課程修了。新国立劇場オペラ研修所第11期修了。研修所公演『ナクソス島のアリアドネ』音楽教諭などを演じている。文化庁新進芸術家海外研修制度にてドイツ・ベルリンに留学。2012年オランダ・グローニンゲンで開催された音楽祭に『スペインの時』ラミーロ役で出演し、Labberte-Hoedemaker Awardを受賞。14年に小澤征爾音楽塾『子どもと魔法』のカヴァーキャストを務めた後、小澤征爾音楽塾とセイジ・オザワ松本フェスティバルには毎年関わる。歌曲の演奏にも力を入れ、東京・春・音楽祭ではピアニストの小菅優、居福健太郎と共にシェイクスピア作品を取り上げ演奏した。第83回日本音楽コンクール(歌曲)第1位。新国立劇場では『アンドレア・シェニエ』フレヴィル、『ウェルテル』ジョアンに出演している。22/23シーズンには『ボリス・ゴドゥノフ』ニキーティチ、『ラ・ボエーム』ショナールにも出演予定。



コルネーリア:加納悦子(メソソプラノ)

Cornelia : KANO Etsuko

東京藝術大学、同大学大学院を修了後、ケルン音楽大学で声楽を学ぶ。ケルン歌劇場専属歌手として『フィガロの結婚』ケルビーノ、『蝶々夫人』スズキなど40以上の演目に出演。国内ではNHK交響楽団などとの共演や、二期会、びわ湖ホールオペラなどで活躍、びわ湖ホール『ワルキューレ』フリッカ、『トリスタンとイゾルデ』ブランゲーネ、東京二期会『ホフマン物語』ミュース/ニクラウス、びわ湖ホール・神奈川県民ホール『ワルキューレ』フリッカ、東京二期会『トリスタンとイゾルデ』ブランゲーネなどで高い評価を得る。新国立劇場では『ホフマン物語』ニクラウス/ミュース、『魔笛』侍女Ⅱ、『ばらの騎士』アンニーナ、『ルサルカ』料理人の少年、『ピーター・グライムズ』セドリー夫人、『サロメ』ヘロディアスの小姓、『セビリアの理髪師』ベルタ、『神々の黄昏』ヴェルグンデ、『アルマゲドン』インスペクターなどに出演している。2013年10月文化庁芸術祭オープニング公演でエルガー『海の絵』を独唱して、高い評価を得ている。ソロCD「メアリ・スチュアート女王の詩」(ALM RECORDS)は13年度レコードアカデミー賞声楽部門受賞。「ドイツ・バロック歌曲」演奏会の成果などにより令和元年度芸術選奨文部科学大臣賞受賞。22/23シーズンは『サロメ』ヘロディアスの小姓役でも出演予定。二期会会員。



セスト:金子美香(メソソプラノ)

Sesto : KANEKO Mika

東京音楽大学声楽演奏家コースを首席で卒業、同大学院声楽専攻修了。ザルツブルク・モーツァルテウム音楽院マスタークラス修了。二期会オペラ研修所マスタークラス修了。修了時に優秀賞受賞。第18回奏楽堂日本歌曲コンクール第3位入賞。第15回日仏声楽コンクール第2位及び日本歌曲賞受賞。2008年二期会『ワルキューレ』グリムゲルデでデビュー。10年東京二期会『オテロ』エミーリア、同『魔笛』侍女Ⅲのほか、東京・春・音楽祭には14年『ラインの黄金』フロスヒルデ、15年『ワルキューレ』シュヴェルトライテ、17年『神々の黄昏』フロスヒルデ並びに第1のノルンで出演。18年夏にはパイロイト音楽祭『ワルキューレ』グリムゲルデに出演という快挙を成し遂げた。オペラのほか、オーケストラコンサートや日本歌曲のリサイタルでも高い評価を得ている。平成24年度山口県芸術文化振興奨励賞受賞。新国立劇場では『ワルキューレ』グリムゲルデ、『カルメン』メルセデス、『さまよえるオランダ人』マリー(歌唱のみ)に出演している。二期会会員。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

クレオパトラ:森谷真理(ソプラノ)

Cleopatra : MORIYA Mari

武蔵野音楽大学音楽学部声楽学科卒業、同大学院声楽専攻首席卒業後、渡米しマネス音楽院修了。世界各地のコンクールにて優勝、受賞歴多数。専属歌手を務めたリンツ州立劇場をはじめ、ウィーン・フォルクスオーパー、ライプツィヒ歌劇場など欧米の主要歌劇場で『マリア・ストゥアルダ』『椿姫』タイトルロール、『カルメン』ミカエラ、『トゥーランドット』リユーなどで活躍。2006年には『魔笛』夜の女王役でメトロポリタン歌劇場デビューを飾り、一躍注目を集めた。国内では14年びわ湖ホール『リゴレット』ジルダで日本でのオペラデビューを飾った後、東京二期会『ばらの騎士』元帥夫人、『サロメ』『蝶々夫人』『ルル』タイトルロール、びわ湖ホール『ローエン格林』エルザ、日生劇場『後宮からの逃走』コンスタンツェなどを演じ、卓越したテクニックと表現力で目覚ましい活躍を見せている。国内外の著名指揮者および主要オーケストラとの共演も多く、ベートーヴェン「第九」をはじめ、モーツァルト／ヴェルディ「レクイエム」等のソリストを務め、高い評価を得ている。19年には「天皇陛下御即位を祝う国民祭典」にて国歌独唱を務めた。小山評定ふるさと大使。とちぎ未来大使。下総統一音楽賞受賞。新国立劇場では21年『カルメン』フラスキータに出演しており、22年『ばらの騎士』マリアンネに出演予定。



トロメオ:藤木大地(カウンターテナー)

Tolomeo : FUJIKI Daichi

東京藝術大学卒業。新国立劇場オペラ研修所第5期修了。文化庁派遣芸術家在外研修でボローニャに留学後、ウィーン国立音楽大学大学院文化経営学修了。2011年、ローマ国際宗教音楽コンクールファイナリスト。12年、国際ハンス・ガボア・ベルヴェデーレ声楽コンクールにてオーストリア代表に2年連続で選出、世界大会ファイナリストとなりハンス・ガボア賞を受賞。同年、日本音楽コンクール第1位。13年、ボローニャ歌劇場のグルック『クレーリアの勝利』マンニオでヨーロッパ・デビュー。同劇場にパッティステッリ『イタリア式離婚狂想曲』カルメロで出演。17年にはライマン『メデア』ヘロルドでウィーン国立歌劇場にデビュー。国内では主要オーケストラとの共演や各地でのリサイタルを重ね、サントリーホールサマーフェスティバル『リトゥン・オン・スキン』第1の天使／少年、東京文化会館の新作歌劇『400歳のカストラート』（企画原案、主演）、パッサ・コレギウム・ジャパン『リナルド』タイトルロールなど、バロックからコンテンポラリーまで幅広く活躍している。新国立劇場へは03年『フィガロの結婚』ドン・クルツィオへ出演、カウンターテナーとして『夏の夜の夢』オーベロン、子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ『Super Angels スーパーエンジェル』アキラに出演している。21年、横浜みなとみらいホール「プロデューサー in レジデンス」の初代プロデューサー（2021-2023）に就任。みやぎき大使。洗足学園音楽大学客員教授。



アキラ:ヴァイタリ・ユシュマノフ(バリトン)

Achilla : Vitaly YUSHMANOV

サンクトペテルブルク生まれ。マリンスキー劇場の若い声楽家のためのアカデミーで学ぶ。ライプツィヒのメンデルスゾーン・パルトルディ音楽演劇大学卒業。在学中にバート・ヘルスフェルト・オペラ音楽祭『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、ライプツィヒ・ゲヴァントハウスの「ニューイヤーコンサート」に出演。2013年の秋以来度々来日し、オペラ、リサイタル、オーケストラへの共演などに出演。15年春より日本に拠点を移し、デビューアルバム『歌の翼に』、『Parole d'amore～愛の言葉』に続き『「ありがとう」を風にのせて～日本名歌集～』をリリース。17年にはびわ湖ホールオペラ『ラインの黄金』ドンナー、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン2017、第2回オペラ歌手紅白対抗歌合戦に出演。18年は東京・春・音楽祭、ロシア・ナショナル管弦楽団『イオランタ』（演奏会形式）エブシ＝ハキアに出演。19年は東京芸術劇場ほかの全国共同プロジェクト『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、ららら♪クラシックコンサート、第4回オペラ歌手紅白対抗歌合戦に出演。日本トスティ歌曲コンクール2015第1位及び特別賞、第14回東京音楽コンクール声楽部門第2位、第52回日伊声楽コンクール第1位及び最優秀歌曲賞受賞。新国立劇場へは21年『夜鳴きうぐいす』侍従、『イオランタ』エブシ＝ハキアでデビューを飾った。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

ニレノ:村松稔之(カウンターテナー)

Nireno : MURAMATSU Toshiyuki

京都市出身。東京藝術大学音楽学部声楽科、同大学院修士課程独唱科を首席で修了。ノヴァーラG.カンテッリ音楽院古楽声楽科で研鑽を積む。第20回ABC新人オーディション最優秀音楽賞、第12回千葉市芸術文化新人賞、第24回青山音楽賞新人賞、第13回東京音楽コンクール第3位等受賞。2017年度野村財団奨学生、19年度京都市芸術文化特別奨励生。これまでに藤花優子、伊原直子、寺谷千恵子、R.バルコーニの各氏に師事。17年三枝成彰『狂おしき真夏の日』ユウキ役で好評を博し、現代歌曲を加えたプログラムで出演したラ・フォル・ジュルネTOKYO2018、20年の井上道義×野田秀樹『フィガロの結婚』ケルビーノ役のほか、最近ではジャズアレンジでの武満徹「SONGS」の録音に挑むなど、古楽の枠だけに留まらず幅広いレパートリー作りに取り組んでいる。NHK FM「リサイタル・ノヴァ」やABC放送(共演:大阪フィル)などのTV、ラジオへの出演のほか、国内主要オーケストラとの共演、日本ヘンデル協会『フラヴァィオ』タイトルロール、A.ライマンの歌曲「カウンターテナーとピアノのための5つの歌曲」(日本初演)、バッハ「カンタータ」、「ヨハネ受難曲」、ヘンデル「メサイア」、モーツァルト「レクイエム」などのソリストを務める。新国立劇場初登場。



ボリス・ゴドゥノフ

Boris Godunov

●会員先行販売期間：2022年 8/21(日)～ 8/24(水)

オペラパレス | 5回公演 | プロローグ付き全4幕(ロシア語上演/日本語及び英語字幕付) ●一般発売日：2022年 9/ 3(土)

初演：1874年1月27日(ロシア歴)/マリインスキー劇場

作曲：モデスト・ムソルグスキー

原作：プーシキン『ボリス・ゴドゥノフ』およびカラムジン『ロシア国史』に基づく

台本：モデスト・ムソルグスキー

プロダクションについて

『エウゲニ・オネーギン』『夜鳴きうぐいす/イオランタ』に続くロシア・オペラの新制作。ロシア国民楽派「ロシア五人組」のムソルグスキーが完成させた唯一のオペラ『ボリス・ゴドゥノフ』を、ポーランド国立歌劇場との共同制作により、同劇場芸術監督のマリウシュ・トレリンスキの演出で新制作上演します。

『ボリス・ゴドゥノフ』はロシア動乱時代の皇帝ボリス・ゴドゥノフの戴冠から死までを描くプーシキンの戯曲を原作とし、有力者たちの策謀と民衆の叫び、そしてボリスの苦悩がシェイクスピア史劇のように展開する悲劇です。音楽は近代性に満ち、ロシア民謡やロシア正教伝統の教会音楽に基づく斬新な和声が用いられ、ロシア国民音楽の金字塔として燦然と輝く傑作です。

演出を手掛けるトレリンスキは映画監督出身、現代的な解釈と美学で音楽の本質的な美しさを引き出し、欧米で目覚ましい活躍をしている演出家。大野和士芸術監督とのタッグは、トレリンスキがインターナショナル・オペラ・アワード最優秀演出家賞を獲得した世界的話題作『炎の天使』以来となります。タイトルロールには強烈なカリスマ性を誇るロシアのスター歌手ニキティンが本プロダクションのポーランド国立歌劇場公演に続いて出演、シュイスキーには同役でボリショイ劇場、メトロポリタン歌劇場などに次々登場しているマクシム・パステルが出演するなど、強力な布陣で、自らの行為によって追い詰められていくボリス・ゴドゥノフの破滅と権力闘争のドラマをお届けします。

なお、今回の上演では、1869年の原典版と1872年の改訂版を折衷し上演します。

あらすじ

【プロローグ】戴冠式を前に群衆が集まっている。ゴドゥノフは最高位の僧ピーメンと緊張関係にあるが、儀礼的にその指輪に口づけをする。幼いドミトリー皇子の死の幻影に慄くゴドゥノフだが、戴冠式の彼の演説は人々の心を掴む。

【第1幕】6年後。ピーメンは僧グリゴリーに、自分こそ現皇帝に殺害されたドミトリーの生まれ変わり信じ込ませていた。宮殿へ向かうグリゴリーは二人の僧と共に宿屋に立ち寄る。追手が到着するが、僧たちに惨殺される。

【第2幕】ゴドゥノフは数年の支配に疲れ切っている。娘クセニアは婚約者の死を悼み、息子フォードルは、将来の自分の治世の展望を話して、父の涙を誘う。ゴドゥノフの臣下シュイスキーは、皇帝の弱みに付け込むことを思い立ち、ゴドゥノフにウグリッチで目撃したことを克明に語り聞かせる。彼の地での行為を思い起こすゴドゥノフの前に、死んだドミトリーの天使のような姿の幻影が現れる。宮殿に迫るドミトリーの詐称者は、復讐の天使なのだろうか。

【第3幕】ゴドゥノフはまたも悪夢を見る。ウグリッチから来た子供たちがゴドゥノフを取り囲む。フォードルが憎しみに満ちた目で父を見る。父の罪を非難しているのだ。現実にはフォードルは高熱で朦朧とし、「ゴドゥノフがドミトリーを殺害した」という聖愚者による糾弾を繰り返している。

無秩序状態の議会へゴドゥノフが登場。シュイスキーは狂乱寸前の皇帝を嘲笑う。ピーメンが人々の病を癒すという亡きドミトリーの幽霊の話をし、ゴドゥノフを挑発する。ゴドゥノフは苦しみながら己の罪を告白する。そこへドミトリーの名を語る詐称者が登場、議会は混乱に陥る。死を悟ったゴドゥノフはフォードルを呼び、お前がすぐ支配者になるだろうと力づける。

【フィナーレ】集団の暴動が連鎖する中、ドミトリーの詐称者は自らが新たな皇帝であることを宣言する。

(本あらすじは演出に準拠しています)

新国立劇場 開場25周年記念公演

モデスト・ムソルグスキー

ボリス・ゴドゥノフ

Modest MUSSORGSKY / Boris Godunov

プロローグ付き全4幕〈ロシア語上演／日本語及び英語字幕付〉

指揮 Conductor	大野和士 ONO Kazushi
演出 Production	マリウシュ・トレリンスキ Mariusz TRELIŃSKI
美術 Set Design	ボリス・クドルチカ Boris KUDLIČKA
衣裳 Costume Design	ヴォイチェフ・ジエジツ Wojciech DZIEDZIC
照明 Lighting Design	マルク・ハインツ Marc HEINZ
映像 Video Design	バルテック・マシス Bartek MACIAS
ドラマトウルク Dramaturg	マルチン・チェコ Marcin CECKO
振付 Choreographer	マチコ・プルサク Maćko PRUSAK
ヘアメイクデザイン Hair and Make-up Design	ヴァルデマル・ポクロムスキ Waldemar POKROMSKI
ボリス・ゴドゥノフ Boris Godunov	エフゲニー・ニキティン Evgeny NIKITIN
フョードル Fyodor (Feodor)	小泉詠子 KOIZUMI Eiko
クセニア Kseniya (Xenia)	九嶋香奈枝 KUSHIMA Kanae
乳母 Kseniya's nurse	金子美香 KANEKO Mika
ヴァシリイ・シュイスキー公 Prince Vasiliy Shuysky	マクシム・パステル Maxim PASTER
アンドレイ・シチェルカーロフ Andrey Shchelkalov	秋谷直之 AKITANI Naoyuki
ピーメン Pimen	アレクセイ・ティホミーロフ Alexey TIKHOMIROV
女主人 The Innkeeper	清水華澄 SHIMIZU Kasumi
聖愚者 The Yuródiviy	パーヴェル・コルガーティン Pavel KOLGATIN
ニキーティチ Nikitich, a police officer (Hauptmann)	駒田敏章 KOMADA Toshiaki

ミチューハ Mityukha	大塚博章 OTSUKA Hiroaki
侍従 The Boyar in attendance (Leibbojar)	濱松孝行 HAMAMATSU Takayuki

ほか

合唱 Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽 Orchestra	東京都交響楽団 Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra

共同制作：ポーランド国立歌劇場
Co-production with Polish National Opera

2022年	11月	15日(火)14:00	17日(木)19:00
		20日(日)14:00	23日(水・祝)14:00
		26日(土)14:00	

【チケット料金】 S:27,500円 ・ A:22,000円 ・ B:15,400円 ・ C:8,800円 ・ D:5,500円

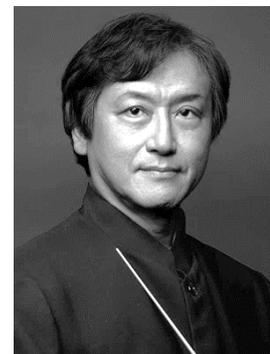
【会場】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:大野和士

Conductor : ONO Kazushi

東京生まれ。東京藝術大学卒。バイエルン州立歌劇場にてサヴァリッシュ、パタネー両氏に師事。1987年トスカニーニ国際指揮者コンクール優勝。世界各地でオペラ公演及びシンフォニーコンサートで聴衆を魅了し続けている。90～96年ザグレブ・フィル音楽監督。96～2002年バーデン州立歌劇場音楽総監督。92～99年、東京フィル常任指揮者を経て、現在同楽団桂冠指揮者。02～08年モネ劇場音楽監督。12～15年アルトゥーロ・トスカニーニ・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者、08～16年フランス国立リヨン歌劇場首席指揮者を歴任。15年から東京都交響楽団、バルセロナ交響楽団音楽監督。22年にはブリュッセル・フィルハーモニック音楽監督に就任予定。オペラでは、07年にミラノ・スカラ座にデビューし、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、バイエルン州立歌劇場、グライントボン音楽祭、エクサンプロヴァンス音楽祭などへ出演。渡邊暁雄音楽基金音楽賞、芸術選奨文部大臣新人賞、出光音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、エクソンモービル音楽賞、サントリー音楽賞、日本芸術院賞ならびに恩賜賞、朝日賞など受賞多数。紫綬褒章受章。文化功労者。17年にはリヨン歌劇場がインターナショナル・オペラ・アワード「最優秀オペラハウス2017」を獲得し、フランス政府より芸術文化勲章オフィシエ、リヨン市からリヨン市特別メダルが授与された。18年9月より新国立劇場オペラ芸術監督。新国立劇場では98年『魔笛』、10～11年『トリスタンとイゾルデ』、19年『紫苑物語』『トゥーランドット』、20年『アルマゲドン』、21年『ワルキューレ』『カルメン』、子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ『Super Angels スーパーエンジェル』、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』を指揮している。22年7月には『ペレアスとメリザンド』を、22/23シーズンは『ラ・ボエーム』も指揮する予定。



演出:マリウシュ・トレリンスキ

Production : Mariusz TRELIŃSKI

ポーランドの演出家。2008年よりポーランド国立歌劇場芸術監督。映画監督出身で古典的美学と現代的な美学、独自の映画的な解釈を持つ。1996年、ワルシャワで『Heartsnatcher』を演出してオペラ演出デビュー。99年にはポーランド国立歌劇場『蝶々夫人』がサンクトペテルブルク、バレンシア、テルアビブと世界各地で上演され、国際的キャリアのスタートとなった。15年、ポーランド歌劇場・モネ劇場共同制作によりアデス作曲『Powder Her Face』を演出。メトロポリタン歌劇場16/17シーズン開幕を飾った『トリスタンとイゾルデ』は、バーデン＝バーデン、ワルシャワ、北京でも上演された。映画学校を卒業し、映画監督として数々の賞を受賞しており、映画では古典の様式や技術を用いながら、革新的な照明やアングルを取り入れる。10年の『椿姫』はボブ・フォッシーの『All That Jazz』へのオマージュとして演出、現代的な鮮やかな解釈で、現代有数の演出家という地位を確固とする作品となった。15年ポーランド国立歌劇場・メトロポリタン歌劇場共同制作『イオランタ／青ひげ公の城』では、ホラー映画風の詩情や視覚を取り入れ独創的なダブルビルを創出。18年エクサンプロヴァンス音楽祭『炎の天使』は表現主義的作品で、一大センセーションを起こした。20年秋にはモネ劇場『死の都』の100周年記念上演で、新型コロナウイルス対策を期すため短期間のうちに映像を撮り直し安全に配慮したステージングを行った。映画監督として、『秋への別れ』でヴェネツィア映画祭金獅子賞ノミネート、ポーランド映画批評家賞などを受賞、オペラでもシマノフスキ賞、インターナショナル・オペラ・アワードなど数々の賞を受賞している。新国立劇場初登場。



ボリス・ゴドゥノフ:エフゲニー・ニキティン(バス・バリトン)

Boris Godunov : Evgeny NIKITIN

ロシア北部ムルマンスク出身。ヘヴィーメタルバンドで作曲、ヴォーカル、ドラマー、ギターとして活躍後オペラ歌手に転向。1992年にサンクトペテルブルク音楽院に入り、在学中にマリンスキー劇場にソリストとして契約、ヨーロッパ、アメリカ、アジアの主要劇場や音楽祭に招かれ、ボリス・ゴドゥノフなどのロシア・オペラとワーグナー作品を中心に世界的な活躍が始まる。メトロポリタン歌劇場へは2002年にデビュー、『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ラインの黄金』ファーズルト、『エレクトラ』オレスト、『ジークフリート』さすらい人などに出演。パリ・オペラ座『サロメ』ヨハナーン、『パルジファル』クリングゾル、『スピードの女王』トムスキー、『神々の黄昏』ギンターなどに、バイエルン州立歌劇場では『パルジファル』クリングゾル、『ローエン格林』テルラムント、『さまよえるオランダ人』オランダ人、『炎の天使』ルプレヒトなどに、ウィーン国立歌劇場『フィデリオ』ドン・ピツァロ、『トスカ』スカルピア、『ローエン格林』テルラムントなどに出演。オランダ人はマドリッド、トロント、パリ、ライブツィヒ、そして新国立劇場でも歌っている。マリンスキー劇場へは大成功を収めた『ボリス・ゴドゥノフ』のほか、『ドン・カルロ』フィリッポ、オランダ人、『ラインの黄金』ヴォータン、『ジークフリート』さすらい人、『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロールなどに出演を重ねている。新国立劇場へは12年『さまよえるオランダ人』以来の登場となる。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

ヴァシリー・シュイスキー公:マクシム・パステル(テノール)

Prince Vasilii Shuysky : Maxim PASTER

ウクライナ生まれ。生地の音楽院で合唱指揮と声楽を学び、2003年にボリショイ劇場でデビュー、04年にアンサンブルに加わる。以後『ボリス・ゴドゥノフ』シュイスキー、『ムツェンスク郡のマクベス夫人』ジノーヴィ、『炎の天使』メフィストフェレス、『マゼッパ』アンドレイ、『マクベス』マクダフ、『蝶々夫人』ピンカートン、『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『さまよえるオランダ人』舵手、『ヴォツェック』大尉など幅広い作品に出演している。ロシア国外ではザルツブルク音楽祭、ベルリン州立歌劇場、英国ロイヤルオペラ、ナポリ・サンカルロ歌劇場、トゥールーズ・キャピトル劇場、アテネ歌劇場などに出演。『ボリス・ゴドゥノフ』シュイスキー役はボリショイ劇場に加えメトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、バイエルン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ザクセン州立歌劇場、サヴォリンナ音楽祭、ブルノ国立歌劇場などで演じている当たり役である。新国立劇場初登場。



ピーメン:アレクセイ・ティホミーロフ(バス)

Pimen : Alexey TIKHOMIROV

ロシア連邦タタール共和国カザン出身。2005年よりヘリコン・オペラソリストとなり数多くの作品に出演する傍ら、ロシアをはじめ各地の歌劇場へ出演。これまでにマルセイユ歌劇場、ポーランド国立歌劇場、ベルギー王立ワロン歌劇場、ボリショイ劇場、サンティアゴ・テアトロ・ムニシパルで『ボリス・ゴドゥノフ』タイトルロール、マドリード・テアトロ・レアルとモネ劇場で『金鶏』ドドン王、テアトロ・ムニシパル『リゴレット』スバラフチーレ、ハンブルク州立歌劇場『タウリスのイフィゲニア』トアス王、オランジュ音楽祭『セビリアの理髪師』バジリオ、テアトロ・ムニシパル『ムツェンスク郡のマクベス夫人』ボリス・チモフェーヴィチ・イズマイロフ、サンパウロ歌劇場『トゥーランドット』ティムール、モンテカルロ歌劇場『群盗』マッシミリアーノ伯爵などに出演。最近では、ジュネーヴ大劇場で『ボリス・ゴドゥノフ』タイトルロールおよびヴァルラム、『ラインの黄金』ファールルト、『ワルキューレ』フンディング、マルセイユ歌劇場『リゴレット』スバラフチーレ、オランジュ音楽祭『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、バーリ・ペトルツェリ劇場『エウゲニ・オネーギン』グレーミン公爵などに出演している。新国立劇場では『エウゲニ・オネーギン』グレーミン公爵に出演した。



聖愚者:パーヴェル・コルガーティン(テノール)

The Yuródiviy : Pavel KOLGATIN

ロシア出身。国立合唱アカデミー在学中にボリショイ劇場ヤングアーティストプログラムに招かれ、『魔笛』タミーノでデビュー。2012年にローマ歌劇場に『魔笛』タミーノでデビュー後、『愛の妙薬』『チェネレントラ』で再登場。モスクワ12月の夜の音楽祭、フランス・コルマー音楽祭、ラインガウ音楽祭、オルデンブルガー・プロムナードなどの音楽祭に出演。10年キッシンガー国際音楽祭ベスト・ヤング・アーティスト賞受賞。ウィーン国立歌劇場には『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオでデビュー後定期的に出演し、『ボリス・ゴドゥノフ』聖愚者、『フィガロの結婚』バジリオ、『ドン・パスクワーレ』エルネスト、『ナクソス島のアリアドネ』ブリゲッタ、『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵など多くの役出演。16年にザルツブルク音楽祭に『ダナエの愛』でデビュー。ザクセン州立歌劇場『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵、ポーランド国立歌劇場には『イタリアのトルコ人』ドン・ナルチーズ、マンハイム国立劇場およびパーゼル歌劇場には『チェネレントラ』ドン・ラミーロで出演した。18/19シーズンはサンカルロ歌劇場で『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランド、ウィーン国立歌劇場『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵などに出演したほか、スカラ座へ『ナクソス島のアリアドネ』ブリゲッタでデビューした。最近の出演にウィーン国立歌劇場『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵、『エウゲニ・オネーギン』トリケ、ザンクトガレン歌劇場『魔笛』タミーノなどがある。新国立劇場では『エウゲニ・オネーギン』レンスキーに出演した。



ドン・ジョヴァンニ

Don Giovanni

オペラパレス | 5回公演 | 全2幕<イタリア語上演/日本語及び英語字幕付>

●会員先行販売期間: 2022年 9/18(日)~ 9/21(水)

●一般発売日: 2022年 10/1(土)

初演:1787年10月29日/プラハ国立劇場

作曲:ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

台本:ロレンツォ・ダ・ポンテ

プロダクションについて

人々を魅了してやまない稀代のプレイボーイ、ドン・ジョヴァンニの華麗なる恋の遍歴と衝撃的な最期を描いた、モーツァルトの人気作。娘を誘惑してその父親を殺し、石像として現れた父親の幽霊に地獄へ連れていかれる伝説の色事師“ドン・ファン伝説”をもとにした、劇的で疾走感に満ちた展開のオペラです。デモーニッシュな魅力あふれる主人公と憎めない性格の従者レポレッコ、対する女性達の数々の美しいアリアで綴られ、石像との息詰まる対決とそれに続くラストの地獄落ちは、圧巻のクライマックスです。アサガロフ演出は主人公を18世紀に実在した色男カサノヴァになぞらえ、舞台をヴェネツィアに移しています。

指揮には名匠パオロ・オルミ、タイトルロールにはイタリアの実力派シモーネ・アルベルギーニ、ドンナ・アンナに柔軟な美声でミラノ・スカラ座、ウィーン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場など著名劇場を席卷するエレオノーラ・ブラット、ドンナ・エルヴィーラにウィーン国立歌劇場や英国ロイヤルオペラで活躍するメゾのスター、セレーナ・マルフィ、レポレッコにモーツァルトやバロックで活躍するレナート・ドルチーニ、ドン・オッターヴィオには大躍進中のテノールのジョヴァンニ・サラが出演する、贅沢な顔合わせとなりました。



2019年公演より

あらすじ

【第1幕】従者レポレッコを引き連れ、夜な夜な女性の家へ忍び込む、稀代の色男ドン・ジョヴァンニ。今宵はドンナ・アンナの部屋へ行くが、彼女の父親である騎士長に見つかって決闘となり騎士長を刺し殺してしまう。アンナは婚約者ドン・オッターヴィオに、犯人を探して復讐してほしいと求める。ジョヴァンニは通りすがりの女性に声をかけるが、それは昔の女ドンナ・エルヴィーラ。彼女はジョヴァンニに捨てられてもまだ彼を愛し、彼を探していたのだ。ジョヴァンニは大慌てで逃げる。後を託されたレポレッコは彼女に、ジョヴァンニはヨーロッパじゅうの2000人もの女性と関係しているのだから諦めるよう諭す。村で農夫マゼットと村娘ツェルリーナの結婚式が始まろうというとき、ジョヴァンニが現れて花嫁を誘惑するが、すんでのところエルヴィーラが止める。アンナは犯人探しの協力をジョヴァンニに求めるが、話すうち彼こそ犯人だと気づく。村人たちを招いてパーティを開くジョヴァンニは上機嫌。そんな彼をアンナたちは追及する。

【第2幕】ジョヴァンニはレポレッコと服を交換して変装し、エルヴィーラの小間使いを誘惑。マゼットと農民たちはジョヴァンニを殺そうとやってくるが、ジョヴァンニ扮するレポレッコに計画を話してしまい、逆に痛めつけられる。彼の服を着たレポレッコは命からがら逃げてきて、ジョヴァンニと落ち合う。すると、騎士長の墓の石像が、戒めの言葉を喋り出す。驚く2人だが、ジョヴァンニは臆せず石像を晚餐に招待する。夜、彼の家に本当に石像がやってきた。石像はジョヴァンニに悔い改めるよう迫るが、彼は拒否。石像はジョヴァンニの手を取って炎の中へ引きずり込み、地獄へと落ちるのだった。

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

ドン・ジョヴァンニ

Wolfgang Amadeus MOZART / Don Giovanni

全2幕(イタリア語上演/日本語及び英語字幕付)

指揮 Conductor	パオロ・オルミ Paolo OLMI
演出 Production	グリシャ・アサガロフ Grischa ASAGAROFF
美術・衣裳 Set and Costume Design	ルイジ・ペーレゴ Luigi PEREGO
照明 Lighting Design	マーティン・ゲブハルト Martin GEBHARDT
ドン・ジョヴァンニ Don Giovanni	シモーネ・アルベルギーニ Simone ALBERGHINI
騎士長 Il Commendatore	河野鉄平 KONO Teppei
レポレツロ Leporello	レナート・ドルチャーニ Renato DOLCINI
ドンナ・アンナ Donna Anna	エレオノーラ・ブラット Eleonora BURATTO
ドン・オッターヴィオ Don Ottavio	ジョヴァンニ・サラ Giovanni SALA
ドンナ・エルヴィーラ Donna Elvira	セレーナ・マルフィ Serena MALFI
マゼット Masetto	近藤 圭 KONDO Kei
ツェルリーナ Zerlina	石橋栄実 ISHIBASHI Emi
合唱 Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽 Orchestra	東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra

2022年	12月	6日(火) 18:30	8日(木) 14:00
		10日(土) 14:00	11日(日) 14:00
		13日(火) 14:00	

【チケット料金】 S:24,200円 ・ A:19,800円 ・ B:13,200円 ・ C:7,700円 ・ D:4,400円

【会場】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:パオロ・オルミ

Conductor : Paolo OLMI

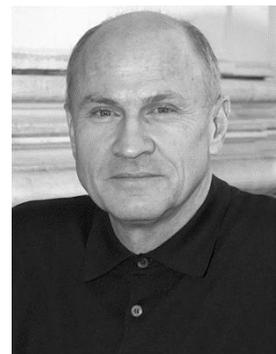
ローマでマッシモ・ブラデッラとフランコ・フェラーラのもとで指揮を学ぶ。1986年にボローニャ歌劇場でオペラ指揮者としてデビュー。その後、ミラノ・スカラ座、ローマ歌劇場、フェニーチェ歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、英国ロイヤルオペラ、ザクセン州立歌劇場、ブエノスアイレスのコロン劇場など世界各地で活躍。90年から93年までRAI交響楽団音楽監督、2006年から11年までナンシー歌劇場と同交響楽団の音楽監督。サンタ・チェチーリア管弦楽団、フランス国立管弦楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団、BBC交響楽団、RAI交響楽団などオーケストラとの活動も多い。近年では、ベルリン・ドイツ・オペラで『ファルスタッフ』『エルサレム』『アドリアーナ・ルクヴール』、ボルドー歌劇場『愛の妙薬』『仮面舞踏会』『セビリアの理髪師』、サヴォンリナ・オペラ・フェスティバル『アイダ』『ルチア』などを指揮。最近のオペラでは、ボルドー歌劇場『セミラミデ』、トゥーロン歌劇場『椿姫』、マシー歌劇場『アイダ』、オマーンでのローマ歌劇場『道化師』、香港オペラ『トゥーランドット』『リゴレット』などを指揮している。新国立劇場には、99年『仮面舞踏会』、01年『ナブッコ』、02年『ルチア』、10年『愛の妙薬』を指揮して以来の登場。



演出:グリシャ・アサガロフ

Production : Grischa ASAGAROFF

ドイツのジーゲン生まれ。ミュンヘン大学で音楽と演劇を学ぶ。1966年よりバイエルン州立歌劇場で舞台監督、演出助手の仕事を始め、ドルトムント歌劇場、ライン・ドイツ・オペラなどで助手を務め、ギュンター・レンネルト、ジャン＝ピエール・ポネルなどのもとで研鑽を積みながら国際的な活動をスタート。82年からチューリヒ歌劇場、86年からウィーン国立歌劇場首席演出家を務め、2012年までチューリヒ歌劇場芸術監督。新国立劇場では04年『カヴァレリア・ルスティカーナ/道化師』、06年『イドメネオ』、08年『ドン・ジョヴァンニ』の演出を手がけるほか、09年ポネル演出の『チェネレントラ』では、再演演出および演技指導で参加している。



ドン・ジョヴァンニ:シモーネ・アルベルギーニ(バス・バリトン)

Don Giovanni : Simone ALBERGHINI

ボローニャ生まれ。1993年トリノ王立歌劇場でデビュー後、イタリア内外の歌劇場に出演。ロッシニ・オペラ・フェスティバルには『オテロ』『タンクレディ』『泥棒かささぎ』『ギョーム・テル』など数多く出演。グラインドボーン音楽祭、ローマ歌劇場、マチュエラータ音楽祭、ナポリ・サンカルロ歌劇場、ワシントン・オペラなどに出演を重ね、2010年にはウィーン国立歌劇場『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、フェニーチェ歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、トリノ王立歌劇場『蝶々夫人』シャープレスに出演した。これまでにボローニャ歌劇場、バルセロナ・リセウ大劇場、トリノ王立歌劇場、チューリヒ歌劇場などで『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、『ラ・ボエーム』マルチェッロ、『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、『カルメン』エスカミーリョなどに出演している。最近ではテネリフェ・オペラ『ドン・カルロ』ロドリゴ、ボローニャ歌劇場『シモン・ボッカネグラ』パオロ・アルピアーニ、トリノ王立歌劇場、パレルモ・マッシモ劇場『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、ナポリ・サンカルロ歌劇場『ラ・ボエーム』マルチェッロ、ボローニャ歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、フェニーチェ歌劇場『アルジェのイタリア女』ムスタファ、『椿姫』ジェルモンなどに出演している。新国立劇場初登場。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

レポレロ:レナート・ドルチーニ(バリトン)

Leporello : Renato DOLCINI

ミラノ生まれ。2015年にウィリアム・クリスティの "声の庭"第7期に選抜され、ヨーロッパ、アメリカ、ロシア、オーストラリア、アジアツアーに参加。これまでにヴェネツィア・フェニーチェ歌劇場制作のカルダーラ作曲『ダフネ』、ジョン・エリオット・ガーディナー指揮オール・モンテヴェルディ・プログラム、ロワイモヨン修道院での『フィガロの結婚』フィガロ、ミラノとフィレンツェで『ドン・ジョヴァンニ』レポレロ、ヴェルサイユ歌劇場、ボルドー歌劇場でロッシ作曲『オルフェオ』サティエロ、ナント歌劇場『ポッペアの戴冠』オットーネ、クリスティ指揮レザール・フロリサン『ディドとエネアス』のアメリカツアーに出演するなど、特にバロック作品やモーツァルトで活躍。最近では、ザルツブルク音楽祭のクリスティ指揮『ポッペアの戴冠』セネカ、フランス・ペリグーで『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモ、レザール・フロリサンの『ヨハネ受難曲』パリ公演及びヨーロッパツアー、イスラエル・オペラ『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモ、ミラノ・スカラ座『ジュリオ・チェザレ』ニレーノ、ジュネーヴ大劇場『優雅なインドの人々』ペロース/オスマン/アダリオ、ハンブルク州立歌劇場『オレスト』トアンテ、ウェールズ・ナショナル・オペラ『アリオダンテ』スコットランド王などに出演している。新国立劇場初登場。



ドンナ・アンナ:エレオノーラ・ブラット(ソプラノ)

Donna Anna : Eleonora BURATTO

イタリア・マントヴァ生まれ。2009年、ザルツブルク音楽祭に『デモフォンテ』クレウザでデビューし、11年、マドリッド・テアトロ・レアル、ザルツブルク音楽祭などでムーティ指揮『二人のフィガロ』スザンナに出演。12年にはローマ歌劇場『シモン・ボッカネグラ』アメリア、13年にテアトロ・レアル、ローマ歌劇場『ドン・パスクワレ』ノリーナに出演した。これまでにローマ歌劇場、ナポリ・サンカルロ歌劇場、テアトロ・レアル、チューリヒ歌劇場、ザルツブルク音楽祭、ラヴェンナ音楽祭などで、『トゥーランドット』リユー、『フィガロの結婚』伯爵夫人、『ファルスタッフ』ナンネッタとアリーチェ、『愛の妙薬』アディーナ、『コジ・ファン・トゥッテ』デスピーナなどに出演している。最近では、バルセロナ・リセウ大劇場、ナポリ・サンカルロ歌劇場『ラ・ボエーム』ミミ、ミラノ・スカラ座『フィガロの結婚』伯爵夫人、スカラ座、トリノ王立歌劇場『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージ、リヨン歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、テアトロ・レアル、ヴェローナ野外音楽祭、英国ロイヤルオペラ『カルメン』ミカエラ、パレルモ・マッシモ劇場『イドメネオ』エレットラ、ウィーン国立歌劇場『シモン・ボッカネグラ』アメリア、バルセロナ・リセウ大劇場『ルイザ・ミラー』タイトルロール、メトロポリタン歌劇場『トゥーランドット』リユー、バイエルン州立歌劇場『オテロ』デズデーモナなどに出演。新国立劇場初登場。



ドン・オッターヴィオ:ジョヴァンニ・サラ(テノール)

Don Ottavio : Giovanni SALA

イタリア・レッコ出身のテノール。コモのヴェルディ音楽院で音楽を学び、AsLiCoコンクールに優勝して、2014年コモ劇場『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオ、『愛の妙薬』ネモリーノに出演してデビュー。14/15シーズンにはフェッラーラ歌劇場とラヴェンナ音楽祭にムーティ指揮のもと『ファルスタッフ』フェントンでデビュー。ミラノ・スカラ座のアカデミーで入賞し、『魔笛』タミーノに出演。ミラノのカテドラルで、後にミラノのEXPO2015でロシーニの『エジプトのモーゼ』アウフィーデに出演。ラヴェンナ音楽祭およびサヴォンリナ音楽祭で『マクベス』マルコム、スカラ座、ジェノヴァ歌劇場、トリエステ・ヴェルディ劇場で『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランド、ラヴェンナ音楽祭『道化師』ペッペなどに出演。最近では、ナポリ・サンカルロ歌劇場の『ドン・ケッコ』、マチェラータ音楽祭『魔笛』タミーノ、パルマ王立歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオ、パレルモ・マッシモ劇場『イドメネオ』アルパーチェ、ヴェローナ歌劇場『ジャンニ・スキッキ』リヌッチョ、マチェラータ音楽祭『マクベス』マクダフ、パレルモ・マッシモ劇場『ファルスタッフ』フェントン、『ラ・ボエーム』ロドルフォ、マチェラータ音楽祭『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオ、トリノ王立歌劇場『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランドに出演するなど、イタリアの主要歌劇場で躍進中。新国立劇場初登場。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

ドンナ・エルヴィーラ:セレーナ・マルファイ(メゾソプラノ)

Donna Elvira : Serena MALFI

イタリアのメゾソプラノ。サンタ・チェチーリア音楽院で学び、2009年にスイス・ヴィンタートゥール音楽祭でサリエリ作曲『トロフォーニオの洞窟』でデビュー。以来チューリヒ歌劇場、フィレンツェ歌劇場、ローマ歌劇場、マドリッド・テアトロ・レアル、パリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、英国ロイヤルオペラ、バイエルン州立歌劇場、メトロポリタン歌劇場などへ出演。キャリア初期から歌っている『チェネレントラ』アンジェリーナは、パレンシア・ソフィア王妃芸術宮殿、パリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場、ナポリ・サンカルロ歌劇場、ローザンヌ歌劇場、ローマ歌劇場などで出演。テアトロ・レアルに『皇帝ティートの慈悲』アンニオでデビューし、同役でウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場に出演。『フィガロの結婚』ケルビーノはウィーン国立歌劇場でロールデビュー後、テアトロ・コロネ、マスカット・ロイヤルオペラ、メトロポリタン歌劇場で出演。重要なレパートリーに10/11シーズンにチューリヒ歌劇場デビューを飾った『セビリアの理髪師』ロジーナがあり、同役は英国ロイヤルオペラ、テアトロ・レアル、カナディアン・オペラ・カンパニーでも歌っている。ミラノ・スカラ座には『コジ・ファン・トゥッテ』でデビュー。ザクセン州立歌劇場『アルチーナ』ルッジェーロ、メトロポリタン歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』などに出演。新国立劇場初登場。



マゼット:近藤 圭(バリトン)

Masetto : KONDO Kei

国立音楽大学卒業。同大学院を首席で修了。新国立劇場オペラ研修所第9期修了。ロームミュージックファンデーション奨学生として、ドイツ・ハンブルクに留学。沼尻竜典指揮トウキョウ・モーツァルトプレーヤーズ定期公演で『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、『フィガロの結婚』伯爵役で2年連続出演。小澤征爾指揮『子供と魔法』時計、東京二期会『ナクソス島のリアドネ』ハレルキン、日生劇場『リア』フランス国王、『ラ・ボエーム』ショナール、グランドオペラ共同制作『カルメン』モラレスなどに出演。2019年は東京芸術劇場『ドン・ジョヴァンニ』マゼット、小澤征爾音楽塾『カルメン』ダンカイトに出演している。新国立劇場には16年『魔笛』パパゲーノに急遽出演して本格的にデビューし、20年『夏の夜の夢』ディミートリアス、高校生のためのオペラ鑑賞教室2020（ロームシアター京都公演）『魔笛』パパゲーノに出演している。本年4月の『魔笛』パパゲーノにも出演予定。二期会会員。



ツェルリーナ:石橋栄実(ソプラノ)

Zerlina : ISHIBASHI Emi

大阪音楽大学専攻科修了。咲くやこの花賞、大阪舞台芸術奨励賞、音楽クリエイティブクラブ奨励賞、酒井時忠音楽賞を受賞。98年ドイツ・ケムニッツ市立劇場『ヘンゼルとグレーテル』グレーテルで招聘出演。以来『イドメネオ』イーリア、『フィガロの結婚』スザンナ、『魔笛』パミーナ、『愛の妙薬』アディーナ、『ランスへの旅』コルターゼ夫人、『ファルスタッフ』ナンネッタ、『こうもり』アデーレ、『欲望という名の電車』ステラ、モノオペラ『声』ほか出演多数。新国立劇場では05年地域招聘公演『沈黙』及び12・15年『沈黙』オハル、13・14年高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演『夕鶴』つう、16年『ラ・ボエーム』ムゼッタ、18年『フィデリオ』マルツェリーネ、21年『カルメン』（高校生のためのオペラ鑑賞教室公演、びわ湖ホール公演）ミカエラに出演。オハル役で出演した大阪音楽大学ザ・カレッジ・オペラハウス『沈黙』公演は文化庁芸術祭大賞、大阪文化祭賞グランプリほかを受賞。大阪音楽大学教授。



タンホイザー

Tannhäuser

オペラパレス | 5回公演 | 全3幕(ドイツ語上演/日本語及び英語字幕付)

●会員先行販売期間: 2022年11/5(土)~11/8(火)

●一般発売日: 2022年11/26(土)

初演: 1845年10月19日/ドレスデン宮廷劇場(現: ザクセン州立歌劇場)

作曲・台本: リヒャルト・ワーグナー

プロダクションについて

中世のタンホイザー伝説とヴァルトブルクの歌合戦伝説に題材を取った、ワーグナー中期の人気作。官能の愛と精神的な愛の間で揺れる騎士タンホイザーの苦闘と救済を描き、単独で演奏されることも多い有名な序曲、官能的なバレエ、敬虔な調べを奏でる巡礼の合唱、雄大壮麗な大行進曲、高らかな歌合戦の場など、オペラならではのスペクタクルの詰まった祝祭的作品で、ワーグナーの中でも広く人気を獲得している作品です。エリーザベットの「歌の殿堂」、ヴォルフラムの「夕星の歌」、タンホイザーの「ローマ語り」など、歌手の力量を存分に味わえる聴きどころにも枚挙に暇がありません。

新国立劇場開場10周年記念シーズンである2007/2008シーズンの開幕作品として新制作上演したレーマン演出のプロダクションは、幻想と現実を効果的に行き来する美しい舞台でワーグナーの世界を堪能できると好評を博したものです。

指揮にはフランダース歌劇場音楽監督を務めるなどヨーロッパの歌劇場で活躍し、来日も多い俊英アレホ・ペレスが登場、タイトルロールには世界最高峰のヘルデンテノールとして絶大な人気を博すステファン・グールド、エリーザベトにドラマティックな役柄で欧米の劇場で活躍中のソプラノ、サビーナ・ツヴィラク、ヴェーヌスにリトアニアの若手メゾ、エグレ・シドラウスカйте、ヴォルフラムには幅広く活躍するカナダのバリトン、ダニエル・オクリッチが出演します。



2019年公演より

あらすじ

【第1幕】中世のドイツ。騎士タンホイザーは、禁断の地ヴェーヌスベルクで愛欲の女神ヴェーヌスの虜となっていた。やがてこの歓楽の日々にも飽き、引き止めようとする女神の誘惑を振り切って人間世界に戻る。通りかかった巡礼一行の歌声に心を動かされタンホイザーは贖罪を誓う。そこで狩りに向かうかつての仲間に出会い、「エリーザベトのもとにとどまれ」の一言でヴァルトブルク城へ共に帰って行く。

【第2幕】ヴァルトブルク城、歌の殿堂の大広間でタンホイザーはエリーザベトとの再会を喜び、歌合戦に参加することとなる。領主ヘルマンからの歌合戦の課題は「愛の本質」を明らかにすること。かつての同僚ヴォルフラムは愛を清らかな“奇跡の泉”にたとえ、他の騎士たちも精神的な愛を讃える歌を歌う。タンホイザーはこれに反論し、愛の本質は官能の愛であると〈ヴェーヌス賛歌〉を歌い上げたため、ヴェーヌスベルクにいたことが人々に露見してしまう。騎士たちはタンホイザーを殺そうとするが、エリーザベトは「信仰の勇気が、この人にも与えられますように」と願う。このとりなしによって領主ヘルマンは、タンホイザーにローマ法王のもとへ贖罪の巡礼に出るよう命じるのだった。

【第3幕】エリーザベトはタンホイザーの救済を祈っているが、ローマからの巡礼の中に彼の姿はない。エリーザベトは自らの命と引き換えにタンホイザーの救済を聖母に願う。そこに現れたタンホイザーは、ローマで自分だけ許しを与えられなかった様子を語る。自暴自棄になったタンホイザーはヴェーヌスベルクへの誘惑に今一度身を任せようとするが、エリーザベトの死によってその魂は救済される。「エリーザベトよ、わがために祈れ」と叫んで息絶えるタンホイザーに、神の恩寵をたたえる合唱が響く。

リヒャルト・ワーグナー

タンホイザー

Richard WAGNER / Tannhäuser

全3幕(ドイツ語上演/日本語及び英語字幕付)

指揮 Conductor	アレホ・ペレス Alejo PÉREZ
演出 Production	ハンス＝ペーター・レーマン Hans-Peter LEHMANN
美術・衣裳 Set and Costume Design	オラフ・ツオンベック Olaf ZOMBECK
照明 Lighting Design	立田雄士 TATSUTA Yuji
振付 Choreographer	メメット・バルカン Mehmet BALKAN
領主ヘルマン Hermann	妻屋秀和 TSUMAYA Hidekazu
タンホイザー Tannhäuser	ステファン・グールド Stephen GOULD
ヴォルフラム Wolfram von Eschenbach	ダニエル・オクリッチ Daniel OKULITCH
ヴァルター Walther von der Vogelweide	鈴木 准 SUZUKI Jun
ビーテロルフ Biterolf	青山 貴 AOYAMA Takashi
ハインリヒ Heinrich der Schreiber	今尾 滋 IMAO Shigeru
ラインマル Reinmar von Zweter	後藤春馬 GOTO Kazuma
エリーザベト Elisabeth	サビーナ・ツヴィラク Sabina CVILAK
ヴェーヌス Venus	エグレ・シドラウスカイト Eglè ŠIDLAUSKAITÉ
合唱 Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽 Orchestra	東京交響楽団 Tokyo Symphony Orchestra

ほか

2023年	1月	28日(土)14:00	31日(火)14:00
	2月	4日(土)14:00	8日(水)17:00
		11日(土・祝)14:00	

【チケット料金】 S:27,500円 ・ A:22,000円 ・ B:15,400円 ・ C:8,800円 ・ D:5,500円

【会場】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:アレホ・ペレス

Conductor : Alejo PÉREZ

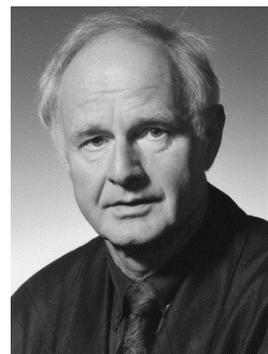
ブエノスアイレス出身。オペラとコンサートで国際的に活躍する指揮者。生地で作曲、指揮、ピアノを学ぶ。2009年から12年までラプラタ・アルゼンチン劇場音楽監督。10年からマドリッド・テアトロ・レアルの主要指揮者の一人として、『リエンツィ』『ドン・ジョヴァンニ』『ヴェニスに死す』などを指揮。また、リヨン歌劇場『ペレアスとメリザンド』『The Stigmatized』『GerMANIA』『From the House of the Dead』、ローマ歌劇場『チェネレントラ』『鼻』『ルル』『炎の天使』などのほか、パリ・オペラ座、フランクフルト歌劇場、シュトゥットガルト歌劇場、ライプツィヒ歌劇場、ノルウェー国立オペラ、ポーランド国立歌劇場、モネ劇場などに登場。近年では、ザルツブルク音楽祭にグノー『ファウスト』でウィーン・フィルを指揮して登場、コロソ劇場『パルジファル』『ばらの騎士』、ザクセン州立歌劇場『カルメン』、シカゴ・リリック・オペラ『エウゲニ・オネーギン』を指揮した。21/22シーズンにはジュネーヴ大劇場に『戦争と平和』でデビュー、ウィーン国立歌劇場に『カルメン』でデビュー。19/20シーズンからはフランダース・オペラ音楽監督となり、同劇場で『ペレアスとメリザンド』『ローエングリン』『ドン・カルロ』、シュレーカー『ヘントの鍛冶屋』などを指揮、21/22シーズンは『ナクソスのアリアドネ』『La nuova Euridice secondo Rilke』『C(h)œurs』、ベルリオズ『ロメオとジュリエット』を指揮する。18年には二期会『魔弾の射手』を指揮した。東京都交響楽団、フィルハーモニア管弦楽団、スイス・ロマンド管弦楽団、ソウル・フィル、読売日本交響楽団、ハンブルク・フィルなど世界各地のオーケストラに客演。新国立劇場初登場。



演出:ハンス=ペーター・レーマン

Production : Hans-Peter LEHMANN

ドイツ・カッセル生まれ。デトモルトで音楽を、ベルリンで美術史と演劇学を学ぶ。1958年ベルリン州立歌劇場でK.エーバルトの助手を、60年から73年までパイロイト音楽祭でヴィーラント・ワーグナー及びヴォルフガング・ワーグナーの助手を務める。80年より2001年まで、ハノーファー州立歌劇場総監督を務め『ニュルンベルクのマイスタージンガー』『トスカ』『アイダ』『ヴォツェック』など数多くの作品を手がける。01年よりフリーの演出家として活躍し、世界各地のオペラハウスやフェスティバルで作品を発表している。今までに『ラインの黄金』『ワルキューレ』『トリスタンとイゾルデ』『リゴレット』『魔笛』『仮面舞踏会』などを演出した。新国立劇場では02年『ナクソスのアリアドネ』、04年『エレクトラ』に続いて、07年『タンホイザー』が3作目となった。



領主ヘルマン:妻屋秀和(バス)

Hermann : TSUMAYA Hidekazu

東京藝術大学卒業、同大学大学院オペラ科修了。1994～2001年ライプツィヒ歌劇場、02年～11年ワイマールのドイツ国民劇場専属歌手。これまでにベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、スコティッシュ・オペラなどに出演。欧州、日本でモーツァルト、ロッシーニ、ヴェルディ、プッチーニ、ワーグナー、R.シュトラウス等のオペラの主要な役を80役以上演じており、新国立劇場では『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、『セビリアの理髪師』ドン・バジリオ、『アイダ』ランフィス、『ナブッコ』ベルの祭司長、『夜叉ヶ池』鉦蔵、『リゴレット』スバラフチーレ、『ヴォツェック』医者、『アラベッラ』ヴァルトナー伯爵、『ドン・カルロ』宗教裁判長、『マノン・レスコー』ジェロント、『ばらの騎士』警部、『ラインの黄金』ファフナー、ファーフルト、『魔笛』ザラストロ、『ルチア』ライモンドなど出演多数。18/19シーズンは『ファルスタッフ』ピストーラ、『タンホイザー』領主ヘルマン、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、『トゥーランドット』ティムール、20/21シーズン『夏の夜の夢』クインス、『フィガロの結婚』バルトロ、『イオランタ』ルネ、『ドン・カルロ』フィリッポ二世、『カルメン』スニガに出演。21/22シーズンは『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ハンス・フォルツ、『さまよえるオランダ人』ダーラントにも出演。22年4月には『ばらの騎士』オックス男爵、7月には『ペレアスとメリザンド』アルケルに出演予定。22/23シーズンは『アイダ』ランフィス、『リゴレット』スバラフチーレにも出演予定。二期会会員。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

タンホイザー:ステファン・ゲールド(テノール)

Tannhäuser : Stephen GOULD

アメリカ・ヴァージニア州生まれ。ウィーン国立歌劇場、ザクセン州立歌劇場、パイロイト音楽祭、バイエルン州立歌劇場、メトロポリタン歌劇場をはじめ、パリ、ロンドン、ローマ、パレルモ、ベルリン、ハンブルクなどヨーロッパ各地の歌劇場で活躍。『フィデリオ』フロレスタン、『ローエングリン』『タンホイザー』『ジークフリート』『パルジファル』タイトルロール、『神々の黄昏』ジークフリート、『トリスタンとイゾルデ』トリスタンなどをレパートリーとする。2021年夏にはパイロイト音楽祭『タンホイザー』『パルジファル』及び子供のためのワーグナー『トリスタンとイゾルデ』に出演、21年秋には延期されたザルツブルク・イースター音楽祭の『ワルキューレ』に出演。今後の予定に、ドレスデン、ベルリンで『タンホイザー』、ミラノ・スカラ座『ナクソス島のアリアドネ』などがある。新国立劇場では06年及び18年『フィデリオ』フロレスタン、09年『オテロ』タイトルロール、10~11年『トリスタンとイゾルデ』トリスタンに出演。さらに15年『ラインの黄金』ローグ、16年『ワルキューレ』ジークムント、17年6月『ジークフリート』タイトルロール、10月『神々の黄昏』ジークフリートと「ニーベルングの指環」全4作品に出演して絶賛を博した。



ヴォルフラム:ダニエル・オクリッチ(バス・バリトン)

Wolfram von Eschenbach : Daniel OKULITCH

カナダ出身。バズ・ラーマン演出『ラ・ボエーム』初演のショナールで注目を集める。モーツァルト、特に『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵とフィガロでニューヨーク・シティ・オペラ、ブエノスアイレス・コロロン劇場、ロサンゼルス・オペラ、サンタフェ・オペラ、パームビーチ・オペラ、バンクーバー・オペラなどに出演を重ねる。現代作品も得意で、マドリッド・テアトロ・レアル、ニューヨーク・シティ・オペラ『ブローックバック・マウンテン』（ウォリネン作曲）イニス、シャトレ座、ロサンゼルス・オペラ『ザ・フライ』（ハワード・ショア作曲）セス・ブランドル、セントルイス・オペラ『ゴールデン・チケット』（アッシュ作曲）ウィリー、イングリッシュ・ナショナル・オペラ『マーニー』（ミュリー作曲）世界初演のマーク、モントリオール・オペラとフォートワース・オペラで『JFK』（リトル作曲）リンドン・ジョンソン、サンタフェ・オペラ『ドクター・アトミック』グローブス將軍などに出演した。最近では、ミシガン・オペラ『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、モントリオール・オペラ『リトゥン・オン・スキン』、ボリショイ劇場『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロールに出演。チューリヒ歌劇場に『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロールでデビュー予定。新国立劇場初登場。



ヴァルター:鈴木 准(テノール)

Walther von der Vogelweide : SUZUKI Jun

東京藝術大学大学院にて音楽博士号取得。松田トシ賞、アカンサス音楽賞、三菱地所賞受賞。2010年度に同大学の特別研究員として渡英。これまでに『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオ、『魔笛』タミーノ、『後宮からの逃走』ベルモンテ、一柳慧『愛の白夜』ヨーニスなどに出演したほか、ブリテン『カーリヤー・リヴァー』狂女役をロンドン、オーフォードで演じ好評を得た。14年にはびわ湖ホール『死の都』にバウル役で出演し絶賛される。15年には神奈川県民ホール『金閣寺』柏木に出演。新国立劇場では『魔笛』タミーノ、『夕鶴』与ひょう、『沈黙』モキチ、『タンホイザー』ハインリヒ、『鹿鳴館』久雄、『パルジファル』小姓、『フィデリオ』ジャキーノ、『タンホイザー』ヴァルター、演奏会形式『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランドに出演。21/22シーズンは『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ウルリヒ・アイスリンガー、『さまよえるオランダ人』舵手に出演したほか、『魔笛』タミーノにも出演予定。松本隆現代語訳によるCD「冬の旅」「白鳥の歌」をリリース。二期会会員。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

ピーテロルフ:青山 貴(バリトン)

Biterolf : AOYAMA Takashi

東京藝術大学卒業、同大学大学院修了。二期会オペラスタジオ第44期マスタークラス修了。新国立劇場オペラ研修所第4期修了。文化庁、ローム ミュージック ファンデーションの奨学金を得てボローニャ、ミラノで研鑽を積む。第19回五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。第4回マグダ・オリヴェーロ国際コンクールファイナリスト。これまでに二期会『仮面舞踏会』レナート、『ナブッコ』タイトルロール、日生劇場『ドン・ジョヴァンニ』レポレッコ、『セビリアの理髪師』フィガロ、『魔笛』パパゲーノ、びわ湖ホール『さまよえるオランダ人』オランダ人、『ラインの黄金』ヴォータン、『ワルキューレ』ヴォータン、『ジークフリート』さすらい人などに出演。新国立劇場では『カルメン』モラレス、『黒船-夜明け』第二の浪人/漁師、『トゥーランドット』官吏、『ホフマン物語』シュレーミル、高校生のためのオペラ鑑賞教室『トスカ』スカルピア、同『ラ・ボエーム』マルチェッロ、同『蝶々夫人』シャープレス、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』フリッツ・コートナーなどに出演している。二期会会員。



エリーザベト:サビーナ・ツヴィラク(ソプラノ)

Elisabeth : Sabina CVILAK

スロヴェニア・マリボル生まれ。2003年ハンブルク州立歌劇場に『トゥーランドット』リユーでデビュー、04/05シーズンにはウィーン国立歌劇場の専属歌手となり多くの作品に出演。その後フリーとなり、トリエステ、ケルン、ワシントン、カーディフ、ロサンゼルス、バレンシア、香港、ベルリン、ボローニャ、マルメ、ヴィースバーデンなどで『ラ・ボエーム』ミミ、『カルメン』ミカエラ、『トゥーランドット』リユー、『タンホイザー』エリーザベト、『ワルキューレ』ジークリンデ、『エウゲニ・オネーギン』タチアーナ、『売られた花嫁』タイトルロール、『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージ、『カーチャ・カバノヴァ』『イエヌーファ』タイトルロールほかで出演している。コンサートでも活躍し、モンテカルロ、ヴィースバーデン、ドレスデン、フランクフルト、パリ、ニューヨーク、ロンドン、アムステルダム、イスタンブール、トリノなどで、ブリテン『戦争レクイエム』、R.シュトラウス『四つの最後の歌』、ドヴォルザーク『スターバト・マーテル』、ブラームスの『レクイエム』などに出演している。新国立劇場初登場。



ヴェーヌス:エグレ・シドラウスカイト(メゾソプラノ)

Venus : Eglė ŠIDLAUSKAITĖ

リトアニア生まれ。当地の音楽アカデミーで学んだ後、ミラノ・ヴェルディ音楽院に学ぶ。カーディフ国際声楽コンクールに出場の他、多くのコンクールで優勝している。カッセル歌劇場、フライブルク歌劇場などに出演後ヴィリニウス・リトアニア国立歌劇場にて『ドン・カルロ』エボリ公女、『カプレーティとモンテッキ』ロメオ、ラミンタ・シェークシュニテの『マリアの5つの奇跡』マリアなどに出演、『ドン・カルロ』のエボリ公女役ではリトアニアで舞台芸術の最高賞であるリトアニア・ゴールデン・クロスを受賞し、2016年にはリトアニア・オペラ賞のアーティスト・オブ・ザ・イヤーを受賞した。ほかにもラトヴィア国立オペラ(リガ)、エストニア国立オペラ(タリン)、ミラノ・イタリア歌劇団などで『ドン・カルロ』エボリ公女、『カルメン』タイトルロール、『イル・トロヴァトーレ』アズチーナほかを演じている。またドミトリー・ホヴォロストフスキー主演の『リゴレット』『シモン・ボッカネグラ』の録音に参加、後者はグラミー賞の最優秀オペラ録音賞を受賞した。新国立劇場初登場。



ファルスタッフ

Falstaff

●会員先行販売期間：2022年11/19(土)~11/22(火)

オペラパレス | 4回公演 | 全3幕(イタリア語上演/日本語及び英語字幕付)

●一般発売日：2022年11/27(日)

初演：1893年2月9日/ミラノ・スカラ座

作曲：ジュゼッペ・ヴェルディ

原作：ウィリアム・シェイクスピア

台本：アッリーゴ・ボーイト

プロダクションについて

オペラの巨人ヴェルディがシェイクスピアの『ウィンザーの陽気な女房たち』『ヘンリー四世』をもとに、人生最後に手がけた喜劇『ファルスタッフ』。強欲ながら愛すべき老騎士ファルスタッフを中心に、快活で機知あふれる女性陣や若いカップルらが繰り広げる、無類の楽しさと人生哲学にあふれた傑作です。音楽的にも先進的で、第1幕の九重唱やソリスト10人と合唱によるフィナーレのフーガなど、緻密な技法で練り上げられた、わくわくするような音楽がいっぱいです。特にファルスタッフが口火を切るフィナーレの大フーガ「この世はすべて冗談だ」は、ガラコンサート等でも今やすっかり定番となった、お開きにぴったりのナンバーです。

ジョナサン・ミラーの演出は、17世紀オランダ絵画に描かれた民衆の日常を踏まえ、深い人間洞察が感じられる名舞台です。緻密な構図、静謐な色遣いの舞台はフェルメールの風俗画から飛び出したよう。人々が繰り広げる小気味よい喜劇は、まさに大人のための人間賛歌そのものです。

タイトルロールにはロッシーニなどで大人気の名バリトン、ニコラ・アライモが待望の新国立劇場初登場。アリーチェには比類ないテクニックと表現力で欧州各地の劇場で成功を重ねているソプラノ、ロベルタ・マンテーニャ、クイックリー夫人にはロッシーニを中心に欧米の歌劇場で活躍し、バロック、古楽でも評価の高いマリアンナ・ピッツォラートが出演。フォードにはメキシコ出身の新星ホルヘ・エスピーノが出演します。指揮にはベルカント・オペラを中心に手腕が高く評価されるコッラード・ロヴァーリスが登場します。



2018年公演より

あらすじ

【第1幕】太鼓腹が自慢の好色な老騎士ファルスタッフは、ページ夫人メグとフォード夫人アリーチェが自分に気があると勘違いし、彼女たちへ恋文を書く。手紙を受け取ったメグとアリーチェは、身の程知らずな内容の上、全く同じ文面であることに呆れ顔。クイックリー夫人ら女性陣で懲らしめようと画策する。一方フォードも、妻アリーチェ宛にファルスタッフに恋文を書いたと従者からの情報を受け、ファルスタッフをやりこめようと意気込む。

【第2幕】クイックリー夫人が、アリーチェとの逢引きの時間をファルスタッフに伝えて、計画がスタート。フォードは偽名を使い「アリーチェを誘惑してほしい」とファルスタッフに頼む。ファルスタッフは「アリーチェと会う予定だからお安いご用」と語り、フォードは驚愕する。迎えた逢引きのとき、ファルスタッフがアリーチェを口説いていると、筋書き通りメグが来て、彼は慌てて逃げる。そのとき、妻の浮気相手を捕らえようとフォードらが乗り込んでくる。彼がつい立ての向こうを確認すると、そこには娘のナンネッタとフェントンが。2人の結婚を認めないフォードは怒り心頭。洗濯籠の中に身を潜めていたファルスタッフは、女性陣のシナリオ通り籠ごと川に投げ落とされる。

【第3幕】散々な目に遭っても懲りないファルスタッフは、再びアリーチェと会う約束をする。今回の場所は真夜中のウィンザー公園。精霊がさまよふと言われる場所だ。約束の時間にファルスタッフとアリーチェが会うと、助けを求めるメグの声が響く。精霊があらわれたと怖がるファルスタッフは目をつぶって横たわる。実はフォードらが妖精を演じているのだが、すっかり怯えたファルスタッフは、これまでのことを謝る。また、女性陣の計らいで、フォードもナンネッタとフェントンの結婚を認める。ファルスタッフは「この世はすべて冗談」と語って大団円。

ジュゼッペ・ヴェルディ

ファルスタッフ

Giuseppe VERDI / Falstaff

全3幕(イタリア語上演/日本語及び英語字幕付)

指揮 Conductor	コッラード・ロヴァーリス Corrado ROVARIS	
演出 Production	ジョナサン・ミラー Jonathan MILLER	
美術・衣裳 Set and Costume Design	イザベラ・バイウォーター Isabella BYWATER	
照明 Lighting Design	ペーター・ペッチニック Peter PETSCHNIG	
ファルスタッフ Sir John Falstaff	ニコラ・アライモ Nicola ALAIMO	
フォード Ford	ホルヘ・エスピーノ Jorge ESPINO	
フェントン Fenton	村上公太 MURAKAMI Kota	
医師カイウス Dr. Cajus	青地英幸 AOCHI Hideyuki	
バルドルフォ Bardolfo	糸賀修平 ITOGA Shuhei	
ピストーラ Pistola	久保田真澄 KUBOTA Masumi	
フォード夫人アリーチェ Mrs. Alice Ford	ロベルタ・マンテーニャ Roberta MANTEGNA	
ナンネッタ Nannetta	三宅理恵 MIYAKE Rie	
クイックリー夫人 Mrs. Quickly	マリアンナ・ピッツォラート Marianna PIZZOLATO	ほか
合唱 Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus	
管弦楽 Orchestra	東京交響楽団 Tokyo Symphony Orchestra	

2023年 2月	10日(金)19:00	12日(日)14:00
	15日(水)14:00	18日(土)14:00

【チケット料金】 S:24,200円 ・ A:19,800円 ・ B:13,200円 ・ C:7,700円 ・ D:4,400円

【会場】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:コツラード・ロヴァーリス

Conductor : Corrado ROVARIS

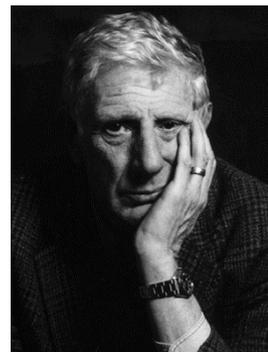
ベルガモ生まれ。フィラデルフィア・オペラ音楽監督、アートスフィア音楽祭管弦楽団音楽監督。ヴェローナの室内管弦楽団「I Virtuosi Italiani」首席指揮者。ベルカントやヴェリズモ・オペラで特に評価される。ミラノ音楽院で学び、ミラノ・スカラ座副合唱指揮者を務めた後、フィレンツェ歌劇場、ロッシーニ・オペラ・フェスティバルに招かれ、スカラ座、フェニーチェ歌劇場、ローマ歌劇場、ボローニャ歌劇場、リヨン歌劇場、モンテカルロ歌劇場、ローザンヌ歌劇場、ケルン歌劇場、フランクフルト歌劇場などに登場。1999年、フィラデルフィア・オペラ『フィガロの結婚』でアメリカ・デビュー。カナディアン・オペラ・カンパニー『アンナ・ボレーナ』『ロベルト・デヴェリュー』、サンタフェ・オペラ『シモン・ボッカネグラ』『愛の妙薬』『ドン・パスクワレ』『ルチア』『アルジェのイタリア女』などを指揮。フィラデルフィア・オペラではケヴィン・プッツ作曲『Elizabeth Cree』世界初演、ジョージ・ベンジャミン『リトゥン・オン・スキン』も絶賛された。最近では、フィラデルフィア・オペラ『3つのオレンジへの恋』『蝶々夫人』、セピリア・マエストランサ劇場『ドン・パスクワレ』などを指揮している。新国立劇場では2019年『ドン・パスクワレ』を指揮した。



演出:ジョナサン・ミラー

Production : Jonathan MILLER

ロンドン生まれ。医学博士、作家、テレビプロデューサー、演劇・オペラの演出など幅広い分野で国際的に活躍。演劇演出家として、ロイヤル・シェイクスピア・カンパニーの『ヴェニスの人』『じゃじゃ馬馴らし』や、1988年から90年まで芸術監督を務めたオールド・ヴィック劇場での『リア王』、80年からBBCが制作したシェイクスピアシリーズなど、シェイクスピア作品の演出で高い評価を得る。オペラ演出は74年のアレクサンダー・ゲアーの『Arden Must Die』イギリス初演に始まり、その後もイングリッシュ・ナショナル・オペラなどで『ミカド』『リゴレット』『ねじの回転』『ばらの騎士』『カルメン』などを演出し大成功を収める。ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、ベルリン州立歌劇場、ウィーン国立歌劇場、英国ロイヤルオペラ、ザルツブルク音楽祭など世界各地で活躍した。新国立劇場では『ファルスタッフ』『ばらの騎士』を演出。2019年11月逝去。



ファルスタッフ:ニコラ・アライモ(バルトン)

Sir John Falstaff : Nicola ALAIMO

パレルモ出身。トラパーニのステファノコンクールに優勝後、ロッシーニ・アカデミーに参加。ラヴェンナ音楽祭『イル・トロヴァトーレ』ルーナ伯爵でデビューし、パレルモ・マッシモ劇場、ミラノ・スカラ座、フィレンツェ歌劇場などに出演を重ねる。ロッシーニ・オペラ・フェスティバルには2010年以来、『チェネントラ』『セピリアの理髪師』『ギョーム・テル』『新聞』『イタリアのトルコ人』などに出演。ローマ歌劇場、パレルモ・マッシモ劇場、スカラ座、モンテカルロ歌劇場、メトロポリタン歌劇場、ザルツブルク音楽祭などで『椿姫』ジェルモン、『ファルスタッフ』タイトルロール、『セピリアの理髪師』バルトロ、『ルチア』エンリーコ、『愛の妙薬』ベルコーレ、『ドン・パスクワレ』タイトルロール、『オテロ』イアーゴなどで活躍。リッカルド・ムーティとの共演は特に多く、ザルツブルク音楽祭、ローマ歌劇場『オテロ』、スカラ座、ローマ歌劇場『モイーズとファラオン』、ウィーン国立歌劇場、シャンゼリゼ劇場『ドン・パスクワレ』などがある。最近の出演に、ザルツブルク音楽祭、ボローニャ歌劇場、フィレンツェ歌劇場『アドリアーナ・ルクヴルール』、ボローニャ歌劇場『ラ・ボエーム』、モンテカルロ歌劇場、パレルモ・マッシモ劇場『ファルスタッフ』、スカラ座『チェネントラ』、ヴェローナ野外音楽祭『セピリアの理髪師』、テアトロ・レアル『椿姫』、パリ・オペラ座『シモン・ボッカネグラ』、オランジュ音楽祭、リヨン歌劇場『ギョーム・テル』、ウィーン国立歌劇場『ドン・パスクワレ』『愛の妙薬』などがある。新国立劇場初登場。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

フォード:ホルヘ・エスピーノ(バリトン)

Ford : Jorge ESPINO

メキシコシティ生まれ。生地の国立音楽院で学んだ後、フィラデルフィアのアカデミー・オブ・ヴォーカル・アーツで学ぶ。2018年グラーツ・マイスターズ・コンクールで2位を獲得、19年にはカーディフ国際音楽コンクールの参加者に選ばれたほか、ユルマラ（フィンランド）、ニューヨーク、フィラデルフィア、グラインドボーン、メキシコシティのコンクールでも入賞もしくはファイナリストになった。メキシコでは『西部の娘』シッド、『愛の妙薬』ベルコール、『ラ・ボエーム』マルチェッロなどで出演したほか、コルティナで『フィガロの結婚』アルマヴィヴァ伯爵、サンタフェで『金鶏』アフロン王子、デュッセルドルフのライン・ドイツ・オペラで『魔笛』パパゲーノなどを演じている。近年の出演、及び今後の予定には『道化師』シルヴィオ、『カルメン』モラレス、『セビリアの理髪師』フィガロ、『清教徒』リッカルド、『ロミオとジュリエット』パリス、『子供と魔法』時計と猫、『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロールなどの役、ライン・ドイツ・オペラ、フィラデルフィア・オペラなどの劇場での出演予定がある。新国立劇場初登場。



フェントン:村上公太(テノール)

Fenton : MURAKAMI Kota

東京音楽大学声楽演奏家コース卒業。新国立劇場オペラ研修所第6期修了。文化庁在外派遣研修員としてイタリア・ボローニャへ留学。ジュゼッペ・ディ・ステファノ国際コンクールにおいて『リゴレット』マントヴァ公爵役を獲得。シンガポール・リリック・オペラに『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『魔笛』タミーノ、『サロメ』ナラポート、『椿姫』アルフレードと立て続けに客演し、好評を博す。東京二期会では『マクベス』マルコム、『チャールダーシュの女王』ボニ、『ダナエの愛』ボルクス、『トリスタンとイゾルデ』メロートで活躍。16年日生劇場『後宮からの逃走』ベドリッロも好演した。新国立劇場では『パルジファル』第1の聖杯騎士、『こうもり』アルフレード、『ばらの騎士』ファーニナル家の執事、『ウェルテル』シュミット、『カルメン』レメンダード、『ファルスタッフ』フェントンに出演している。最近では、20/21シーズン開幕公演『夏の夜の夢』ライサンダー、『こうもり』アルフレード、『イオランタ』アルメリック、21/22シーズン『ニュルンベルクのマイスターズ・コンツ・フォーゲルゲザング』、『蝶々夫人』ピンカートン、高校生のためのオペラ鑑賞教室2021『カルメン』ドン・ホセに出演、21年7月の本公演『カルメン』初日公演にも歌唱のみ出演し称賛を集めた。二期会会員。



フォード夫人アリーチェ:ロベルタ・マンテーニャ(ソプラノ)

Mrs. Alice Ford : Roberta MANTEGNA

1988年パレルモ生まれ。8歳からマッシモ劇場の舞台上に児童合唱の一員として立つ。パレルモのベッリーニ音楽院を卒業。2015年にバーリの音楽院でオペラ研修に参加。同時にローマのサンタ・チェチーリア音楽院でディミトラ・テオドシウとレナータ・スコットのもとで学ぶ。ローマ歌劇場の若手アーティストプログラム「Fabbrica」に参加。16年、トレヴィーゾ歌劇場で『ノルマ』タイトルロールにデビュー。17年にはローマ歌劇場に『マリア・ストゥアルダ』タイトルロールでデビューし、同劇場の『カルメン』ミカエラ（カラカラ浴場公演）、『群盗』アマリアに出演。同年、ナポリ・サンカルロ歌劇場のドバイ公演で『フィガロの結婚』伯爵夫人に出演。最近ではモンテカルロ歌劇場、ソフィア王妃芸術宮殿『群盗』アマリア、ミラノ・スカラ座、ジュネーヴ大劇場で『海賊』イモージェネ、パルマ王立歌劇場『イル・トロヴァトーレ』レオノーラ、パレルモ・マッシモ劇場『ラ・ボエーム』ミミ、フェニーチェ歌劇場『アイダ』タイトルロール、テアトロ・レアル『ドン・カルロ』エリザベッタ、ローマ歌劇場『ルイザ・ミラー』タイトルロール、パレルモ・マッシモ劇場『ファルスタッフ』アリーチェ、フェニーチェ歌劇場『ロベルト・デヴェリュー』『アイダ』、ライブツィヒ歌劇場、マチェラータ音楽祭、フェニーチェ歌劇場『イル・トロヴァトーレ』に出演している。新国立劇場初登場。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

ナンネッタ:三宅理恵(ソプラノ)

Nannetta : MIYAKE Rie

東京音楽大学卒業、同大学院修了。バード音楽院特待奨学生修士課程修了。ドーン・アップショウに師事。これまでに小澤征爾音楽塾『カルメン』フラスキータ、日生劇場『フィデリオ』マルチェリーネ、P.ヤルヴィ指揮NHK交響楽団『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、藤倉大作曲『ソラリス』（日本初演）ハリー、東京二期会『ファルスタッフ』ナンネッタなどに出演。オペラ以外にも、F.ルイーダ指揮「復活」、小澤征爾指揮「第九」や「マエストロ・オザワ80歳パースデーコンサート」に唯一の女性ソリストとして出演するほか、フォーレ『レクイエム』、シューベルト『ミサ曲第5番 変イ長調』、モーツァルト『レクイエム』、ブラームス『ドイツ・レクイエム』、カール・ジェンキンス『レクイエム』、アンドリュウ・ロイド・ウェバー『レクイエム』など宗教曲のソリストとしても活躍。新国立劇場では『パルジファル』花の乙女、高校生のためのオペラ鑑賞教室『愛の妙薬』ジャンネッタ、「『ジークフリート』ハイライトコンサート」森の小鳥、『夜鳴きうぐいす』タイトルロール、『Super Angels スーパーエンジェル』エリカに出演。21/22シーズン『魔笛』パパゲーナ、『オルフェオとエウリディーチェ』アモーレに出演予定。二期会会員。



クイックリー夫人:マリアンナ・ピッツォラート(メゾソプラノ)

Mrs. Quickly : Marianna PIZZOLATO

イタリア生まれ。ロッシーニのスペシャリストとして活躍し、ペーザロ・ロッシーニ・フェスティバルに2003年に『ランスへの旅』でデビュー以来、『タンクレディ』『アルジェのイタリア女』『セビアの理髪師』『エルミオーネ』『チェネレントラ』など数多く出演している。さらに、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、チューリヒ歌劇場、テアトロ・レアル、ボローニャ歌劇場、ワロン歌劇場などにも出演している。カヴァッリ、モンテヴェルディ、ヴィヴァルディ、ヘンデルなどのバロック作品も多く手掛け、ザルツブルク音楽祭、ミラノ・スカラ座、バルセロナ・リセウ大劇場に加えて多くのバロックの音楽祭に出演している。モーツァルト、ドニゼッティ、ヴェルディ、プッチーニなどのオペラのレパートリーのほか、宗教曲を中心としてコンサートのソリストとしても活躍し、ムーティ、ジェルメッティ、パッパーノ、ガッティ、ビシュコフ、ゼッターらと共に、録音も数多い。新国立劇場初登場。



ホフマン物語

Les Contes d'Hoffmann

オペラパレス | 4回公演 | 全5幕(フランス語上演/日本語及び英語字幕付)

●会員先行販売期間: 2022年12/24(土)~12/27(火)

●一般発売日: 2023年1/8(日)

初演:1881年2月10日/オペラ・コミック座(パリ)

作曲:ジャック・オッフエンバック

原作:E. T. A. ホフマン

台本:ジュール・バルビエ、ミッシェル・カレ

プロダクションについて

“光の魔術師”フィリップ・アルローの演出による幻想的恋物語。『ホフマン物語』は『天国と地獄』などを生んだ世紀末パリのオペレッタ王オッフエンバック唯一のオペラ作品で、ドイツ・ロマン主義の作家E.T.A.ホフマンによる3つの物語をモチーフとし、ホフマンが用いた“現実と幻想の二重性”がそのままオペラの物語と渾然一体となった、珠玉の傑作です。ホフマンをめぐる3人の女性、恋物語を破滅に導く悪魔的な存在、芸術の女神ミューズ。謎めいた夢幻の物語が、オッフエンバックのメロディックな音楽で次々に展開し、有名な「ホフマンの舟歌」、ホフマンの歌う「クラインザックの歌」、コロラトゥーラ・ソプラノの見せ場であるオランピアのアリア「生け垣に鳥たちが」など、聴きどころも満載です。

アルローにとって新国立劇場での演出第一作となった本作品では、ウィットとユーモアいっぱいの衣裳や、黒い舞台空間に蛍光色を効果的に配して原作の幻想性を醸し出し、作品に一層の深みをもたらしています。

指揮はストラスブール・フィル音楽監督のマルコ・レトーニャ。ホフマンには“新世代のテノールの王子”と称されホフマン歌いとして大成功を重ねるレオナルド・カパルゴ、悪役4役には世界屈指のバス・バリトンのエギルス・シリンスが登場します。



2018年公演より

あらすじ

【第1幕(プロローグ)】歌劇場の隣の酒場で、歌姫ステッラを待つホフマンは友人のニクラウス達に、三つの失恋物語を語り始める。

【第2幕】オランピアは科学者スパンツァーニが作った自動人形。人形師コッペリウスに売りつけられた不思議な眼鏡をかけると、その人形が生きているように見え、すっかり夢中になったホフマンは愛を告白。ホフマンと狂ったようにワルツを踊ったあけく、オランピアはコッペリウスに壊されてしまう。ホフマンはこの時初めて、彼女が人形だったことを知る。

【第3幕】楽器職人クレスペルの娘アントニア。名歌手だった母譲りの素養を持っていたが、胸を病み父親から歌うことを禁じられていた。しかし、悪魔のような医者ミラクルが亡き母親の亡霊を呼び寄せ、アントニアが歌うよう誘惑する。歌い続けるアントニアは、ついに死んでしまった。

【第4幕】ヴェネツィアの娼婦ジュリエッタ。彼女は魔術師ダペルトウットからホフマンを誘惑して影を盗めと命じられていた。賭けですべてを失ったホフマンは魂と命と影をジュリエッタに渡してしまう。恋敵シュレーミルと決闘して勝利するが、当のジュリエッタは下僕と駆け落ちする。

【第5幕(エピローグ)】酒場。数奇な愛の遍歴を語り終えたホフマンの元に歌姫ステッラが現れるが、彼女の崇拜者である上院議員リンドルフと腕を組んで立ち去る。酔いつぶれたホフマンは詩の女神ミューズの幻影を見る。

ジャック・オッフエンバック

ホフマン物語

Jacques OFFENBACH / Les Contes d'Hoffmann

全5幕(フランス語上演/日本語及び英語字幕付)

指揮 Conductor	マルコ・レトーニャ Marko LETONJA
演出・美術・照明 Production, Set and Lighting Design	フィリップ・アルロー Philippe ARLAUD
衣裳 Costume Design	アンドレア・ウーマン Andrea UHMANN
振付 Choreographer	上田 遙 UEDA Haruka
ホフマン Hoffmann	レオナルド・カパルボ Leonardo CAPALBO
ニクラウス/ミューズ Nicklausse, La Muse	小林由佳 KOBAYASHI Yuka
オランピア Olympia	安井陽子 YASUI Yoko
アントニア Antonia	木下美穂子 KINOSHITA Mihoko
ジュリエッタ Giulietta	大隅智佳子 OHSUMI Chikako
リンドルフ/コッペリウス/ミラル博士/ダベルトゥ Lindorf, Coppélius, Miracle, Dapertutto	エギルス・シリンス Egils SILINS
アンドレ/コシュニユ/フランツ/ピティキナッチョ Andrès, Cochenille, Frantz, Pitichinaccio	青地英幸 AOCHI Hideyuki
ルーテル/クレスペル Luther, Crespel	伊藤貴之 ITO Takayuki
ヘルマン Hermann	安東玄人 ANDO Gento
ナタナエル Nathanael	村上敏明 MURAKAMI Toshiaki
スパランツァーニ Spalanzani	晴 雅彦 HARE Masahiko
シュレーミル Schlemil	須藤慎吾 SUDO Shingo
アントニアの母の声/ステツラ La voix de la mère, Stella	谷口睦美 TANIGUCHI Mutsumi
合唱 Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽 Orchestra	東京交響楽団 Tokyo Symphony Orchestra

2023年	3月	15日(水) 18:30	17日(金) 14:00
		19日(日) 14:00	21日(火・祝) 14:00

【チケット料金】 S:24,200円 ・ A:19,800円 ・ B:13,200円 ・ C:7,700円 ・ D:4,400円

【会場】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:マルコ・レトニーヤ

Conductor : Marko LETONJA

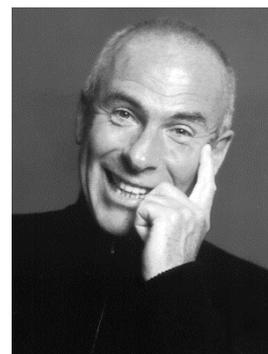
スロヴェニア出身。2012年からストラスプール・フィルハーモニー管弦楽団音楽監督、タスマニア・シンフォニー交響楽団芸術監督。18/19シーズンからブレーメン・フィルハーモニー管弦楽団音楽監督。ウィーンで学んだ後、1991年から03年までスロヴェニア・フィルハーモニー管弦楽団音楽監督を務めながら、ウィーン交響楽団、ミュンヘン・フィル、ブレーメン・フィル、ミュンヘン放送交響楽団、ハンブルク交響楽団、ミラノ・ジュゼッペ・ヴェルディ交響楽団などを指揮。03年から06年までパーゼル交響楽団およびパーゼル歌劇場の首席指揮者兼音楽監督。『タンホイザー』『椿姫』『魔弾の射手』『ボリス・ゴドゥノフ』『トリスタンとイゾルデ』『リゴレット』『ドン・ジョヴァンニ』などを指揮した。これまでに、ウィーン国立歌劇場、ジュネーヴ大劇場、ローマ歌劇場、ザクセン州立歌劇場、ミラノ・スカラ座、ベルリン州立歌劇場などで、『スペードの女王』『ホフマン物語』『ロメオとジュリエット』『ナブッコ』『椿姫』『蝶々夫人』『マクロプロス事件』『ワルキューレ』『神々の黄昏』『さまよえるオランダ人』などを指揮。17年にはスウェーデン王立歌劇場で『ニーベルングの指環』ツィクルスを、18/19シーズンは、ストラスプール・ラン歌劇場『エウゲニ・オネーギン』、ベルリン・ドイツ・オペラ『マクロプロス事件』などを指揮。最近ではストラスプール・ラン歌劇場『パルジファル』、ブレーメン歌劇場『ファルスタッフ』を指揮している。新国立劇場初登場。



演出・美術・照明:フィリップ・アルロー

Production, Set and Lighting Design : Philippe ARLAUD

パリ生まれ。ストラスプール国立劇場演劇大学で演出、舞台美術、美術史を学ぶ一方で、ストラスプール大学医学部で精神医学を修め、外科医の資格も持つ。これまでにパリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、ベルリン・ドイツ・オペラ、マリインスキー劇場、ブレゲンツ、スポレートなどの音楽祭で『ドン・ジョヴァンニ』『チェネレントラ』『トリスタンとイゾルデ』『影のない女』『ルサルカ』などの演出、舞台美術、照明を手がける。2002年から07年までバイロイト音楽祭で『タンホイザー』を演出。12年にはスロヴェニア国立マリポール劇場、香港オペラ、上海オペラの共同制作『カルメン』を手掛けている。新国立劇場では03年『ホフマン物語』の演出・美術・照明を担当。"光の魔術師"の異名にたがわぬ鮮烈な視覚効果で、作品の幻想性を浮き彫りにした。05年初演の『アンドレア・シェニエ』に続き、10/11シーズンオープニングに演出した『アラベッラ』でも観客を魅了している。



ホフマン:レオナルド・カパルボ(テノール)

Hoffmann : Leonardo CAPALBO

アメリカ出身。ジュリアード音楽院に学び、マリリン・ホーンに師事。2004年にオペラ・ノースにデビュー後、英国ロイヤルオペラ、ベルリン州立歌劇場、マドリード王立歌劇場、グラインドボーン音楽祭、リヨン歌劇場、トリノ王立歌劇場、シカゴ・リリック・オペラ、ローマ歌劇場、ザクセン州立歌劇場、ジュネーヴ大劇場、バルセロナ・リセウ大劇場、バーデンバーデン祝祭劇場など、ヨーロッパやアメリカの劇場で活躍。ベルカント・オペラ（『ロベルト・デヴェリユー』タイトルロール、『ルチア』エドガルド、『愛の妙薬』ネモリーノなど）、ヴェルディ（『椿姫』アルフレード、『リゴレット』マントヴァ公爵、『仮面舞踏会』グスタフ三世、『ドン・カルロ』タイトルロールなど）、プッチーニ（『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『つばめ』ルッジェーロなど）のイタリア・オペラで高い評価を得ているほか、『キャンディード』タイトルロール、ブリテン『グロリアーナ』エセックス伯、『カルメン』ドン・ホセなどヘレパトリを広げている。最近ではフランダース・オペラ『ドン・カルロ』タイトルロール、ベルリン・コーミッシェ・オーパー『リゴレット』マントヴァ公爵、ストラスプール・ラン歌劇場『蝶々夫人』ピンカートン、アン・デア・ウィーン劇場『ワリー』ハーゲンバッハなどに出演。『ホフマン物語』タイトルロールは、大野和士指揮のリヨン歌劇場での出演以来、英国ロイヤルオペラ、マルコ・ミンコフスキ指揮ブレーメン音楽祭などで大成功を収めている当たり役である。新国立劇場初登場。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

ニクラウス/ミューズ:小林由佳(メゾソプラノ)

Nicklausse, La Muse : KOBAYASHI Yuka

国立音楽大学卒業、同大学院修了。二期会オペラスタジオ修了。文化庁派遣芸術家在外研修員としてイタリアに留学。二期会『ナクソス島のアリアドネ』作曲家役での端正な舞台姿と高い歌唱力が評価され、その後『蝶々夫人』スズキ、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラ、『イドメネオ』イダマンテ、『ホフマン物語』ミューズ/ニクラウス、『ばらの騎士』オクタヴィアンなどに出演。2019年にはサントリーホール サマーフェスティバルで大野和士指揮『リトゥン・オン・スキン』（日本初演）天使Ⅱ・マリア役を務める。その他、『フィガロの結婚』ケルビーノ、『ドン・カルロ』エポリ公女、『リゴレット』マッダレーナ、『カルメン』タイロルロール、『ブリーカー街の聖女』デジデーリア、『パルジファル』小姓、などを演じている。新国立劇場では『沈黙』少年、『魔笛』侍女Ⅱ、『アイダ』巫女、『ルチア』アリーサ、『椿姫』フローラ、『夏の夜の夢』ヒポリタ、高校生のためのオペラ鑑賞教室『蝶々夫人』ケート/スズキ、鑑賞教室・関西公演『フィガロの結婚』ケルビーノに出演している。また、22年4月には『ばらの騎士』オクタヴィアン役に出演予定。さくらがわ応援大使（茨城県桜川市）。二期会会員。



オランピア:安井陽子(ソプラノ)

Olympia : YASUI Yoko

桐朋学園大学卒業、同大学研究科修了。二期会オペラ研修所第43期マスタークラス修了。文化庁在外研修員としてウィーンに留学、ウィーン国立音楽大学研究課程声楽科修了。クラーゲンフルト市立劇場のヘンツェ『若き貴族』イーダで欧州デビュー。同国フォアアールベルク音楽劇場『魔笛』夜の女王、ブレゲンツ音楽祭およびザンクト・ベルテン音楽祭でオフフェンバック『青ひげ』小姓、ロザリンデに出演し高い評価を受ける。国内では2008年東京二期会『ナクソス島のアリアドネ』ツェルピネッタで本格デビュー。新国立劇場では『魔笛』夜の女王、『ジークフリート』森の小鳥、『鹿鳴館』颯子、『ばらの騎士』ゾフィー、『アラベッタ』フィアッカミッリ、『ファルスタッフ』ナンネッタ、『ホフマン物語』オランピア、バレエ『カルミナ・ブラーナ』ソプラノ・ソリストなど数多く出演。コンサートでも、ヘンデル『メサイア』、ハイドン『天地創造』、『四季』、モーツァルト『レクイエム』、ベートーヴェン「第九」、メンデルスゾーン『エアリア』、ブラームス『ドイツ・レクイエム』、フォーレ『レクイエム』、マーラー「交響曲第4番」、「千人の交響曲」、ゴリホフ『3つの歌—ソプラノと管弦楽のための』（日本初演）などのソリストとして幅広く活躍している。二期会会員。



アントニア:木下美穂子(ソプラノ)

Antonia : KINOSHITA Mihoko

武蔵野音楽大学卒業、同大学院修了。二期会オペラスタジオ修了。第70回日本音楽コンクール第1位、第16回新日鉄音楽賞、2007年リチア・アルバネーゼ プッチーニ国際声楽コンクール第1位、第16回出光音楽賞等多数受賞。小澤征爾指揮『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラ以降、東京二期会『椿姫』ヴィオレッタ、『ローエングリン』エルザ、佐渡裕プロデュースオペラ『カルメン』ミカエラ、ロームシアター京都および東京二期会『フィデリオ』レオノーレ、札幌・神奈川・大分『アイダ』タイトルロール等多数主演。殊に『蝶々夫人』タイトルロールでは、ロンドン・ロイヤルアルバートホール、ピサ・ヴェルディ劇場、ソフィア国立歌劇場、ミシガン・デトロイト歌劇場、バンクーバー・オペラ等に出演、確固たる国際的評価を築いている。コンサート・ソリストとしても全国各地のオーケストラと共演、好評を博している。新国立劇場では高校生のためのオペラ鑑賞教室『椿姫』ヴィオレッタ、同『ラ・ボエーム』ミミ、同『トスカ』タイトルロール、同『蝶々夫人』タイトルロール、小劇場オペラ『外套』ジョルジェット、「ニューイヤール・オペラパレスガラ」などに出演している。CD「イル・クオーレ」リリース。二期会会員。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

ジュリエッタ:大隅智佳子(ソプラノ)

Giulietta : OHSUMI Chikako

東京藝術大学音楽学部声楽科首席卒業。同大学院修士課程、博士後期課程修了。二期会オペラ研究所プロフェッショナルコース第7期修了。学部在学中に安宅賞、卒業時に第13回松田トシ賞、アカンサス音楽賞受賞。皇居内桃華楽堂における宮内庁主催御前演奏会に出演。横浜市民オペラ『カルメン』ミカエラ役でオペラデビュー。2007年シャルパンティエ『ルイーゼ』タイトルロールに出演。東京二期会『エウゲニ・オネーギン』（コンヴィチュニー演出）タチアーナの成功で新境地を拓き、11年東京二期会『サロメ』タイトルロール、14年東京二期会『イドメネオ』エレットラでも好評を博す。日生劇場の音楽ドラマ『チャイコフスキー』では、淡路恵子、長谷川初範等の俳優陣と共演。同劇場では、開場50周年『メデア』（日本初演/第67回文化庁芸術祭音楽部門大賞受賞作品）タイトルロールにも出演し絶賛を博した。コンサートにおいても、ヴェルディ「レクイエム」、ベートーヴェン「第九」、マーラー「千人の交響曲」などのソリストとしても活躍している。新国立劇場では20/21シーズン開幕公演『夏の夜の夢』ヘレナに出演後、21年『フィガロの結婚』伯爵夫人、『イオランタ』タイトルロールに出演し絶賛された。二期会会員。



リンドルフ/コッペリウス/ミラクル博士/ダペルトット:エギルス・シリンス(バス・バリトン)

Lindorf, Coppélius, Miracle, Dapertutto : Egils SILINS

ラトヴィア出身。ラトヴィア国立歌劇場でデビュー後、ウィーン国立歌劇場にデビュー。ブレゲンツ音楽祭『デーモン』タイトルロールで称賛され、サヴォンリンナ・オペラ・フェスティバル、グラインドボーン音楽祭などの著名音楽祭に出演。ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラ、ベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、バルセロナ・リセウ大劇場、マドリッド・テアトロ・レアル、チューリヒ歌劇場、バイエルン州立歌劇場などに定期的に登場。「ニーベルングの指環」ヴォータン、さすらい人、『パルジファル』クリングゾル、アムフォルタス、『トリスタンとイゾルデ』クルヴェナル、『サロメ』ヨハナーン、『エレクトラ』オレスト、『ボリス・ゴドゥノフ』タイトルロール、『オテロ』イアーゴ、『トスカ』スカルピアなどレパートリーは70に及ぶ。2019/20シーズンはウィーン国立歌劇場『ローエンングリン』テルラムント、英国ロイヤルオペラ『フィデリオ』ドン・フェルナンド、ベルリン・ドイツ・オペラ『ラインの黄金』『ワルキューレ』ヴォータンに出演。21年はベルリン・ドイツ・オペラ『さまよえるオランダ人』オランダ人、カッセル歌劇場『ワルキューレ』ヴォータン、『ジークフリート』さすらい人などに出演。今後の予定にビルバオ・オペラ『フィレンツェの悲劇』シモーネがある。新国立劇場では14年『パルジファル』アムフォルタスに出演した。



アイーダ

Aida

オペラパレス | 7回公演 | 全4幕<イタリア語上演/日本語及び英語字幕付>

●会員先行販売期間: 2023年1/21(土)~1/24(火)

●一般発売日: 2023年2/5(日)

初演:1871年12月24日/カイロ歌劇場

作曲:ジュゼッペ・ヴェルディ

台本:アントーニオ・ギスランツォーニ

プロダクションについて

新国立劇場開場25周年を記念し、祝祭的大作『アイーダ』を上演します。1998年に開場記念公演として制作されたゼッフィレリィの豪華絢爛な演出には、新国立劇場ならではのダイナミックな舞台転換が盛り込まれます。歌手、合唱、バレエ、助演が織りなす“凱旋の場”は音と視覚の大スペクタクル。オペラファンならずとも、一度は観てみたい舞台です。

『アイーダ』はヴェルディ後期の大作で、スエズ運河開通を記念し建設されたカイロ歌劇場で初演されました。1ヵ月後のスカラ座公演ではアンコールが40回も続く成功を収め、その後も世界の歌劇場で高い人気を誇っています。

物語は、古代エジプトの戦士ラダメスと、敵国エチオピアの王女アイーダの一途な愛を描きます。ラダメスのアリア「清きアイーダ」や、アイーダの「勝ちて帰れ」、「凱進行進曲」と輝かしい名曲が続き、後半では恋人たちの愛、父娘の想い、誇り、嫉妬など心理的葛藤が描かれます。最終場のアイーダとラダメスの二重唱「運命の岩がとどされた」では、二人の愛が昇華する清らかな音楽が響きます。

タイトルロールには名ソプラノのセレーナ・ファルノッキア、ラダメスには世界最高峰のテノール、ロベルト・アロニカが出演。アムネリスには深く陰のある声を武器に新世代のアムネリス歌いとしてヨーロッパの主要劇場を席卷するユディット・クタージ、アモナズロにベテランヴェルディ歌手として欧州を飛び回るフランコ・ヴァッサーロと、望みうる最高のキャストが揃います。指揮には特にヴェルディを得意とする名匠カルロ・リッツィが待望の再登場です。



2018年公演より

あらすじ

【第1幕】古代エジプト。エジプト軍の若い将軍ラダメスは、王女アムネリスに仕える奴隷アイーダを敵国エチオピアの王女と知らず、密かに愛し合っている。ラダメスは神託によってエチオピア征伐軍総司令官に任命される。人々は「勝ちて帰れ」と若者を激励するが、アイーダはラダメスへの愛と、祖国エチオピアへの想いの間で苦しむ。

【第2幕】ラダメスを愛しているアムネリスはアイーダと彼の関係を疑い、アイーダにラダメスは戦死したと嘘を言う。アイーダの動揺を見て、嫉妬に燃えるアムネリス。エジプト軍の勝利を祝う式典が行われ、群衆がラダメス率いるエジプト軍の凱旋を迎える。戦利品に続く捕虜の中に、アイーダの父であり、エチオピア国王の身分を隠したアモナズロがいる。エジプト王は、戦勝の報奨としてラダメスにアムネリスとの結婚を命じる。

【第3幕】夜のナイル河畔に、アイーダがラダメスとの密会のためにやってくると、父アモナズロが現れて祖国のためにラダメスから軍事機密を聞き出すよう密命を下す。アイーダに情報を流したラダメスは謀反人として捕らえられ、投獄される。

【第4幕】アムネリスは自分を愛せば命を救おうとラダメスに迫るが、彼は応じようとせず、やがて裁判で死刑を宣告される。地下牢で独り死を待つラダメスの前に牢に忍びこんでいたアイーダが現われ、二人は永遠の愛を誓いながら死を待つ。地上ではアムネリスが死者の冥福を祈り続ける。

新国立劇場 開場25周年記念公演

ジュゼッペ・ヴェルディ

アイーダ

Giuseppe VERDI / Aida

全4幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

指揮 Conductor	カルロ・リッツィ Carlo RIZZI
演出・美術・衣裳 Production, Set and Costume Design	フランコ・ゼッフィレリ Franco ZEFFIRELLI
照明 Lighting Design	奥畑康夫 OKUHATA Yasuo
振付 Choreographer	石井清子 ISHII Kiyoko
アイーダ Aida	セレーナ・ファルノッキア Serena FARNOCCHIA
ラダメス Radames	ロベルト・アロニカ Roberto ARONICA
アムネリス Amneris	ユディット・クタージ Judit KUTASI
アモナズロ Amonasro	フランコ・ヴァッサーロ Franco VASSALLO
ランフィス Ramfis	妻屋秀和 TSUMAYA Hidekazu
エジプト国王 Il Re	伊藤貴之 ITO Takayuki
伝令 Un messaggero	村上敏明 MURAKAMI Toshiaki
巫女 Sacerdotessa	十合翔子 SOGO Shoko
合唱 Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽 Orchestra	東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra

2023年 4月	5日(水) 18:00	8日(土) 14:00
	11日(火) 14:00	13日(木) 14:00
	16日(日) 14:00	19日(水) 18:00
	21日(金) 14:00	

【チケット料金】 S:29,700円 ・ A:24,200円 ・ B:16,500円 ・ C:11,000円 ・ D:5,500円

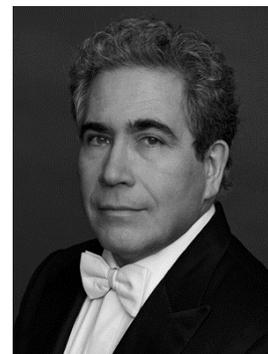
【会場】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:カルロ・リッツィ

Conductor : Carlo RIZZI

イタリア生まれ。ミラノ音楽院に学び、ミラノ・スカラ座の音楽スタッフとして経験を積む。1982年に指揮者としてのキャリアをスタートし、オペラとコンサート双方で世界中の一流劇場やフェスティバルで活躍。オペラのレパートリーはイタリア・オペラを中心に100以上に及び、ワーグナー、リヒャルト・シュトラウス、マルティヌー、ヤナーチェクといった作曲家の作品も手掛ける。92～2001年及び04～08年、ウェールズ・ナショナル・オペラ音楽監督、15年から同桂冠指揮者。19年よりオペラ・ラーラ音楽監督。メトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座、英国ロイヤルオペラへは特に頻繁に登場しており、パリ・オペラ座、テアトロ・レアル、ペーザロ・ロッシェニ・オペラ・フェスティバル、オランダ国立オペラ、シカゴ・リリック・オペラ、チューリヒ歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、モネ劇場などへ登場。コンサート指揮者としても、ブリュッセル・モネ劇場管弦楽団とのチャイコフスキー交響曲全曲演奏をはじめ、スカラ座フィルハーモニー、サンタ・チェチーリア管弦楽団、ハレ管弦楽団など、多くのオーケストラと共演している。最近のオペラ公演では、カナディアン・オペラ・カンパニーの19/20シーズン開幕公演『トゥーランドット』、フィレンツェ歌劇場『仮面舞踏会』『椿姫』、ソフィア王妃芸術宮殿『チェネレントラ』などを指揮している。21/22シーズンはウェールズ・ナショナル・オペラ『蝶々夫人』を指揮して開幕、メトロポリタン歌劇場『トスカ』『ラ・ボエーム』、バイエルン州立歌劇場『トスカ』などを指揮。新国立劇場では18年『ファルスタッフ』を指揮している。



演出・美術・衣裳:フランコ・ゼッフィレリ

Production, Set and Costume Design : Franco ZEFFIRELLI

1923年イタリアのフィレンツェに生まれる。46年ヴィスコンティと出会ったのをきっかけに、彼の助手を務める。53年ミラノ・スカラ座の『チェネレントラ』で演出家デビュー。60年ロンドンのオールド・ヴィック劇場で演劇『ロミオとジュリエット』、63年ミラノ・スカラ座で『アイダ』演出のほか、映画など様々なジャンルで活躍している。リアリズムを主軸として、音楽とドラマを視覚的な美しさで見せるその演出は、彼自身のデザインによる絢爛豪華な装置、衣裳も含め高く評価されている。これまでの来日公演には、ミラノ・スカラ座による『オテロ』『ラ・ボエーム』『トゥーランドット』、メトロポリタン歌劇場『カルメン』『椿姫』などがある。映画監督作品に『ロミオとジュリエット』『ブラザー・サン・シスター・ムーン』『チャンプ』『ムッソリーニとお茶を』『永遠のマリア・カラス』などがある。2019年6月逝去。



アイダ:セレーナ・ファルノッキア(ソプラノ)

Aida : Serena FARNOCCHIA

イタリア・ピエトラサンタ生まれ。1995年フィラデルフィアのルチアーノ・パヴァロッティ国際声楽コンクールで優勝後、ミラノ・スカラ座『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナでデビュー。モーツァルトの『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、ドンナ・エルヴィーラ、『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージ、『フィガロの結婚』伯爵夫人などから、『マリア・ストゥアルダ』タイトルロール、『ノルマ』アダルジーザ、『アンナ・ボレーナ』タイトルロールなどのベルカント・オペラ、ヴェルディでは『ルイザ・ミラー』タイトルロール、『シモン・ボッカネグラ』アメリア、『ファルスタッフ』アリーチェ、『オテロ』デズデーモナ、『ドン・カルロ』エリザベッタ、プッチーニの『マノン・レスコー』タイトルロール、『蝶々夫人』タイトルロール、『ラ・ボエーム』ミミ、『トゥーランドット』リュウ、さらに『カルメン』ミカエラ、『ホフマン物語』アントニアといったフランス・オペラをレパートリーとする。これまでにミラノ・スカラ座、ローマ歌劇場、バイエルン州立歌劇場、チューリヒ歌劇場、フェニーチェ歌劇場、ザクセン州立歌劇場、トリノ王立歌劇場など世界の主要歌劇場に出演を重ねる。新国立劇場では2007年『ファルスタッフ』アリーチェ、09年「ニューイヤー オペラパレス ガラ」、14年『ドン・カルロ』エリザベッタ、17年『オテロ』デズデーモナに出演している。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

ラダメス:ロベルト・アロニカ(テノール)

Radames : Roberto ARONICA

イタリア・チヴィタベッキア生まれ。ベルゴンツィのもとで声楽を学ぶ。サンチャゴ・ムニシバル劇場『リゴレット』でデビュー後、『運命の力』ドン・アルヴァーロ、『イル・トロヴァトーレ』マンリーコ、『アイダ』ラダメス、『ドン・カルロ』タイトルロール、『オテロ』タイトルロール、『カルメン』ドン・ホセ、『トスカ』カヴァラドッシ、『マノン・レスコー』デ・グリユー、『カヴァレリア・ルスティカーナ』トゥリッドゥ、『サムソンとデリラ』サムソン、『アドリアーナ・ルクヴール』マウリツィオなどをレパートリーに、ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、英国ロイヤルオペラ、シカゴ・リリック・オペラ、バルセロナ・リセウ大劇場、フィレンツェ歌劇場、ローマ歌劇場、ウィーン国立歌劇場、サンフランシスコ・オペラ、ロサンゼルス・オペラなど世界中の主要歌劇場へ出演。最近の出演に、ナポリ・サンカルロ歌劇場『仮面舞踏会』リッカルド、ミラノ・スカラ座『マノン・レスコー』デ・グリユー、リセウ大劇場『トスカ』カヴァラドッシ、ワシントン・オペラ『サムソンとデリラ』サムソンなどがある。今後の予定に、オペラ・オーストラリア『カルメン』ドン・ホセ、『ローエン格林』タイトルロール、シンシナティで『道化師』、サンチャゴで『オテロ』がある。新国立劇場初登場。



アムネリス:ユディット・クタージ(メゾソプラノ)

Amneris : Judit KUTASI

ルーマニア・ティミショアラ出身。“将来のヴェルディ第一人者”と目される若手メゾソプラノ。生地の国立芸術高等学院で声楽、ピアノ、チェロを学んだ後、オラデア大学、クルジューナポカの音楽院を修了。2013年にチューリヒ歌劇場オペラスタジオに参加、その後16年までチューリヒ歌劇場専属歌手となる。16年にベルリン・ドイツ・オペラ後援会奨学生となって以来、同劇場にゲストとして、『ラ・ジョコンダ』ラウラ、『リゴレット』マッダレーナ、『ナブッコ』フェネーナ、『魔笛』侍女Ⅲ、『アンドレア・シェニエ』ベルシ、『イル・トロヴァトーレ』アズチーナなど多くの役に出演。最近のハイライトには、19/20シーズンのバルセロナ・リセウ大劇場『アイダ』アムネリス、ミラノ・スカラ座『アンドレア・シェニエ』マッダレーナがある。20/21シーズンはベルリン・ドイツ・オペラで『ラインの黄金』エルダ、『ラ・ジョコンダ』（演奏会形式）ラウラ、『ドン・カルロ』エポリ公女、バイエルン州立歌劇場『アイダ』アムネリスに出演した。21/22シーズンは、18年、19年に続きヴェローナ野外音楽祭の『アイダ』アムネリスで開幕、トゥールーズ・キャピトル劇場『ラ・ジョコンダ』ラウラ、ベルリン・ドイツ・オペラ『ラインの黄金』、『ジークフリート』エルダ、『仮面舞踏会』ウルリカに出演している。バイエルン州立歌劇場『仮面舞踏会』ウルリカ、フィレンツェ歌劇場『エディプス王』ヨカステに出演予定。新国立劇場初登場。



アモナズロ:フランコ・ヴァッサーロ(バリトン)

Amonasro : Franco VASSALLO

ミラノ出身。イタリアを代表するバリトン。ミラノ・スカラ座、フェニーチェ歌劇場、ナポリ・サンカルロ歌劇場、トリノ王立歌劇場、フィレンツェ歌劇場、ローマ歌劇場やメトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラ、バイエルン州立歌劇場、ウィーン国立歌劇場、ベルリン州立歌劇場、チューリヒ歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、ザクセン州立歌劇場、パリ・オペラ座などの劇場で、『アイダ』アモナズロ、『リゴレット』タイトルロール、『オテロ』イアーゴ、『ファルススタッフ』フォード、『マクベス』タイトルロールなどのヴェルディの諸役のほか『ロベルト・デヴェリユー』ノッティンガム、『トスカ』スカルピアなどをレパートリーに活躍。最近では、バルマ王立歌劇場『ルイザ・ミラー』タイトルロール（ロールデビュー）、フィレンツェ歌劇場『外套』ミケーレ、バルセロナ・リセウ大劇場『アイダ』アモナズロ、フランクフルト歌劇場『リゴレット』タイトルロール、ローマ歌劇場『清教徒』リッカルド・フォルト卿、トッレ・デル・ラーゴ・プッチーニ音楽祭、バーリ・ベトルツェリ歌劇場『トスカ』スカルピアなどに出演。新国立劇場初登場。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

ランフィス:妻屋秀和(バス)

Ramfis : TSUMAYA Hidekazu

東京藝術大学卒業、同大学大学院オペラ科修了。1994～2001年ライブツィヒ歌劇場、02年～11年ワイマールのドイツ国民劇場専属歌手。これまでにベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、スコティッシュ・オペラなどに出演。欧州、日本でモーツァルト、ロッシーニ、ヴェルディ、プッチーニ、ワーグナー、R.シュトラウス等のオペラの主要な役を80役以上演じており、新国立劇場では『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、『セビリアの理髪師』ドン・バジリオ、『アイダ』ランフィス、『ナブッコ』ベルの祭司長、『夜叉ヶ池』鉦蔵、『リゴレット』スパラフチーレ、『ヴォツェック』医者、『アラベッラ』ヴァルトナー伯爵、『ドン・カルロ』宗教裁判長、『マノン・レスコー』ジェロント、『ばらの騎士』警部、『ラインの黄金』ファフナー、ファーズルト、『魔笛』ザラストロ、『ルチア』ライモンドなど出演多数。18/19シーズンは『ファルスタッフ』ピストーラ、『タンホイザー』領主ヘルマン、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、『トゥーランドット』ティムール、20/21シーズン『夏の夜の夢』クインス、『フィガロの結婚』バルトロ、『イオランタ』ルネ、『ドン・カルロ』フィリッポ二世『カルメン』スニガに出演。21/22シーズンは『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ハンス・フォルツ、『さまよえるオランダ人』ダーラントにも出演。22年4月には『ばらの騎士』オックス男爵、7月には『ペレアスとメリザンド』アルケルに出演予定。22/23シーズンは『タンホイザー』領主ヘルマン、『リゴレット』スパラフチーレにも出演予定。二期会会員。



エジプト国王:伊藤貴之(バス)

Il Re : ITO Takayuki

名古屋芸術大学卒業、同大学院修了。13～14年渡伊。第48回日伊声楽コンクール第2位、第6回G.ゼッカ国際声楽コンクール第2位。第41回イタリア声楽コンクール金賞受賞。平成24年度愛知県芸術文化選奨文化新人賞受賞。愛知県芸術劇場『ランメルモールのルチア』ライモンドをはじめ、『ドン・ジョヴァンニ』『リゴレット』『トゥーランドット』など多数のオペラに出演。13年藤原歌劇団にデビューし、『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ランスへの旅』シドニー卿、『ノルマ』オロヴェーゾなどに出演。新国立劇場では『サロメ』兵士2、『オテロ』モンターノ、『カルメン』スニガ、『ウェルテル』大法官、『ルチア』ライモンドに出演している。22/23シーズンは『ホフマン物語』ルーテル/クレスペルにも出演予定。藤原歌劇団団員。



伝令:村上敏明(テノール)

Un messaggero : MURAKAMI Toshiaki

国立音楽大学卒業。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部第17期生修了。2001年12月より文化庁派遣芸術家在外研修員として2年間ボローニャに留学。第9回バタフライ世界コンクール・グランプリなど受賞多数。これまでに『椿姫』アルフレード、『ラ・ボエーム』ロドルフォなどに出演。新国立劇場では『黒船・夜明け』領事、『修禅寺物語』源左金吾頼家、『ドン・カルロ』レルマ伯爵/王室の布告者、高校生のためのオペラ鑑賞教室『蝶々夫人』ピンカートン、鑑賞教室『椿姫』アルフレード、鑑賞教室『愛の妙薬』ネモリーノ、『オテロ』ロデリーゴ、鑑賞教室『トスカ』カヴァラドッシ、『紫苑物語』藤内、『ジャンニ・スキッキ』リヌッチョ、『トゥーランドット』ボン、『ワルキューレ』ジークムント(第1幕)、『カルメン』ドン・ホセなどに出演している。藤原歌劇団団員。



リゴレット

Rigoletto

オペラパレス | 6回公演 | 全3幕(イタリア語上演/日本語及び英語字幕付)

●会員先行販売期間: 2023年 2/25(土)～ 2/28(火)

●一般発売日: 2023年 3/11(土)

初演: 1851年3月11日/フェニーチェ歌劇場(ヴェネツィア)

作曲: ジュゼッペ・ヴェルディ

原作: ヴィクトル・ユーゴー

台本: フランチェスコ・マリア・ピアールヴェ

プロダクションについて

ヴェルディ中期の傑作にして人気作『リゴレット』を新制作いたします。富と権力にものを言わせ放蕩無頼の生活を送るマントヴァ公爵、道化師として公爵に媚びを売る顔と娘を愛する父というふたつの顔をもつリゴレット、その娘で純粋一途なジルダを軸に、愛、呪い、復讐の悲劇が繰り広げられます。「女心の歌」「慕わしき人の名は」「悪魔め、鬼め!」など数々の名アリアで彩られる一方、美しい重唱が多いのも『リゴレット』の魅力。なかでも第3幕の四重唱「美しい恋の乙女よ」は、オペラ史上最も美しい四重唱と称されています。

エミリオ・サージ演出のプロダクションはビルバオ・オペラとリスボン・サン・カルロス歌劇場の共同制作で初演後、バレンシアのソフィア王妃芸術宮殿でも上演され、現代的な視点で作品の演劇性と登場人物の孤独とにクローズアップし、大成功を収めたものです。

タイトルロールには今日最も勢いのあるヴェルディ・バリトンとして欧米の著名劇場で引っ張りだこのジョルジュ・ペテアン、ジルダには『ドン・パスクワレ』ノリーナで喝采をさらった新世代のコロラトゥーラ・ソプラノ、ハスミック・トロシヤン、マントヴァ公爵には同役をフィレンツェ、ローマ、トリノなどで歌っている大型の若手テノール、イヴァン・アヨン・リヴァスが出演。指揮にはイタリアの名匠マウリツィオ・ベニーニが登場、オペラファンには見逃せない公演です。



ビルバオ・オペラ公演より

あらすじ

【第1幕】マントヴァ公爵の宮廷。ある夜会にモンテローネ伯爵が乱入し、娘を陵辱したマントヴァ公爵を大声で非難する。道化師リゴレットは嘲笑するが、激昂したモンテローネ伯爵からマントヴァ公爵と一緒に呪いの言葉を投げられ、狼狽する。不具で醜いリゴレットの生き甲斐は娘のジルダだった。彼は清純な愛娘が汚されるのを恐れ、教会に行く以外は外出も許さなかった。だが、学生に身をやつしたマントヴァ公爵が教会でジルダを見初め、隠れ家に忍び込んで娘の心を奪ってしまう。一方、公爵の威を借るリゴレットに我慢のならない廷臣達は、ジルダを彼の情婦と思い込み、鬱憤晴らしに彼女を誘拐する。

【第2幕】ジルダが何者かにさらわれて公爵が気落ちしていると、廷臣たちがジルダを誘拐してくるので公爵は喜ぶ。リゴレットは平静を装って宮廷に参内し、落ち着きなく娘の痕跡を探す姿を、廷臣たちがあざ笑う。やがて娘が公爵の寝室にいることを知ったリゴレットは、怒り、泣く。そして、動転したジルダから公爵の毒牙にかかったことを聞き、公爵を呪い、復讐を誓う。

【第3幕】殺し屋スパラフチーレの居酒屋。リゴレットはジルダと外に佇み、公爵が士官に変装して居酒屋で女と戯れる様子を見ている。居酒屋の女は殺し屋の妹マッダレーナだった。ジルダは公爵の本性を知るが恋心は消えない。娘を先に行かせたリゴレットはスパラフチーレに公爵殺しを依頼する。殺し屋が準備を始めると公爵に惚れた妹マッダレーナが反対し、口論の末「身代わりを殺して報酬だけせしめよう」と決着する。それを立ち聞きしていたジルダは身代わりになると決意、居酒屋に入り、スパラフチーレの刃を受ける。真夜中が過ぎ、殺し屋から死体の袋を受け取ったリゴレットは、そこに瀕死の娘ジルダの姿を目にする。娘は身勝手を父に詫びながら息絶え、リゴレットは呪いの恐ろしさに打ちのめされる。

ジュゼッペ・ヴェルディ

リゴレット

Giuseppe VERDI / Rigoletto

全3幕(イタリア語上演/日本語及び英語字幕付)

指揮 Conductor	マウリツィオ・ベニーニ Maurizio BENINI
演出 Production	エミリオ・サージ Emilio SAGI
美術 Set Design	リカルド・サンチェス・クエルダ Ricardo SÁNCHEZ CUERDA
衣裳 Costume Design	ミゲル・クレスピ Miguel CRESPI
振付 Choreographer	ヌリア・カステホン Nuria CASTEJÓN
照明 Lighting Design	エドゥアルド・ブラーボ Eduardo BRAVO
リゴレット Rigoletto	ジョルジュ・ペテアン George PETEAN
ジルダ Gilda	ハスマック・トロシヤン Hasmik TOROSYAN
マントヴァ公爵 Il Duca di Mantova	イヴァン・アヨン・リヴァス Iván AYÓN RIVAS
スパラフチーレ Sparafucile	妻屋秀和 TSUMAYA Hidekazu
マッダレーナ Maddalena	清水華澄 SHIMIZU Kasumi
モンテローネ伯爵 Il Conte di Monterone	須藤慎吾 SUDO Shingo
ジョヴァンナ Giovanna	森山京子 MORIYAMA Kyoko
マルツロ Marullo	友清 崇 TOMOKIYO Takashi
ボルサ Borsa	升島唯博 MASUJIMA Tadahiro
チェプラーノ伯爵 Il Conte di Ceprano	吉川健一 YOSHIKAWA Kenichi
チェプラーノ伯爵夫人 La Contessa di Ceprano	佐藤路子 SATO Michiko

ほか

合唱 新国立劇場合唱団
Chorus New National Theatre Chorus
管弦楽 東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra Tokyo Philharmonic Orchestra

Production of ABAO Bilbao Opera

2023年	5月	18日(木)19:00	21日(日)14:00
		25日(木)14:00	28日(日)14:00
		31日(水)14:00	
	6月	3日(土)14:00	

【チケット料金】 S:27,500円 ・ A:22,000円 ・ B:15,400円 ・ C:8,800円 ・ D:5,500円

【会場】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:マウリツィオ・ベニーニ

Conductor : Maurizio BENINI

メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場、英国ロイヤルオペラなど世界の主要歌劇場、音楽祭で活躍する指揮者。ボローニャ歌劇場『ブルスキーノ氏』でデビュー後、ミラノ・スカラ座に1992年『湖上の美人』でデビュー。スカラ座、ロッシーニ・オペラ・フェスティバル、英国ロイヤルオペラ、エディンバラフェスティバルなどで活躍。ボローニャ歌劇場管弦楽団、サンチャゴ・ムニシパル劇場首席指揮者、ナポリ・サンカルロ歌劇場首席客演指揮者などを歴任。最近では、メトロポリタン歌劇場『ルチア』『ドン・パスクワレ』『ロベルト・デヴェリュー』『セビリアの理髪師』『清教徒』『セミラーミデ』『マノン』、アムステルダムで『イル・トロヴァトーレ』、英国ロイヤルオペラ『ナブッコ』『椿姫』『シチリアの晩鐘』、チューリヒ歌劇場『カプレーティ家とモンテッキ家』、テアトロ・レアル『イル・トロヴァトーレ』『海賊』、モンテカルロ歌劇場『ルイザ・ミラー』『ファルスタッフ』、パリ・オペラ座『イル・トロヴァトーレ』、オランダ国立オペラ『セビリアの理髪師』『ナブッコ』、英国ロイヤルオペラ『椿姫』、ブエノスアイレス・コロソ歌劇場『リゴレット』、チューリヒ歌劇場『夢遊病の女』を指揮。新国立劇場には98年『セビリアの理髪師』以来の登場となる。



演出:エミリオ・サージ

Production : Emilio SAGI

哲学、文学、音楽学博士、オビエド名誉市民。1980年オビエドで『椿姫』を演出してデビュー。90～99年マドリッド・サルスエラ劇場監督、2001～05年マドリッド・テアトロ・レアル芸術監督、08年～15年ビルバオ・アリアガ劇場芸術監督。バロック期のサルスエラから現代オペラまで手がけ、ボローニャ歌劇場、フェニーチェ歌劇場、ミラノ・スカラ座、パリ・オデオン座、ローマ歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、フィラデルフィア・オペラ、ヒューストン・グラント・オペラ、ウィーン・フォルクスオーパー、アン・デア・ウィーン劇場、イスラエル・オペラ、ジュネーヴ大劇場、ストラズプール・ラン歌劇場、ボルドー歌劇場、マリインスキー劇場、香港オペラフェスティバル、ロッシーニ・オペラ・フェスティバル、ザルツブルク音楽祭、オビエド・カンポアモール劇場、ビルバオ・アリアガ劇場、ソフィア王妃芸術宮殿、バルセロナ・リセウ大劇場、テアトロ・レアルなどの著名劇場や音楽祭で活躍。カンポアモール・リリカル・アワード、「Ópera Actual」誌最優秀スペイン人演出家賞、アルゼンチン批評家賞などを受賞。20年スペイン政府芸術功労章受章。スペインのオペラ劇場連盟「Opera XXI」栄誉賞を受賞。新国立劇場では『運命の力』を演出している。



リゴレット:ジョルジュ・ペテアン(バリトン)

Rigoletto : George PETEAN

ルーマニア生まれ。地元の音楽院でピアノとトロンボーンを学んだ後、声楽を学ぶ。生地で『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロールでデビューし、2000年にはローマ歌劇場で『ラ・ボエーム』マルチェッロ役でルーマニア国外にデビューした。02～10年ハンブルク州立歌劇場専属歌手。英国ロイヤルオペラ、ウィーン国立歌劇場、パリ・オペラ座、バイエルン州立歌劇場、オランダ音楽祭、チューリヒ歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、北京・国家大劇院、モンテカルロ歌劇場など世界中の一流歌劇場に登場し、『ドン・カルロ』ロドリゴ、『椿姫』ジェルモン、『イル・トロヴァトーレ』ルーナ伯爵、『マクベス』『ナブッコ』『リゴレット』『シモン・ボッカネグラ』タイトルロールなどのヴェルディ作品を中心に活躍している。その他『清教徒』リカルド、『ルチア』エンリーコ、『セビリアの理髪師』フィガロのなどのベルカント・オペラ、『アンドレア・シェニエ』カルロ・ジェラルド、『道化師』トニオ、シルヴィオ、『カルメン』エスカミーリョ、『ファウスト』ヴァランタンなどをレパートリーにしている。新国立劇場初登場。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

ジルダ:ハスマック・トロシヤン(ソプラノ)

Gilda : Hasmik TOROSYAN

アルメニア、エレバン生まれ。当地で学び、数々のコンクールで優勝した後、2011年よりアルメニア国立アカデミーオペラ・バレエA.スペンディアリヤン劇場で活躍している。グレイス・パンプリー、テレサ・ベルガンサ、ミレツァ・フレニ、フアン・ディエゴ・フローレスなどのマスタークラスに参加したのち、13年にはグラインドボーン音楽祭にツアー公演でデビュー、14年、15年にはロッシーニ・オペラ・フェスティバルに出演した。15年にはフランダース・オペラ、17年にはボローニャ歌劇場、フィレンツェ五月音楽祭、18年にはハンブルク州立歌劇場、シャンゼリゼ劇場、19年にナポリ・サンカルロ歌劇場、トリノ王立歌劇場など次々と主要な劇場にデビューを果たしている。レパートリーは『イタリアのトルコ人』フィオリツァ、『新聞』リゼッテ、『夢遊病の女』アミーナ、『連隊の娘』マリー、『愛の妙薬』アディーナなどのベルカントの諸役を中心とし、他に『魔笛』夜の女王、『イドメネオ』イーリア、『ラ・ボエーム』ムゼッタなどでも活躍している。最近では、トリノ王立歌劇場『ラ・ボエーム』ムゼッタ、サレルノ・ヴェルディ歌劇場『リゴレット』ジルダ、カリアリ歌劇場『連隊の娘』マリーなどに出演。新国立劇場へは、19年『ドン・パスクワレ』ノリーナでデビューし、超絶技巧と天性の表現力で話題をさらった。



マントヴァ公爵:イヴァン・アヨン・リヴァス(テノール)

Il Duca di Mantova : Iván AYÓN RIVAS

1993年ペルー生まれのテノール。ペルーの国立音楽院で学んだ後、フアン・ディエゴ・フローレス、エルネスト・パラシオらの指導を受ける。2013年にペルーのオペラコンクールで第2位となり、ペルーで多くのリサイタルに出演。14年、ドイツのルートヴィヒスハーフェンでのフアン・ディエゴ・フローレスのチャリティー・ガラ（ルイーダ指揮スカラ座フィルハーモニー管弦楽団）でデビュー。15年に第3回エッタ・リミティ賞受賞後、トリノ王立歌劇場『ラ・ボエーム』ロドルフォ（16年）、レッジョ・エミーリアほかで『椿姫』アルフレード（16～17年）、トリノ王立歌劇場『ファルスタッフ』フェントン（17年）に出演。18年にはフェニーチェ歌劇場とローマ歌劇場で『ラ・ボエーム』ロドルフォ、フェニーチェ歌劇場、マチェラータ音楽祭『椿姫』アルフレード、フィレンツェ歌劇場、パレルモ・マッシモ劇場、ローマ歌劇場『リゴレット』マントヴァ公爵と主要歌劇場に次々と出演。最近ではフェニーチェ歌劇場『椿姫』、ローマ歌劇場『カプレーティ家とモンテッキ家』『リゴレット』、ラス・バルマス・オペラ、パリー・ペトルツェリ歌劇場『愛の妙薬』、ボリショイ劇場、トリノ王立劇場『ラ・ボエーム』、フェニーチェ歌劇場『ファウスト』『リゴレット』、ミラノ・スカラ座『マクベス』などに出演している。新国立劇場初登場。



スパラフチーレ:妻屋秀和(バス)

Sparafucile : TSUMAYA Hidekazu

東京藝術大学卒業、同大学大学院オペラ科修了。1994～2001年ライブツィヒ歌劇場、02年～11年ワイマールのドイツ国民劇場専属歌手。これまでにベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、スコティッシュ・オペラなどに出演。欧州、日本でモーツァルト、ロッシーニ、ヴェルディ、プッチーニ、ワーグナー、R.シュトラウス等のオペラの主要な役を80役以上演じており、新国立劇場では『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、『セビリアの理髪師』ドン・バジリオ、『アイダ』ランフィス、『ナブッコ』ペルの祭司長、『夜叉ヶ池』鉦蔵、『リゴレット』スパラフチーレ、『ヴォツェック』医者、『アラベッラ』ヴァルトナー伯爵、『ドン・カルロ』宗教裁判長、『マノン・レスコー』ジェロント、『ばらの騎士』警部、『ラインの黄金』ファフナー、ファーズルト、『魔笛』ザラストロ、『ルチア』ライモンドなど出演多数。18/19シーズンは『ファルスタッフ』ピストーラ、『タンホイザー』領主ヘルマン、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、『トゥーランドット』ティムール、20/21シーズン『夏の夜の夢』クインス、『フィガロの結婚』バルトロ、『イオランタ』ルネ、『ドン・カルロ』フィリッポ二世、『カルメン』スニガに出演。21/22シーズンは『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ハンス・フォルツ、『さまよえるオランダ人』ダーラントにも出演。22年4月には『ばらの騎士』オックス男爵、7月には『ペレアスとメリザンド』アルケルに出演予定。22/23シーズンは『タンホイザー』領主ヘルマン、『アイダ』ランフィスにも出演予定。二期会会員。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

マッダレーナ:清水華澄(メゾソプラノ)

Maddalena: SHIMIZU Kasumi

国立音楽大学卒業、同大学大学院修了。新国立劇場オペラ研修所第4期修了。文化庁派遣在外研修員、ロームミュージックファンデーション在外研究員としてイタリアに留学。07年第6回カルロ・ゴメス国際コンクール第2位。二期会『仮面舞踏会』ウルリカ、『アイダ』アムネリス、『フィガロの結婚』マルチェリーナ、『カヴァレリア・ルスティカーナ』サントウツァ、『ドン・カルロ』エボリ公女、『イル・トロヴァトーレ』アズチーナ、『ローエングリン』オルトルト、『サロメ』ヘロディアスなどで高い評価を得る。18年札幌文化芸術劇場ほかのグラントオペラ共同制作『アイダ』アムネリスも好評を博す。ヴェルディ『レクイエム』、マーラー「復活」「千人の交響曲」、ドヴォルザーク『スターバト・マーテル』などのコンサートのソリストとしての活躍も著しい。新国立劇場では『ワルキューレ』グリムゲルデ、『神々の黄昏』第二のノルン、『チェネントラ』ティーズベ、『オテロ』エミーリア、『ラインの黄金』フロスヒルデ、『アンドレア・シェニエ』ベルシ、高校生のためのオペラ鑑賞教室『カルメン』タイトルロール、『アイダ』（コンサート形式）アムネリスなどに出演。19年の『紫苑物語』ではうつろ姫に出演、内外のメディアから絶賛された。22/23シーズンは『ボリス・ゴドゥノフ』女主人にも出演予定。二期会会員。



モンテローネ伯爵:須藤慎吾(バリトン)

Il Conte di Monterone: SUDO Shingo

国立音楽大学卒業、同大学院修了。第42回日伊声楽コンクール1位、オルヴィエート国際オペラコンクール2位（イタリア）などを受賞。1999年渡伊、各地の劇場にて『椿姫』ジェルモン、『リゴレット』タイトルロール、『オテロ』イアーゴ、『ラ・ボエーム』マルチェッロ、『トスカ』スカルピア、『カルメン』エスカミーリョなどに出演。2006年帰国し藤原歌劇団に入団。同団で『愛の妙薬』ベルコーレ、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵などに出演。新国立劇場では19年『椿姫』ジェルモンで大成功を収めたほか、『アンドレア・シェニエ』フーキエ・タンヴィル、『蝶々夫人』シャープレス、『ルチア』エンリーコ、高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演『蝶々夫人』シャープレス、高校生のためのオペラ鑑賞教室『トスカ』スカルピアなどに出演。21年には『カルメン』高校生のためのオペラ鑑賞教室公演及びびわ湖ホール公演でエスカミーリョに出演した。22/23シーズンは『ラ・ボエーム』マルチェッロにも出演予定。国立音楽大学非常勤講師、藤原歌劇団団員。



サロメ

Salome

オペラパレス | 4回公演 | 全1幕(ドイツ語上演/日本語及び英語字幕付)

●会員先行販売期間: 2023年3/4(土)~3/7(火)

●一般発売日: 2023年3/12(日)

初演:1905年12月9日/ドレスデン宮廷歌劇場

作曲:リヒャルト・シュトラウス

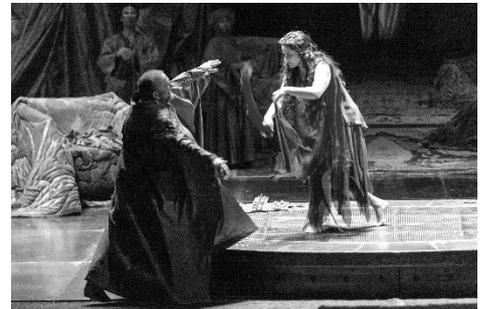
原作:オスカー・ワイルド

台本:ヘドヴィッヒ・ラッハマン

プロダクションについて

後期ロマン派を代表する作曲家R. シュトラウスの衝撃的傑作。新約聖書の挿話をもとにしたオスカー・ワイルドの戯曲『サロメ』をR. シュトラウスが極彩色の音楽でオペラ化しました。その退廃的、耽美的な内容は初演されるや大反響を呼び、シュトラウスのオペラ出世作となりました。全1幕の舞台に、豊かな旋律と大胆な不協和音が凝縮されており、緊張感に満ちた濃密なドラマには息をつく暇もありません。故エファードニングによるプロダクションは舞台中央に巨大な古井戸を据えた迫力と妖しさ漂う秀作で、2000年の新国立劇場初演以来、再演を繰り返し、今回が7回目の上演となる人気レパートリーです。

シュトラウスで特に評価の高いトリックスの指揮、高い表現力で注目を集めるアレックス・ペンダ(アレクサンドリーナ・ペンダチャンスカ)のタイトルロール、ヘロデ役はヘルデンテノールのイアン・ストーレイ、ヘロディアスには『イエヌーフア』コステルニチカで大評判となったジェニファー・ラーモア、ヨハナーンにはワグナーやロシア作品をレパートリーに著名劇場で大活躍するトマス・トマソンが出演します。



2016年公演より

あらすじ

紀元30年頃。不気味な月が昇る晩に、領主ヘロデの宮殿で宴が催されている。ヘロデの義理の娘サロメは、ヘロデのいやらしい視線と宴の退屈さに嫌気がさし、外に出てくる。サロメに恋焦がれる衛兵隊長ナラポートは、 tonightは彼女が一段と輝いて見えると称えるが、小姓は不吉な予感がしてたまらない。すると庭の古井戸から「救世主が現れる日がついに来た」と語る声が。それは預言者ヨハナーンの声だった。彼は、サロメの母ヘロディアスを糾弾したために古井戸に幽閉されているが、ヘロデからも恐れられている。興味を持ったサロメは、ヨハナーンを連れてくるようナラポートに命じる。古井戸から出てきたヨハナーンは、穢れたヘロディアスの罪を激しく非難するが、サロメはすっかり魅せられてしまう。サロメはヨハナーンにキスを求めるが、彼は拒否。その光景に耐えられずナラポートが自殺してしまうほど、サロメは何度もキスを求めるものの、ヨハナーンは「呪われよ」との言葉を吐いて、古井戸に戻る。

ヘロデはサロメを宴の席に呼び戻し、酒を一緒に飲もう、横に座れ、と誘うが、サロメは断る。ヨハナーンは「ついにその日が来た」と不気味に語り、ユダヤ人たちは神や預言者についての論争を繰り返す。ヘロデはおもむろにサロメに踊りを求める。嫌がるサロメだが「望みのものを何なりと褒美にやる」と言われ、妖艶な踊りを披露する。踊り終えてサロメが要求したのは、ヨハナーン的首であった。恐れおののくヘロデがどんなに諭してもサロメが要求を変えないため、ヘロデはその望みを受け入れる。銀の盆に載って運ばれるヨハナーン的首。受け取ったサロメは、ヨハナーンに口づけして恍惚とする。あまりのおぞましさに、ヘロデは兵士たちにサロメ殺害を命じるのだった。

リヒャルト・シュトラウス

サロメ

Richard STRAUSS / Salome

全1幕(ドイツ語上演/日本語及び英語字幕付)

指揮 Conductor	コンスタンティン・トリンクス Constantin TRINKS
演出 Production	アウグスト・エファーディング August EVERDING
美術・衣裳 Set and Costume Design	ヨルク・ツィンマーマン Jörg ZIMMERMANN
サロメ Salome	アレックス・ペンダ Alex PENDA
ヘロデ Herodes	イアン・ストーレイ Ian STOREY
ヘロディアス Herodias	ジェニファー・ラーモア Jennifer LARMORE
ヨハナーン Johanaan	トマス・トマソン Tómas TÓMASSON
ナラボート Naraboth	鈴木 准 SUZUKI Jun
ヘロディアスの小姓 Ein Page der Herodias	加納悦子 KANOH Etsuko
5人のユダヤ人1 5 Juden 1	与儀 巧 YOGI Takumi
5人のユダヤ人2 5 Juden 2	青地英幸 AOCHI Hideyuki
5人のユダヤ人3 5 Juden 3	加茂下 稔 KAMOSHITA Minoru
5人のユダヤ人4 5 Juden 4	糸賀修平 ITOGA Shuhei
5人のユダヤ人5 5 Juden 5	畠山 茂 HATAKEYAMA Shigeru
2人のナザレ人1 2 Nazarener 1	北川辰彦 KITAGAWA Tatsuhiko
2人のナザレ人2 2 Nazarener 2	秋谷直之 AKITANI Naoyuki
2人の兵士1 2 Soldaten 1	金子慧一 KANEKO Keiichi
2人の兵士2 2 Soldaten 2	大塚博章 OTSUKA Hiroaki
カッパドキア人 Ein Cappadocier	大久保光哉 OKUBO Mitsuya
奴隷 Ein Sklave	花房英里子 HANAFUSA Eriko
管弦楽 Orchestra	東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra

2023年	5月	27日(土)14:00	30日(火)14:00
	6月	1日(木)19:00	4日(日)14:00

【チケット料金】 S:22,000円 ・ A:16,500円 ・ B:11,000円 ・ C:6,600円 ・ D:3,300円

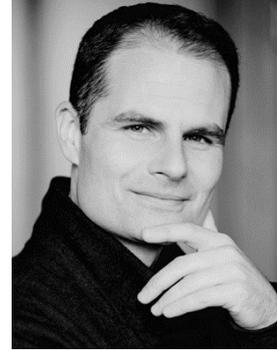
【会場】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:コンスタンティン・トリンクス

Conductor : Constantin TRINKS

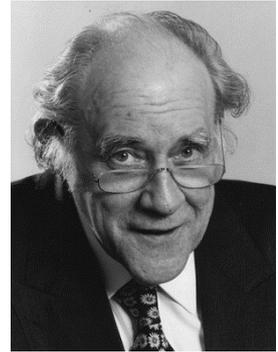
カールスルーエ生まれ。同市の音楽大学で学ぶ。シュトゥットガルト室内合唱団ではテノール歌手として出演。歌劇場や音楽祭でトレーナーや指揮者を務めながら幅広いレパートリーを身につける。バーデン州立劇場カールスルーエで音楽スタッフ、カペルマイスターを務めた後、2002年にはザールラント州立劇場の第2カペルマイスターに就任、04年には第1カペルマイスターに任命され、06-09年には音楽監督代理を務めた。09年より12年までダルムシュタット歌劇場音楽監督。13年には、ワーグナー生誕200年を記念したパイロイト音楽祭『恋愛禁制』を指揮している。その他にはウィーン国立歌劇場、ベルリン・コーミッシェ・オーパー、クラーゲンフルト市立劇場、バイエルン州立歌劇場、パリ・オペラ座などに客演しているほか、コンサート指揮者としても様々なオーケストラを指揮している。モーツァルト、ベッリーニ、ドニゼッティ、プッチーニ、ヴェルディ、ワーグナー、シュトラウス、バーンスタインなどのオペラレパートリーのほか、幅広いシンフォニーレパートリーを持つ。最近ではバイエルン州立歌劇場『アラベッラ』、『後宮からの逃走』、ローマ歌劇場『メリー・ウィドウ』、バーデン州立劇場『ホフマン物語』、プラハ国立歌劇場『ローエングリン』などを指揮。新国立劇場では08年『ドン・ジョヴァンニ』、12年『ラ・ボエーム』、13年『タンホイザー』、17年『フィガロの結婚』を指揮している。



演出:アウグスト・エファーディング

Production : August EVERDING

1928年ドイツのヴェストファーレン州ボットロップに生まれる。ボン大学およびミュンヘン大学で哲学、ドイツ文学、演劇学を修める。ミュンヘン・カンマーシュピーレで演出助手として研鑽を積み、その後各地で演出家として活躍。63年に同劇場のインテンダント、73年にハンブルク州立歌劇場、77年にバイエルン州立歌劇場の総監督となり、82年にはバイエルン州の全州立劇場の総監督に就任、93年にバイエルン州テアターアカデミー総監督兼理事長となる。99年ミュンヘンにて逝去。生前は、ドイツ劇場連盟をはじめとする芸術文化関係団体の要職を歴任するかたわら、演出家としても積極的に活躍した。



サロメ:アレックス・ペンダ(ソプラノ)

Salome : Alex PENDA

ソフィア生まれ。ビルバオ・オペラ『ルチア』でデビューし国際的に躍り出た。ウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ベルギー王立モネ劇場、ポリショイ劇場など世界一流の歌劇場に出演し、『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージ、『ドン・カルロ』エポリ公女とエリザベッタ、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラとドンナ・アンナ、『サロメ』タイトルロール、『仮面舞踏会』アメリア、『マクベス』マクベス夫人、『フィデリオ』レオノーレなど、バロック、古典からベルカント、ヴェルディ、ワーグナーやシュトラウスまでレパートリーとする。近年の主な出演に、サンタフェ・オペラ、ポーランド国立歌劇場『サロメ』タイトルロール、ウィーン国立歌劇場『道化師』ネッダ、エクサンプロヴァンス音楽祭『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラ、ウィーン国立歌劇場、モネ劇場、ケルン歌劇場『エレクトラ』タイトルロール、サンタフェ・オペラ『フィデリオ』レオノーレ、アヴィニヨン歌劇場、リモージュ歌劇場、ランス歌劇場『マクベス』マクベス夫人、ソフィア歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ『トスカ』タイトルロール、モネ劇場『カヴァレリア・ルスティカーナ』サントウツァなどがある。東京交響楽団『パルジファル』クンドリーで来日している。新国立劇場初登場。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

ヘロデ:イアン・ストーレイ(テノール)

Herodes : Ian STOREY

イギリス生まれ。グラフィックデザインを学んだ後、声楽を学ぶ。1991年に『ルクレツィアの凌辱』『ラ・ボエーム』『アイダ』でデビュー。スコティッシュ・オペラ『マクロプロス事件』『トスカ』『イル・トロヴァトーレ』『カーチャ・カバノヴァ』、ウェルシュ・ナショナル・オペラ『トスカ』『カルメン』『トゥーランドット』などに出演。イタリアにはトッレ・デル・ラーゴ・プッチーニ音楽祭『トゥーランドット』カラフでデビューし、ナポリ・サンカルロ歌劇場『マクロプロス事件』『イエヌーフア』、ボローニャ歌劇場『スペードの女王』、パレルモ・マッシモ劇場『ルル』、フェニーチェ歌劇場『ナクソス島のアリアドネ』、ヴェローナ歌劇場『トゥーランドット』などに出演。英国ロイヤルオペラには『トゥーランドット』カラフでデビュー。『トリスタンとイゾルデ』はミラノ・スカラ座、チューリヒ、ベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、グラインドボーン音楽祭、フェニーチェ歌劇場など特に数多く出演している。最近ではベルリン州立歌劇場、ライプツィヒ歌劇場『神々の黄昏』ジークフリート、サンフランシスコ・オペラ『さまよえるオランダ人』エリック、ボローニャ歌劇場『ピーター・グライムズ』タイトルロール、サンカルロ歌劇場『ムツェンスク郡のマクベス夫人』セルゲイなどに出演。新国立劇場初登場。



ヘロディアス:ジェニファー・ラーモア(メゾソプラノ)

Herodias : Jennifer LARMORE

アメリカ出身。1986年にニース歌劇場で『皇帝ティートの慈悲』でデビュー。以来、メトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座、パリ・オペラ座、ジュネーヴ大劇場、ハンブルク州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、英国ロイヤルオペラなど世界各地で活躍。最近の出演には、英国ロイヤルオペラ、マドリッド・テアトロ・レアル、パリ・オペラ座、オランダ国立オペラ『ルル』ゲシュヴィッツ伯爵令嬢、ベルリン・ドイツ・オペラ『イエヌーフア』コステルニチカ、ジュネーヴ大劇場及びボローニャ歌劇場『マクベス』マクベス夫人、ジュネーヴ大劇場『メデア』タイトルロール、ハンブルク州立歌劇場『美しきエレヌ』タイトルロール、ジュネーヴ大劇場『ヴォツェック』マリー、アン・デア・ウィーン劇場『ポッペアの戴冠』オッターヴィア、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラなどがある。新国立劇場では2015/16シーズン『イエヌーフア』コステルニチカに出演。



ヨハナン:トマス・トマソン(バリトン)

Johanaan : Tómas TÓMASSON

レイキャビク音楽学校で学び、アイスランド・オペラでモーツァルト、ヴェルディの役に出演。英国王立音楽院卒業直後に国際的活動を始め、英国ロイヤルオペラ、ミラノ・スカラ座、トリノ王立歌劇場、マドリッド・テアトロ・レアル、ベルリン州立歌劇場、ジュネーヴ大劇場、ベルギー王立モネ劇場、ナポリ・サンカルロ歌劇場、バイエルン州立歌劇場、モンテカルロ歌劇場、ロサンゼルス・オペラなど世界の著名歌劇場に出演する。近年では、オビエド歌劇場、ジュネーヴ大劇場『ラインの黄金』『ワルキューレ』ヴォータン、シカゴ・リリック・オペラ、ベルリン州立歌劇場『パルジファル』クリングゾル、ザクセン州立歌劇場、ロサンゼルス・オペラ『サロメ』ヨハナン、モネ劇場、ウィーン国立歌劇場、ローマ歌劇場、サンカルロ歌劇場『スペードの女王』トムスキー伯爵、ハンガリー国立歌劇場のライマン『リア王』タイトルロール、コーミッシュ・オーバー『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ハンス・ザックス、モネ劇場、ハンガリー国立歌劇場、パレルモ・マッシモ劇場『パルジファル』アムフォルタス、チューリヒ歌劇場『マクロプロス事件』コレナティー、ワシントン・ナショナル・オペラ『サムソンとデリラ』アビメレクなどに出演している。新国立劇場初登場。



ラ・ボエーム

La Bohème

●会員先行販売期間：2023年4/22(土)～4/25(火)

オペラパレス | 5回公演 | 全4幕(イタリア語上演/日本語及び英語字幕付)

●一般発売日：2023年4/30(日)

初演：1896年2月1日/トリノ王立歌劇場

作曲：ジャコモ・プッチーニ

原作：アンリ・ミュルジェ

台本：ジュゼッペ・ジャコーザ/ルイーダ・イツリカ

プロダクションについて

19世紀パリを舞台に、詩人ロドルフォとお針子ミミの純愛、そして明日の成功を夢見る若き芸術家たちの貧しくも自由な生活を描いた青春オペラ。プッチーニならではの甘美な音楽がロマンティックな物語を紡ぎます。「冷たき手を」「私の名はミミ」の名アリアが綴る出会いのシーンは、数あるオペラの中でも最も美しい愛の名場面。クリスマスのかルチェ・ラタンの喧騒、別れを決意した恋人たちの美しくも悲しい四重唱、涙を禁じえないラストシーンと、見どころは枚挙にいとまがありません。当時のパリを写實的に再現した舞台美術は、栗國淳演出の大きな見どころで、各幕ごとに丁寧に練りこまれた心理描写が深い感動を誘います。

ミミには欧州で活躍するアレサンドラ・マリアネリ、ロドルフォには2019年『蝶々夫人』ピンカートンの端正な表現で魅了したステイーヴン・コストロが出演。指揮は大野和士芸術監督自らが当たります。



2020年公演より

あらすじ

【第1幕】若き詩人ロドルフォ、画家マルチェッロ、音楽家ショナール、哲学者コッリーネは、成功を夢見て、パリの屋根裏部屋で暮らしている。薪も買えず、原稿を燃やして暖を取るほど貧しいが、クリスマス・イブの今日はショナールの報酬でディナーへ出かける。ロドルフォだけ急ぎの原稿を仕上げるため部屋に残る。すると隣の部屋に住むお針子ミミが火を分けてほしいとやってくる。ミミは火をもらって帰ろうとしたとき鍵を落としたことに気づく。火の消えた闇の中、2人で鍵を探すうちに手が触れ合い、恋に落ちる。

【第2幕】カフェ・モミュスで仲間と合流したロドルフォはミミを紹介する。そこへマルチェッロの元恋人ムゼッタが、新しいパトロンのお老人アルチンドロとやってくる。マルチェッロの気を引くためムゼッタはわざと大げさに振る舞うが、マルチェッロは無視。しかし、ついにはアルチンドロを追い払い、2人はめでたくよりを戻す。

【第3幕】雪降る夜明け。ロドルフォの態度に悩むミミは、マルチェッロの働く酒場へ向かう。店にはロドルフォがいて、マルチェッロに語り出す。自分の稼ぎでは病のミミの治療代を払えない、だからミミが離れるようわざと冷たく当たっているのだと。ミミは身を引く決意をする。マルチェッロはムゼッタの浮気を疑いけんか別れする。

【第4幕】ロドルフォとマルチェッロは元恋人に想いを馳せて仕事ははかどらない。ショナールとコッリーネと共に騒いでいると、ムゼッタが瀕死のミミを連れてくる。皆で所持品を質に入れて薬代にしようとするが、時すでに遅く、ミミは、望み通りロドルフォの側で息を引き取る。

新国立劇場 開場25周年記念公演

ジャコモ・プッチーニ

ラ・ボエーム

Giacomo PUCCINI / La Bohème

全4幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

指揮 Conductor	大野和士 ONO Kazushi	
演出 Production	粟國 淳 AGUNI Jun	
美術 Set Design	パスクアーレ・グロッシ Pasquale GROSSI	
衣裳 Costume Design	アレッサンドロ・チャンマルーギ Alessandro CIAMMARUGHI	
照明 Lighting Design	笠原俊幸 KASAHARA Toshiyuki	
ミミ Mimi	アレッサンドラ・マリアネッリ Alessandra MARIANELLI	
ロドルフォ Rodolfo	スティーヴン・コステロ Stephen COSTELLO	
マルチェッロ Marcello	須藤慎吾 SUDO Shingo	
ムゼッタ Musetta	ヴァレンティーナ・マストランジェロ Valentina MASTRANGELO	
ショナール Schaunard	駒田敏章 KOMADA Toshiaki	
コッリーネ Colline	フランチェスコ・レオーネ Francesco LEONE	
ベノア Benoit	鹿野由之 SHIKANO Yoshiyuki	
アルチンドロ Alcindoro	晴 雅彦 HARE Masahiko	ほか
合唱 Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus	
管弦楽 Orchestra	東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra	

2023年	6月	28日(水)19:00	30日(金)14:00
	7月	2日(日)14:00	5日(水)14:00
		8日(土)14:00	

【チケット料金】 S:24,200円 ・ A:19,800円 ・ B:13,200円 ・ C:7,700円 ・ D:4,400円

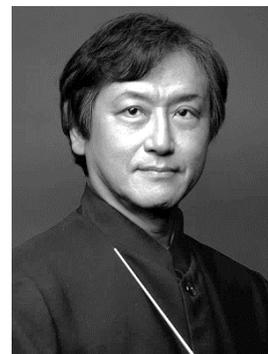
【会場】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:大野和士

Conductor : ONO Kazushi

東京生まれ。東京藝術大学卒。バイエルン州立歌劇場にてサヴァリッシュ、パタネー両氏に師事。1987年トスカニーニ国際指揮者コンクール優勝。世界各地でオペラ公演及びシンフォニーコンサートで聴衆を魅了し続けている。90～96年ザグレブ・フィル音楽監督。96～2002年バーデン州立歌劇場音楽総監督。92～99年、東京フィル常任指揮者を経て、現在同楽団桂冠指揮者。02～08年モネ劇場音楽監督。12～15年アルトゥーロ・トスカニーニ・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者、08～16年フランス国立リヨン歌劇場首席指揮者を歴任。15年から東京都交響楽団、バルセロナ交響楽団音楽監督。22年にはブリュッセル・フィルハーモニック音楽監督に就任予定。オペラでは、07年にミラノ・スカラ座にデビューし、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、バイエルン州立歌劇場、グラインドボーン音楽祭、エクサンプロヴァンス音楽祭などへ出演。渡邊暁雄音楽基金音楽賞、芸術選奨文部大臣新人賞、出光音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、エクソンモービル音楽賞、サントリー音楽賞、日本芸術院賞ならびに恩賜賞、朝日賞など受賞多数。紫綬褒章受章。文化功労者。17年にはリヨン歌劇場がインターナショナル・オペラ・アワード「最優秀オペラハウス2017」を獲得し、フランス政府より芸術文化勲章オフィシエ、リヨン市からリヨン市特別メダルが授与された。18年9月より新国立劇場オペラ芸術監督。新国立劇場では98年『魔笛』、10～11年『トリスタンとイゾルデ』、19年『紫苑物語』『トゥーランドット』、20年『アルマゲドン』、21年『ワルキューレ』『カルメン』、子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ『Super Angels スーパーエンジェル』、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』を指揮している。22年7月には『ペレアスとメリザンド』を、22/23シーズンは『ボリス・ゴドゥノフ』も指揮する予定。



演出:粟國 淳

Production : AGUNI Jun

東京生まれローマ育ち。ローマ・サンタ・チェチーリア音楽院でヴァイオリンと指揮法を学ぶ。オペラの演技・演出法をM.ゴヴォーニに師事。新国立劇場ではF.ゼッフィレッリ、L.ロンコーニなど巨匠達の演出助手を務めた。1998年から文化庁派遣芸術家在外研修員として渡伊、H.ブロックハウス氏のもとで研鑽を積んだ後、P.ファッジオーニ、A.ファッシーニなどの片腕としてヨーロッパを拠点に活躍。97年藤原歌劇団公演『愛の妙薬』で演出家デビュー。びわ湖ホール、二期会、神奈川県民共同制作『トゥーランドット』『アイーダ』『オテロ』、東京二期会『仮面舞踏会』、あいちトリエンナーレ『ホフマン物語』、藤原歌劇団『ファルスタッフ』『ノルマ』、日生劇場オペラ『アイナダマール』（日本初演）『セビリアの理髪師』、紀尾井ホールバロックオペラ『オリンピアアデ』など多数の作品を手掛ける。海外ではサッサリ・ヴェルディ劇場『アンドレア・シェニエ』『エルナーニ』、スロヴェニア国立マリボル歌劇場『ホフマン物語』を演出している。2011年度エクソンモービル音楽賞奨励賞を受賞。新国立劇場では『ラ・ボエーム』『セビリアの理髪師』『おさん』『フィレンツェの悲劇/ジャンニ・スキッキ』『チェネレントラ』、小劇場オペラ『外套』を演出。現在、日生劇場芸術参与、新国立劇場オペラ研修所演出主任講師。



ミミ:アレクサンドラ・マリアネッリ(ソプラノ)

Mimi : Alessandra MARIANELLI

イタリア生まれ。リヴォルノのマスカーニ音楽院で学んだ。2001年、15歳の時カーシナリカ国際コンクールで第2位に入賞、翌年ピサ・ヴェルディ劇場『フィガロの結婚』バルバリーナでデビューした。04年にはスピロス・アルギリス賞を受賞し、続いてフィレンツェ歌劇場に出演。その後ローマ歌劇場、トリエステ・ヴェルディ劇場、トリノ王立歌劇場、ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ劇場、パルマ王立歌劇場、ナポリ・サンカルロ歌劇場、ペーザロ・ロッシーニ・オペラ・フェスティバル、ボローニャ歌劇場といったイタリアの重要な劇場、さらにブリュッセル・モネ劇場、マドリッド・テアトロ・レアル、モンテカルロ歌劇場などヨーロッパの主要歌劇場にも活躍を広げている。『オルフェオとエウリディーチェ』アムール、『奥様女中』セルピーナ、『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、『イタリアのトルコ人』フィオリッラ、『リゴレット』ジルダ、『ジャンニ・スキッキ』ラウレッタ、『ラ・ボエーム』ムゼッタ、ミミ、『シモン・ボッカネグラ』アメリア、『カルメン』ミカエラなどをレパートリーとし、CD、DVDも多く発売されている。新国立劇場初登場。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

ロドルフォ: スティーヴン・コステロ(テノール)

Rodolfo : Stephen COSTELLO

アメリカ生まれ。フィラデルフィア・アカデミー・オブ・ヴォーカル・アーツに学ぶ。2007年に26歳でメトロポリタン歌劇場のシーズン初日にデビューし、注目を集める。09年にはリチャード・タッカー賞を受賞。以後、英国ロイヤルオペラ、ベルリン・ドイツ・オペラ、ウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン州立歌劇場、パリ・オペラ座、ザクセン州立歌劇場、シカゴ・リリック・オペラ、サンフランシスコ・オペラ、ワシントン・オペラ、ザルツブルク音楽祭などの一流歌劇場、音楽祭で活躍。21/22シーズンはナポリ・サンカルロ歌劇場『ラ・ボエーム』ロドルフォ、ウィーン国立歌劇場『ファウスト』タイトルロール、『愛の妙薬』ネモリーノ、カナディアン・オペラ・カンパニー『蝶々夫人』ピンカートン、英国ロイヤルオペラ『椿姫』アルフレード、メトロポリタン歌劇場『リゴレット』マントヴァ伯爵、バイエルン州立歌劇場『椿姫』アルフレードに出演。新国立劇場では『蝶々夫人』ピンカートンに出演した。



マルチェッロ: 須藤慎吾(バリトン)

Marcello : SUDO Shingo

国立音楽大学卒業、同大学院修了。第42回日伊声楽コンクール1位、オルヴィエート国際オペラコンクール2位(イタリア)などを受賞。1999年渡伊、各地の劇場にて『椿姫』ジェルモン、『リゴレット』タイトルロール、『オテロ』イアーゴ、『ラ・ボエーム』マルチェッロ、『トスカ』スカルピア、『カルメン』エスカミーリョなどに出演。2006年帰国し藤原歌劇団に入団。同団で『愛の妙薬』ベルコーレ、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵などに出演。新国立劇場では19年『椿姫』ジェルモンで大成功を収めたほか、『アンドレア・シェニエ』フーキエ・タンヴィル、『蝶々夫人』シャープレス、『ルチア』エンリーコ、高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演『蝶々夫人』シャープレス、高校生のためのオペラ鑑賞教室『トスカ』スカルピアなどに出演。21年には『カルメン』高校生のためのオペラ鑑賞教室公演及びびわ湖ホール公演でエスカミーリョに出演した。22/23シーズンは『リゴレット』モンテローネ伯爵にも出演予定。国立音楽大学非常勤講師、藤原歌劇団団員。



ムゼッタ: ヴァレンティーナ・マストラランジェロ(ソプラノ)

Musetta : Valentina MASTRANGELO

イタリア生まれ。サレルノのG.マルトゥッチ音楽院に学んだ後、2013年からマリエッラ・デヴィアに師事。08年にオペラデビューし、13年には、ペーザロのロッシェニ・アカデミーに参加、ロッシェニ・オペラ・フェスティバルに『ランスへの旅』のコレターゼ夫人役でデビューした。AsLiCoコンクールのほか、15年第5回アニタ・チェルケッティ国際コンクール、ポルトフィーノ国際コンクール、16年ハンス・ガボア・ベルヴェデーレ国際コンクールと名だたるコンクールで入賞している。トリノ王立歌劇場、ヴェネツィア・フェニーチェ歌劇場、ジェノヴァ・カルロ・フェリチェ劇場、トリエステ・ヴェルディ劇場、ナポリ・サンカルロ歌劇場、ボローニャ歌劇場、フィレンツェ五月祭音楽祭、マチェラータ音楽祭などに出演、『ラ・ボエーム』ムゼッタをはじめ、『フィガロの結婚』スザンナ、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラ、『魔笛』パミーナ、ロッシェニ及びヴェルディ『オテロ』デズデーモナ、『エウゲニ・オネーギン』タチアーナ、『トゥーランドット』リュウ、『カルメン』ミカエラなどをレパートリーとしている。新国立劇場初登場。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

シヨナル:駒田敏章(バトン)

Schaunard : KOMADA Toshiaki

愛知教育大学を経て、東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。同大学大学院修士課程修了。新国立劇場オペラ研修所第11期修了。研修所公演『ナクソス島のアリアドネ』音楽教諭などを演じている。文化庁新進芸術家海外研修制度にてドイツ・ベルリンに留学。2012年オランダ・グローニンゲンで開催された音楽祭に『スペインの時』ラミーロ役で出演し、Labberte-Hoedemaker Awardを受賞。14年に小澤征爾音楽塾『子どもと魔法』のカヴァーキャストを務めた後、小澤征爾音楽塾とセイジ・オザワ松本フェスティバルには毎年関わる。歌曲の演奏にも力を入れ、東京・春・音楽祭ではピアニストの小菅優、居福健太郎と共にシェイクスピア作品を取り上げ演奏した。第83回日本音楽コンクール(歌曲)第1位。新国立劇場では『アンドレア・シェニエ』フレヴィル、『ウェルテル』ジョアンに出演している。22/23シーズンには『ジュリオ・チェーザレ』クリーオ、『ボリス・ゴドゥノフ』ニキーティチにも出演予定。



コッリーネ:フランチェスコ・レオーネ(バス)

Colline : Francesco LEONE

サルデーニャ島、カリアリ生まれ。カリアリのパレストリーナ音楽院でクラシックギターと声楽を学ぶ。2014年にカリアリ歌劇場にジェルメッティ指揮『トスカ』でデビュー、その後も『椿姫』『ラ・ボエーム』『フィガロの結婚』『西部の娘』『ドン・ジョヴァンニ』など数多く出演している。他にもバルマ・ヴェルディ音楽祭、ボローニャ歌劇場、ナポリ・サンカルロ歌劇場、ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ劇場、ヴェローナ・フィラルモニコ劇場、トリノ王立歌劇場、バーリ・ペトルツェリ劇場などイタリア各地の主要劇場に次々とデビューしている。レパートリーには『ラ・ボエーム』コッリーネのほか、『ドン・ジョヴァンニ』レボレッコ、マゼット、『イル・トロヴァトーレ』フェランドなどがある。新国立劇場初登場。



令和4年度公演 〈2 演目 8 公演〉

2022年7月
新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2022
(新国立劇場公演)

蝶々夫人

Madama Butterfly | G. プッチーニ
6回公演

2022年10月
新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2022
(ロームシアター京都公演)

蝶々夫人

Madama Butterfly | G. プッチーニ
2回公演

蝶々夫人

Madama Butterfly

オペラパレス | 6回公演 | 全2幕<イタリア語上演/日本語及び英語字幕付>

●高校生以下発売日: 2022年5/22(日)

●一般発売日: 2022年6/29(水)

初演:1904年2月17日/ミラノ・スカラ座

作曲:ジャコモ・プッチーニ

原作:デーヴィッド・ベラスコ

台本:ルイージ・イツリカ/ジュゼッペ・ジャコーザ

プロダクションについて

新国立劇場開場翌年の平成10年から始まった「高校生のためのオペラ鑑賞教室」は今年で24回目を迎えます。

『蝶々夫人』はオペラ鑑賞教室でも最も上演の多い作品で、これまでに、栗山昌良演出のプロダクションで3回、栗山民也演出のプロダクションでは東京公演で7回、関西公演で6回上演されています。

長崎を舞台に、アメリカ海軍士官の夫・ピンカートンへの一途な愛を貫いた蝶々さんの悲劇を描いたオペラは、初めてオペラを鑑賞する高校生にも深い共感を呼んでいます。栗山民也の演出は、死をもって愛を貫いた蝶々さんの世界をシンプルながらスケールの大きな舞台上で描いています。人物の内面を鮮やかに描写する演出が、多感な高校生の想像力を大いに刺激し、オペラへの興味を喚起すると好評を博しています。



2019年公演より

あらすじ

【第1幕】明治時代の長崎。日本滞在中、家を借り、現地妻を娶るアメリカ海軍士官ピンカートンは、仲介人ゴローに家や使用人を案内される。アメリカ総領事シャープレスはピンカートンの軽薄な考えを聞き、結婚に真剣な花嫁のことを心配する。そんななか花嫁行列がやってきて、美しい蝶々さんがピンカートンの前に現れる。「私は世界一幸せ」と嬉しそうに語る蝶々さんは15歳で、裕福な武士の家に生まれたが、父は切腹して亡くなり、今は芸者として生きているという。一族が集まり結婚式が行われている最中、叔父の僧侶ボンゾがやってきて、キリスト教に改宗した蝶々さんに絶縁を言い渡す。式は終わり、2人きりの甘く幸せな夜を迎える。

【第2幕】ピンカートンがアメリカに帰国して3年。「コマドリが巣を作る頃に帰る」とのピンカートンの言葉を信じる蝶々さんは、彼の帰りを待ち続けている。シャープレスとゴローは蝶々さんにヤマドリとの再婚を勧めるが、蝶々さんはそれはできないと拒む。というのも、ピンカートンとの間に子供が生まれていたのだ。驚いたシャープレスは言葉もない。実はピンカートンは帰国後に"本当の"結婚をしていたのだ。そしてピンカートンの船が入港。蝶々さんとスズキは部屋を花でいっぱいにして、夫の到着を待つ。蝶々さんが奥の部屋にいる間、やってきたのはピンカートン、シャープレス、そしてピンカートンの妻ケート。スズキが応対するが、蝶々さんの思いを知ったピンカートンは堪らず立ち去る。すべてを悟った蝶々さんは、子供をアメリカで育てたいというケートの言葉を受け入れる。父の形見の短刀に刻まれた言葉「名誉をもって生きられないものは名誉をもって死ぬ」ことを決意した蝶々さんは、子供に別れを告げ、切腹する。「蝶々さん！」と叫ぶピンカートンの声がむなしく響く。

ジャコモ・プッチーニ
新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2022

蝶々夫人

Giacomo PUCCINI / Madama Butterfly
全2幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

指揮 Conductor	阪 哲朗 BAN Tetsuro
演出 Production	栗山民也 KURIYAMA Tamiya
美術 Set Design	島 次郎 SHIMA Jiro
衣裳 Costume Design	前田文子 MAEDA Ayako
照明 Lighting Design	勝柴次朗 KATSUSHIBA Jiro

蝶々夫人 Madama Butterfly	木下美穂子 KINOSHITA Mihoko	森谷真理 MORIYA Mari
ピンカートン Pinkerton	村上公太 MURAKAMI Kota	城 宏憲 JO Hironori
シャープレス Sharpless	成田博之 NARITA Hiroyuki	近藤 圭 KONDO Kei
スズキ Suzuki	小林由佳 KOBAYASHI Yuka	但馬由香 TAJIMA Yuka
ゴロー Goro	糸賀修平 ITOGA Shuhei	升島唯博 MASUJIMA Tadahiro
ボンゾ Lo zio Bonzo	伊藤貴之 ITO Takayuki	畠山 茂 HATAKEYAMA Shigeru
神官 Il commissario imperial	上野裕之 UENO Hiroyuki	千葉裕一 CHIBA Yuichi
ヤマドリ Il principe Yamadori	高橋正尚 TAKAHASHI Masanao	吉川健一 YOSHIKAWA Kenichi
ケート Kate Pinkerton	佐藤路子 SATO Michiko	十合翔子 SOGO Shoko

合唱 Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽 Orchestra	東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra

助 成：公益財団法人 **ロームミュージックファンデーション**

協 賛：**ローム株式会社**  **損保ジャパン**

2022年 7月	8日(金)13:00	11日(月)13:00	12日(火)13:00
	14日(木)13:00	15日(金)13:00	16日(土)13:00

【チケット料金】 2,200円(高校生のみ【学校団体】)

残席がある公演日に限り前売販売：2,200円(高校生以下)／4,400円(一般)

【 会 場 】 オペラパレス

蝶々夫人

Madama Butterfly

ロームシアター京都 メインホール | 2回公演 | 全2幕<イタリア語上演/日本語字幕付>

●高校生以下発売日: 2022年9/10(土)

●一般発売日: 2022年10/8(土)

初演: 1904年2月17日/ミラノ・スカラ座

作曲: ジャコモ・プッチーニ

原作: デーヴィッド・ペラスコ

台本: ルイーゼ・イッリカ/ジュゼッペ・ジャコーザ

プロダクションについて

「高校生のためのオペラ鑑賞教室」は2008年から関西公演が始まり、今年で15回目を迎えます。2016年度より会場をロームシアター京都へ移し、『フィガロの結婚』『蝶々夫人』『魔笛』『ドン・パスクワレ』と上演を重ねてきました。今年の上演演目は新国立劇場公演と同じく『蝶々夫人』。管弦楽は京都市交響楽団です。



2019年公演より

あらすじ

【第1幕】明治時代の長崎。日本滞在中、家を借り、現地妻を娶るアメリカ海軍士官ピンカートンは、仲介人ゴローに家や使用人を案内される。アメリカ総領事シャープレスはピンカートンの軽薄な考えを聞き、結婚に真剣な花嫁のことを心配する。そんななか花嫁行列がやってきて、美しい蝶々さんがピンカートンの前に現れる。「私は世界一幸せ」と嬉しそうに語る蝶々さんは15歳で、裕福な武士の家に生まれたが、父は切腹して亡くなり、今は芸者として生きているという。一族が集まり結婚式が行われている最中、叔父の僧侶ボンゾがやってきて、キリスト教に改宗した蝶々さんに絶縁を言い渡す。式は終わり、2人きりの甘く幸せな夜を迎える。

【第2幕】ピンカートンがアメリカに帰国して3年。「コマドリが巣を作る頃に帰る」とのピンカートンの言葉を信じる蝶々さんは、彼の帰りを待ち続けている。シャープレスとゴローは蝶々さんにヤマドリとの再婚を勧めるが、蝶々さんはそれはできないと拒む。というのも、ピンカートンとの間に子供が生まれていたのだ。驚いたシャープレスは言葉もない。実はピンカートンは帰国後に"本当の"結婚をしていたのだ。そしてピンカートンの船が入港。蝶々さんとスズキは部屋を花でいっぱいにして、夫の到着を待つ。蝶々さんが奥の部屋にいる間、やってきたのはピンカートン、シャープレス、そしてピンカートンの妻ケート。スズキが対応するが、蝶々さんの思いを知ったピンカートンは堪らず立ち去る。すべてを悟った蝶々さんは、子供をアメリカで育てたいというケートの言葉を受け入れる。父の形見の短刀に刻まれた言葉「名誉をもって生きられないものは名誉をもって死ぬ」ことを決意した蝶々さんは、子供に別れを告げ、切腹する。「蝶々さん!」と叫ぶピンカートンの声がむなしく響く。

ジャコモ・プッチーニ
新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2022

蝶々夫人

Giacomo PUCCINI / Madama Butterfly

全2幕〈イタリア語上演／日本語字幕付〉

指揮 Conductor	阪 哲朗 BAN Tetsuro
演出 Production	栗山民也 KURIYAMA Tamiya
美術 Set Design	島 次郎 SHIMA Jiro
衣裳 Costume Design	前田文子 MAEDA Ayako
照明 Lighting Design	勝柴次朗 KATSUSHIBA Jiro
蝶々夫人 Madama Butterfly	木下美穂子 KINOSHITA Mihoko
ピンカートン Pinkerton	村上公太 MURAKAMI Kota
シャープレス Sharpless	近藤 圭 KONDO Kei
スズキ Suzuki	但馬由香 TAJIMA Yuka
ゴロー Goro	糸賀修平 ITOGA Shuhei
ボンゾ Lo zio Bonzo	畠山 茂 HATAKEYAMA Shigeru
ヤマドリ Il principe Yamadori	高橋正尚 TAKAHASHI Masanao
ケート Kate Pinkerton	佐藤路子 SATO Michiko

ほか

合唱 Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽 Orchestra	京都市交響楽団 City of Kyoto Symphony Orchestra

主 催：京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、新国立劇場

助 成：公益財団法人 **ロームミュージックファンデーション**

協 賛：**ローム株式会社**

2022年 10月 25日(火)13:00	27日(木)13:00
-----------------------	-------------

- 【チケット料金】 2,200円(高校生のみ【学校団体】)
残席がある公演日に限り前売販売:2,200円(高校生以下)／4,400円(一般)
- 【 会 場 】 ロームシアター京都 メインホール

Opera

公演一覧

開場記念公演～2021/2022 シーズン

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
開場記念公演	建・TAKERU*	團 伊玖磨	星出 豊	西澤敬一	1997. 10/10
	ローエングリン*	R.ワーグナー	若杉 弘	ヴォルフガング・ワーグナー	1997. 11/22
	アイーダ*	G.ヴェルディ	ガルシア・ナバロ	フランコ・ゼツフィレツリ	1998. 1/15
1998/ 1999	蝶々夫人*	G. プッチーニ	菊池彦典	栗山昌良	1998. 4/08
	魔笛*	W.A.モーツァルト	大野和士	ミヒヤエル・ハンペ	1998. 5/06
	ナブッコ*	G.ヴェルディ	アントン・グアダーニョ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	1998. 6/18
	アラベッラ*	R.シュトラウス	若杉 弘	鈴木敬介	1998. 9/19
	セビリアの理髪師*	G.ロッシーニ	マウリツィオ・ベニーニ	ピエールフランチェスコ・マエストリーニ	1998. 10/09
	ヘンゼルとグレーテル*	E.フンパーディンク	佐藤功太郎	西澤敬一	1998. 11/27
	カルメン*	G.ビゼー	グスタフ・クーン	グスタフ・クーン	1999. 1/19
	天守物語*	水野修孝	星出 豊	栗山昌良	1999. 2/13
	こうもり*	J.シュトラウスⅡ世	北原幸男	寺崎裕則	1999. 4/21
罪と罰*	原 嘉壽子	外山雄三	加藤 直	1999. 6/18	
1999/ 2000	仮面舞踏会*	G.ヴェルディ	パオロ・オルミ	アルベルト・ファッシーニ	1999. 9/21
	マノン・レスコー*	G.プッチーニ	菊池彦典	ピエールフランチェスコ・マエストリーニ	1999. 11/06
	蝶々夫人	G.プッチーニ	ウジェコスラフ・シュテイ	栗山昌良	1999. 12/18
	ドン・ジョヴァンニ*	W.A.モーツァルト	アッシャー・フィッシュ	ロベルト・デ・シモーネ	2000. 1/16
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	アントニオ・ピロツリ	栗園淳/ピエールフランチェスコ・マエストリーニ	2000. 2/20
	沈黙*	松村禎三	星出 豊	中村敬一	2000. 3/16
	サロメ*	R.シュトラウス	若杉 弘	アウグスト・エファーディング	2000. 4/11
	ドン・キショット*	J.E.F.マスネ	アラン・ギンガル	ピエロ・ファッジョーニ	2000. 5/07
リゴレット*	G.ヴェルディ	レナート・パルンボ	アルベルト・ファッシーニ	2000. 6/11	
2000/ 2001	トスカ*	G.プッチーニ	マルチェッロ・ヴィオッティ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2000. 9/21
	魔笛	W.A.モーツァルト	村中大祐	ミヒヤエル・ハンペ	2000. 10/10
	エウゲニ・オネーギン*	P.チャイコフスキー	ステファノ・ランザーニ	ボリス・ポクロフスキー/ヴェラ・カルパチョフ	2000. 10/30
	青ひげ公の城*	B.バルトーク	飯守泰次郎	ゲッツ・フリードリヒ	2000. 11/24
	夕鶴*	團 伊玖磨	増田宏昭	栗山民也	2000. 12/02
	イル・トロヴァトーレ*	G.ヴェルディ	ダニエル・オーレン	アルベルト・ファッシーニ	2001. 1/15
	リゴレット	G.ヴェルディ	アントニオ・ピロツリ	アルベルト・ファッシーニ	2001. 2/05
	ラインの黄金*	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	2001. 3/30
	仮面舞踏会	G.ヴェルディ	菊池彦典	アルベルト・ファッシーニ	2001. 5/13
	蝶々夫人	G.プッチーニ	アントン・グアダーニョ	栗山昌良	2001. 6/07
マノン*	J.E.F.マスネ	アラン・ギンガル	ジャン＝ピエール・ポネル	2001. 7/05	
2001/ 2002	トゥーランドット*	G.プッチーニ	菊池彦典	ウーゴ・デ・アナ	2001. 9/15
	ナブッコ	G.ヴェルディ	パオロ・オルミ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2001. 11/01
	ドン・ジョヴァンニ	W.A.モーツァルト	ポール・コネリー	ロベルト・デ・シモーネ	2001. 11/16
	ドン・カルロ*	G.ヴェルディ	ダニエレ・カッレガーリ	アルベルト・ファッシーニ	2001. 12/06
	ヘンゼルとグレーテル	E.フンパーディンク	三澤洋史	西澤敬一	2002. 1/10
	忠臣蔵*	三枝成彰	大友直人	平尾力哉	2002. 1/25
	ウェルテル*	J.E.F.マスネ	アラン・ギンガル	アルベルト・ファッシーニ	2002. 2/21
	ワルキューレ*	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	2002. 3/26
	サロメ	R.シュトラウス	児玉 宏	アウグスト・エファーディング	2002. 5/01
	トスカ	G.プッチーニ	アルベルト・ヴェロネージ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2002. 5/02
カルメン*	G.ビゼー	ジャック・デラコート	マウリツィオ・ディ・マッティーア	2002. 6/07	

★＝新制作

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2002/ 2003	椿姫*	G.ヴェルディ	ブルーノ・カンパネッラ	ルーカ・ロンコーニ	2002. 9/05
	ルチア*	G.ドニゼッティ	パオロ・オルミ	ヴィンチェンツォ・グリゾストミトラヴァリーニ	2002. 10/11
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	アントニオ・ピロリ	栗國 淳	2002. 10/31
	イル・トロヴァトーレ	G.ヴェルディ	ジュリアーノ・カレッラ	アルベルト・ファッシーニ	2002. 11/21
	ナクソス島のアリアドネ*	R.シュトラウス	児玉 宏	ハンス＝ペーター・レーマン	2002. 12/12
	光*	一柳 慧	若杉 弘	松本重孝	2003. 1/17
	アラベッラ	R.シュトラウス	若杉 弘	鈴木敬介	2003. 1/31
	ジークフリート*	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	2003. 3/27
	ラ・ボエーム*	G.プッチーニ	アントニオ・ピロリ	栗國 淳	2003. 4/19
	オテロ*	G.ヴェルディ	菊池彦典	エライジャ・モシンスキー	2003. 6/10
	アイーダ	G.ヴェルディ	ダニエル・オーレン	フランコ・ゼッフィレッリ	2003. 9/14
2003/ 2004	フィガロの結婚*	W.A.モーツァルト	ウルフ・シルマー	アンドレアス・ホモキ	2003. 10/10
	トスカ	G.プッチーニ	ジェラルド・コルステン	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2003. 11/09
	Hoffman 物語*	G.オッフエンバック	阪 哲朗	フィリップ・アルロー	2003. 11/28
	鳴神／俊寛*	間宮芳生／清水 修	秋山和慶	市川團十郎	2004. 1/30
	スペインの燦き*	M.ラヴェル	マルク・ピオレ	ニコラ・ムシン	2004. 2/18
	サロメ	R.シュトラウス	フリードリヒ・ハイダー	アウグスト・エファードインク	2004. 2/27
	神々の黄昏*	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	2004. 3/26
	マクベス*	G.ヴェルディ	ミゲル・ゴメス＝マルティネス	野田秀樹	2004. 5/13
	ファルスタッフ*	G.ヴェルディ	ダン・エッティンガー	ジョナサン・ミラー	2004. 6/25
カルメン	G.ビゼー	沼尻竜典	マウリツィオ・ディ・マッティーア	2004. 6/28	
2004/ 2005	カヴァレリア・ルスティカーナ／ 道化師*	P.マスカーニ／ R.レオンカヴァッロ	阪 哲朗	グリシャ・アサガロフ	2004. 9/09
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	井上道義	栗國 淳	2004. 9/25
	エレクトラ*	R.シュトラウス	ウルフ・シルマー	ハンス＝ペーター・レーマン	2004. 11/11
	椿姫	G.ヴェルディ	若杉 弘	ルーカ・ロンコーニ	2004. 11/22
	マクベス	G.ヴェルディ	リッカルド・フリッツァ	野田秀樹	2005. 1/17
	ルル*	A.ベルク	シュテファン・アントン・レック	デヴィッド・パウントニー	2005. 2/08
	おさん—「心中天網島」より*	久保摩耶子	神田慶一	栗國 淳	2005. 2/25
	コジ・ファン・トゥッテ*	W.A.モーツァルト	ダン・エッティンガー	コルネリア・レプシュレーガー	2005. 3/21
	フィガロの結婚	W.A.モーツァルト	平井秀明	アンドレアス・ホモキ	2005. 4/07
	フィデリオ*	L.v.ベートーヴェン	ミヒャエル・ボーダー	マルコ・アルトゥーロ・マレッリ	2005. 5/28
蝶々夫人*	G.プッチーニ	レナート・パルンボ	栗山民也	2005. 6/24	
2005/ 2006	ニュルンベルクのマイスタージンガー*	R.ワーグナー	シュテファン・アントン・レック	ベルント・ヴァイクル	2005. 9/14
	セビリアの理髪師*	G.ロッシーニ	ニール・カバレッティ	ヨーゼフ・E.ケップリンガー	2005. 10/14
	アンドレア・シェニエ*	U.ジョルダノ	ミゲル・ゴメス＝マルティネス	フィリップ・アルロー	2005. 11/20
	Hoffman 物語	J.オッフエンバック	阪 哲朗	フィリップ・アルロー	2005. 11/27
	魔笛	W.A.モーツァルト	服部謙二	ミヒャエル・ハンペ	2006. 1/21
	コジ・ファン・トゥッテ	W.A.モーツァルト	オラフ・ヘンツォルト	コルネリア・レプシュレーガー	2006. 2/04
	愛怨*	三木 稔	大友直人	恵川智美	2006. 2/17
	運命の力*	G.ヴェルディ	井上道義	エミリオ・サージ	2006. 3/15
	カヴァレリア・ルスティカーナ／ 道化師	P.マスカーニ／ R.レオンカヴァッロ	ファビオ・ルイーダ	グリシャ・アサガロフ	2006. 4/05
	こうもり*	J.シュトラウス II 世	ヨハネス・ヴィルトナー	ハインツ・ツェドニク	2006. 6/14

★＝新制作

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2006/ 2007	ドン・カルロ*	G.ヴェルディ	ミゲル・ゴメス＝マルティネス	マルコ・アルトゥーロ・マレツリ	2006. 9/07
	イドメネオ*	W.A.モーツァルト	ダン・エッティンガー	グリシャ・アサガロフ	2006. 10/20
	フィデリオ	L.v.ベートーヴェン	コルネリウス・マイスター	マルコ・アルトゥーロ・マレツリ	2006. 11/30
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	ミケーレ・カルツリ	ヨーゼフ・E.ケップリンガー	2006. 12/01
	さまよえるオランダ人*	R.ワーグナー	ミヒャエル・ボーダー	マティアス・フォン・シュテークマン	2007. 2/25
	運命の力	G.ヴェルディ	マウリツィオ・バルパチーニ	エミリオ・サージ	2007. 3/15
	蝶々夫人	G.プッチーニ	若杉 弘	栗山民也	2007. 3/22
	西部の娘*	G.プッチーニ	ウルフ・シルマー	アンドレアス・ホモキ	2007. 4/15
	ばらの騎士*	R.シュトラウス	ペーター・シュナイダー	ジョナサン・ミラー	2007. 6/06
	ファルスタッフ	G.ヴェルディ	ダン・エッティンガー	ジョナサン・ミラー	2007. 6/13
2007/ 2008	タンホイザーとヴァルトブルクの歌合戦*	R.ワーグナー	フィリップ・オーギャン	ハンス＝ペーター・レーマン	2007. 10/08
	フィガロの結婚	W.A.モーツァルト	沼尻竜典	アンドレアス・ホモキ	2007. 10/18
	カルメン*	G.ビゼー	ジャック・デラコート	鶴山 仁	2007. 11/25
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	マウリツィオ・バルパチーニ	栗國 淳	2008. 1/20
	サロメ	R.シュトラウス	トーマス・レスナー	アウグスト・エファアーディング	2008. 2/03
	黒船 一夜明け*	山田耕筰	若杉 弘	栗山昌良	2008. 2/22
	アイーダ	G.ヴェルディ	リッカルド・フリッツァ	フランコ・ゼッフィレツリ	2008. 3/10
	魔弾の射手*	C.M.v.ウェーバー	ダン・エッティンガー	マティアス・フォン・シュテークマン	2008. 4/10
	軍人たち*	B.A.ツインマーマン	若杉 弘	ヴィリー・デッカー	2008. 5/05
	椿姫	G.ヴェルディ	上岡敏之	ルーカ・ロンコーニ	2008. 6/05
2008/ 2009	トウーランドット*	G.プッチーニ	アントネッロ・アッレマンディ	ヘニング・ブロックハウス	2008. 10/01
	リゴレット	G.ヴェルディ	ダニエレ・カッレガーリ	アルベルト・ファッシーニ	2008. 10/25
	ドン・ジョヴァンニ*	W.A.モーツァルト	コンスタンティン・トリックス	グリシャ・アサガロフ	2008. 12/05
	蝶々夫人	G.プッチーニ	カルロ・モンタナーロ	栗山民也	2009. 1/12
	こうもり	J.シュトラウスⅡ世	アレクサンダー・ジョエル	ハインツ・ツェドニク	2009. 1/27
	ラインの黄金	R.ワーグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	2009. 3/07
	ワルキューレ	R.ワーグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	2009. 4/03
	ムツェンスク郡のマクベス夫人*	D.ショスタコーヴィチ	ミハイル・シンケヴィチ	リチャード・ジョーンズ	2009. 5/01
	チェネレントラ*	G.ロッシーニ	デイヴィッド・サイラス	ジャン＝ピエール・ポネル	2009. 6/07
	修禅寺物語*	清水 脩	外山雄三	坂田藤十郎	2009. 6/25
2009/ 2010	オテロ*	G.ヴェルディ	リッカルド・フリッツァ	マリオ・マルトーネ	2009. 9/20
	魔笛	W.A.モーツァルト	アルフレート・エシュヴェ	ミヒャエル・ハンペ	2009. 10/29
	ヴォツェック*	A.ベルク	ハルトムート・ヘンヒエン	アンドレアス・クリーゲンブルク	2009. 11/18
	トスカ	G.プッチーニ	フレデリック・シャスラン	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2009. 12/02
	ジークフリート	R.ワーグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	2010. 2/11
	神々の黄昏	R.ワーグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	2010. 3/18
	愛の妙薬*	G.ドニゼッティ	パオロ・オルミ	チェーザレ・リエヴィ	2010. 4/15
	影のない女*	R.シュトラウス	エーリッヒ・ヴェヒター	ドニ・クリエフ	2010. 5/20
	カルメン	G.ビゼー	マウリツィオ・バルパチーニ	鶴山 仁	2010. 6/10
	鹿鳴館*	池辺晋一郎	沼尻竜典	鶴山 仁	2010. 6/24
2010/ 2011	アラベッラ*	R.シュトラウス	ウルフ・シルマー	フィリップ・アルロー	2010. 10/02
	フィガロの結婚	W.A.モーツァルト	ミヒャエル・ギュットラー	アンドレアス・ホモキ	2010. 10/10
	アンドレア・シェニエ	U.ジョルダーノ	フレデリック・シャスラン	フィリップ・アルロー	2010. 11/12
	トリスタンとイゾルデ*	R.ワーグナー	大野和士	デイヴィッド・マクヴィカー	2010. 12/25
	夕鶴	團 伊玖磨	高関 健	栗山民也	2011. 2/04
	椿姫	G.ヴェルディ	広上淳一	ルーカ・ロンコーニ	2011. 2/14
	マノン・レスコー*(公演中止)	G.プッチーニ	リッカルド・フリッツァ	ジルベール・デフロ	
	ばらの騎士	R.シュトラウス	マンフレッド・マイヤー＝ホーファー	ジョナサン・ミラー	2011. 4/10
	コジ・ファン・トゥッテ*	W.A.モーツァルト	ミゲル・ゴメス＝マルティネス	ダミアノ・ミキエレット	2011. 5/29
	蝶々夫人	G.プッチーニ	イヴ・アベル	栗山民也	2011. 6/06

★＝新制作

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2011/ 2012	イル・トロヴァトーレ*	G.ヴェルディ	ピエトロ・リッツォ	ウルリッヒ・ペーター	2011. 10/02
	サロメ	R.シュトラウス	ラルフ・ヴァイケルト	アウグスト・エファアーディング	2011. 10/09
	ルサルカ*	A.ドヴォルザーク	ヤロスラフ・キズリンク	ポール・カラン	2011. 11/23
	こうもり	J.シュトラウス二世	ダン・エッティンガー	ハインツ・ツェドニク	2011. 12/01
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	コンスタンティン・トリックス	粟國 淳	2012. 1/19
	沈黙*	松村禎三	下野竜也	宮田慶子	2012. 2/15
	さまよえるオランダ人	R. ワーグナー	トマーシュ・ネトピル	マティアス・フォン・シュテークマン	2012. 3/08
	オテロ	G.ヴェルディ	ジャン・レイサム＝ケニック	マリオ・マルトーネ	2012. 4/01
	ドン・ジョヴァンニ	W.A.モーツァルト	エンリケ・マッツォーラ	グリシャ・アサガロフ	2012. 4/19
ローエングリン*	R.ワーグナー	ペーター・シュナイダー	マティアス・フォン・シュテークマン	2012. 6/01	
2012/ 2013	ピーター・グライムズ*	B.ブリテン	リチャード・アームストロング	ウィリー・デッカー	2012. 10/02
	トスカ	G.プッチーニ	沼尻竜典	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2012. 11/11
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	カルロ・モンタナーロ	ヨーゼフ・E.ケップリンガー	2012. 11/28
	タンホイザーとヴァルトブルクの歌合戦	R.ワーグナー	コンスタンティン・トリックス	ハンス＝ペーター・レーマン	2013. 1/23
	愛の妙薬	G.ドニゼッティ	ジュリアン・サレムクール	チェーザレ・リエヴィ	2013. 1/31
	アイーダ	G.ヴェルディ	ミヒヤエル・ギュットラー	フランコ・ゼッフィレッリ	2013. 3/11
	魔笛	W.A.モーツァルト	ラルフ・ヴァイケルト	ミヒヤエル・ハンペ	2013. 4/14
	ナブッコ*	G.ヴェルディ	パオロ・カリニャーニ	グラハム・ヴィック	2013. 5/19
	コジ・ファン・トゥッテ	W.A.モーツァルト	イヴ・アベル	ダミアーノ・ミキエレット	2013. 6/03
夜叉ヶ池*	香月 修	十束尚宏	岩田達宗	2013. 6/25	
2013/ 2014	リゴレット*	G.ヴェルディ	ピエトロ・リッツォ	アンドレアス・クリーゲンブルク	2013. 10/03
	フィガロの結婚	W.A.モーツァルト	ウルフ・シルマー	アンドレアス・ホモキ	2013. 10/20
	ホフマン物語	J.オッフエンバック	フレデリック・シャスラン	フィリップ・アルロー	2013. 11/28
	カルメン	G.ビゼー	アイナルス・ルビキス	鶴山 仁	2014. 1/19
	蝶々夫人	G.プッチーニ	ケリー＝リン・ウィルソン	栗山民也	2014. 1/30
	死の都*	E.W.コロンゴルト	ヤロスラフ・キズリンク	カスパー・ホルテン	2014. 3/12
	ヴォツェック	A.ベルク	ギュンター・ノイホルト	アンドレアス・クリーゲンブルク	2014. 4/05
	カヴァレリア・ルスティカーナ /道化師*	P.マスカーニ/ R.レオンカヴァッロ	レナート・パルンボ	ジルベール・デフロ	2014. 5/14
	アラベッラ	R.シュトラウス	ベルトラン・ド・ビリー	フィリップ・アルロー	2014. 5/22
鹿鳴館	池辺晋一郎	飯森範親	鶴山 仁	2014. 6/19	
2014/ 2015	バルジファル*	R.ワーグナー	飯守泰次郎	ハリー・クブファー	2014. 10/02
	ドン・ジョヴァンニ	W.A.モーツァルト	ラルフ・ヴァイケルト	グリシャ・アサガロフ	2014. 10/16
	ドン・カルロ	G.ヴェルディ	ピエトロ・リッツォ	マルコ・アルトゥーロ・マレツィ	2014. 11/27
	さまよえるオランダ人	R.ワーグナー	飯守泰次郎	マティアス・フォン・シュテークマン	2015. 1/18
	こうもり	J.シュトラウス二世	アルフレート・エシュヴェ	ハインツ・ツェドニク	2015. 1/29
	マノン・レスコー*	G.プッチーニ	ピエール・ジョルジョ・モランディ	ジルベール・デフロ	2015. 3/09
	運命の力	G.ヴェルディ	ホセ・ルイス・ゴメス	エミリオ・サージ	2015. 4/02
	椿姫*	G.ヴェルディ	イヴ・アベル	ヴァンサン・ブサール	2015. 5/10
	ばらの騎士	R.シュトラウス	シュテファン・ショルテス	ジョナサン・ミラー	2015. 5/24
沈黙	松村禎三	下野竜也	宮田慶子	2015. 6/27	
2015/ 2016	ラインの黄金*	R.ワーグナー	飯守泰次郎	ゲッツ・フリードリヒ	2015. 10/01
	トスカ	G.プッチーニ	エイヴィン・グルバルグ・イェンセン	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2015. 11/17
	ファルスタッフ	G.ヴェルディ	イヴ・アベル	ジョナサン・ミラー	2015. 12/03
	魔笛	W.A.モーツァルト	ロベルト・パーテルノストロ	ミヒヤエル・ハンペ	2016. 1/24
	イエヌーファ*	L.ヤナーチェク	トマーシュ・ハヌス	クリストフ・ロイ	2016. 2/28
	サロメ	R.シュトラウス	ダン・エッティンガー	アウグスト・エファアーディング	2016. 3/06
	ウェルテル*	J.É.F.マスネ	エマニュエル・プラッソン	ニコラ・ジョエル	2016. 4/03
	アンドレア・シェニエ	U.ジョルダノ	ヤデル・ピニャミーニ	フィリップ・アルロー	2016. 4/14
	ローエングリン	R.ワーグナー	飯守泰次郎	マティアス・フォン・シュテークマン	2016. 5/23
夕鶴	團 伊玖磨	大友直人	栗山民也	2016. 7/01	

★＝新制作

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2016/ 2017	ワルキューレ*	R.ワーグナー	飯守泰次郎	ゲッツ・フリードリヒ	2016. 10/02
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	パオロ・アリヴァベーニ	粟國 淳	2016. 11/17
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	フランチェスコ・アンジェリコ	ヨーゼフ・E.ケップリンガー	2016. 11/27
	カルメン	G.ビゼー	イヴ・アベル	鶴山 仁	2017. 1/19
	蝶々夫人	G.プッチーニ	フィリップ・オーギャン	栗山民也	2017. 2/02
	ルチア*	G.ドニゼッティ	ジャンパオロ・ビザンティ	ジャン＝ルイ・グリンダ	2017. 3/14
	オテロ	G.ヴェルディ	パオロ・カリニャーニ	マリオ・マルトーネ	2017. 4/09
	フィガロの結婚	W.A.モーツァルト	コンスタンティン・トリンクス	アンドレアス・ホモキ	2017. 4/20
2017/ 2018	ジークフリート*	R.ワーグナー	飯守泰次郎	ゲッツ・フリードリヒ	2017. 6/01
	神々の黄昏*	R.ワーグナー	飯守泰次郎	ゲッツ・フリードリヒ	2017. 10/01
	椿姫	G.ヴェルディ	リッカルド・フリッツァ	ヴァンサン・ブサル	2017. 11/16
	ばらの騎士	R.シュトラウス	ウルフ・シルマー	ジョナサン・ミラー	2017. 11/30
	こうもり	J.シュトラウス二世	アルフレート・エシュヴェ	ハインツ・ツェドニク	2018. 1/18
	松風*	細川俊夫	デヴィッド・ロバート・コールマン	サシヤ・ヴァルツ	2018. 2/16
	ホフマン物語	J.オッフェンバック	セバステイアン・ルラン	フィリップ・アルロー	2018. 2/28
	愛の妙薬	G.ドニゼッティ	フレデリック・シャスラン	チェーザレ・リエヴィ	2018. 3/14
	アイーダ	G.ヴェルディ	パオロ・カリニャーニ	フランコ・ゼッフィレッリ	2018. 4/05
	フィデリオ*	L.v.ベートーヴェン	飯守泰次郎	カタリーナ・ワーグナー	2018. 5/20
2018/ 2019	トスカ	G.プッチーニ	ロレンツォ・ヴィオッティ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2018. 7/01
	魔笛*	W.A.モーツァルト	ローラント・ベアー	ウィリアム・ケントリッジ	2018. 10/03
	カルメン	G.ビゼー	ジャン＝リュック・タンゴー	鶴山 仁	2018. 11/23
	ファルスタッフ	G.ヴェルディ	カルロ・リッツィ	ジョナサン・ミラー	2018. 12/06
	タンホイザー	R.ワーグナー	アッシャー・フィッシュ	ハンス＝ペーター・レーマン	2019. 1/27
	紫苑物語*	西村 朗	大野和士	笈田ヨシ	2019. 2/17
	ウェルテル	J.E.F.マスネ	ポール・ダニエル	ニコラ・ジョエル	2019. 3/19
	フィレンツェの悲劇 /ジャンニ・スキッキ*	A.ツェムリンスキー /G.プッチーニ	沼尻竜典	粟國 淳	2019. 4/07
	ドン・ジョヴァンニ	W.A.モーツァルト	カーステン・ヤヌシュケ	グリシャ・アサガロフ	2019. 5/17
	蝶々夫人	G.プッチーニ	ドナート・レンツェッティ	栗山民也	2019. 6/01
2019/ 2020	トゥーランドット*	G.プッチーニ	大野和士	アレックス・オリエ	2019. 7/18
	エウゲニ・オネーギン*	P.チャイコフスキー	アンドリー・ユルケヴィチ	ドミトリー・ベルトマン	2019. 10/01
	ドン・パスクワレ*	G.ドニゼッティ	コラード・ロヴァーリス	ステファノ・ヴィツイオーリ	2019. 11/09
	椿姫	G.ヴェルディ	イヴァン・レブシッチ	ヴァンサン・ブサル	2019. 11/28
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	パオロ・カリニャーニ	粟國 淳	2020. 1/24
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	アントネッロ・アッレマンディ	ヨーゼフ・E.ケップリンガー	2020. 2/06
	ゴジ・ファン・トゥッテ(公演中止)	W.A.モーツァルト	パオロ・オルミ	ダミアーノ・ミキエレット	
	ジュリオ・チェーザレ*(公演中止)	G.F.ヘンデル	リナルド・アレクサンドリーニ	ロラン・ベリー	
	ホフマン物語(公演中止)	J.オッフェンバック	マルコ・レトーニャ	フィリップ・アルロー	
	サロメ(公演中止)	R.シュトラウス	コンスタンティン・トリンクス	アウグスト・エファアーディング	
2020/ 2021	ニュルンベルクのマイスタージンガー* (公演中止)	R.ワーグナー	大野和士	イェンス＝ダニエル・ヘルツォーク	
	夏の夜の夢*	B.ブリテン	飯森範親	レア・ハウスマン (デイヴィッド・マクヴィカーの演出に基づく)	2020. 10/04
	アルマゲドンの夢*	藤倉 大	大野和士	リディア・シュタイアー	2020. 11/15
	こうもり	J.シュトラウス二世	クリストファー・フランクリン	ハインツ・ツェドニク	2020. 11/29
	トスカ	G.プッチーニ	ダニエレ・カッレガーリ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2021. 1/23
	フィガロの結婚	W.A.モーツァルト	沼尻竜典	アンドレアス・ホモキ	2021. 2/07
	ワルキューレ	R.ワーグナー	大野和士/城谷正博	ゲッツ・フリードリヒ	2021. 3/11
	夜鳴きうぐいす /イオランタ*	I.ストラヴィンスキー /P.チャイコフスキー	高関 健	ヤニス・コッコス	2021. 4/04
	ルチア	G.ドニゼッティ	スペランツァ・スカップッチ	ジャン＝ルイ・グリンダ	2021. 4/18
	ドン・カルロ	G.ヴェルディ	パオロ・カリニャーニ	マルコ・アルトゥーロ・マレッリ	2021. 5/20
カルメン*	G.ビゼー	大野和士	アレックス・オリエ	2021. 7/03	

★＝新制作

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2021/ 2022	チェネレントラ*	G.ロッシーニ	城谷正博	栗國 淳	2021. 10/01
	ニュルンベルクのマイスタージンガー*	R.ワーグナー	大野和士	イェンス＝ダニエル・ヘルツォーク	2021. 11/18
	蝶々夫人	G.プッチーニ	下野竜也	栗山民也	2021. 12/05
	さまよえるオランダ人	R.ワーグナー	ガエタノ・デスピノーサ	マティアス・フォン・シュテークマン	2022. 1/26
	愛の妙薬	G.ドニゼッティ	ガエタノ・デスピノーサ	チェーザレ・リエヴィ	2022. 2/07
	椿姫	G.ヴェルディ	アンドリー・ユルケヴィチ	ヴァンサン・ブサール	2022. 3/10
	ばらの騎士	R.シュトラウス	サッシャ・ゲッツェル	ジョナサン・ミラー	2022. 4/03
	魔笛	W.A.モーツァルト	オレグ・カエターニ	ウィリアム・ケントリッジ	2022. 4/16
	オルフェオとエウリディーチェ*	C.W.グルック	鈴木優人	勅使川原三郎	2022. 5/19
	ペレアスとメリザンド*	C.ドビュッシー	大野和士	ケイティ・ミツチエル	2022. 7/02

★＝新制作

〈高校生のためのオペラ鑑賞教室〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 10 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	菊池彦典	栗山昌良	1998. 7/15
平成 11 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	星出 豊	栗山昌良	1999. 7/13
平成 12 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	福森 湘	栗山昌良	2000. 7/12
平成 13 年度	トスカ	G.プッチーニ	村中大祐	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2001. 7/10
平成 14 年度	トスカ	G.プッチーニ	井崎正浩	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2002. 7/12
平成 15 年度	トスカ	G.プッチーニ	佐藤正浩	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2003. 7/11
平成 16 年度	カルメン	G.ビゼー	沼尻竜典	マウリツィオ・ディ・マッティーア	2004. 7/12
平成 17 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2005. 7/11
平成 18 年度	カヴァレリア・ルスティカーナ	P.マスカーニ	岡本和之	グリシヤ・アサガロフ	2006. 7/10
平成 19 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2007. 7/09
平成 20 年度	椿姫	G.ヴェルディ	城谷正博	ルーカ・ロンコーニ	2008. 7/11
	蝶々夫人(於 あましんアルカイックホール)	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2008. 11/13
平成 21 年度	トスカ	G.プッチーニ	沼尻竜典	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2009. 7/10
	蝶々夫人(於 あましんアルカイックホール)	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2009. 10/15
平成 22 年度	カルメン	G.ビゼー	石坂 宏	鶴山 仁	2010. 7/12
	蝶々夫人(於 あましんアルカイックホール)	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2010. 10/27
平成 23 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	菊池彦典	栗山民也	2011. 7/11
	愛の妙薬(於 あましんアルカイックホール)	G.ドニゼッティ	石坂 宏	チェーザレ・リエヴィ	2011. 10/26
平成 24 年度	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	石坂 宏	栗國 淳	2012. 7/12
	愛の妙薬(於 あましんアルカイックホール)	G.ドニゼッティ	城谷正博	チェーザレ・リエヴィ	2012. 10/24
平成 25 年度	愛の妙薬	G.ドニゼッティ	城谷正博	チェーザレ・リエヴィ	2013. 7/10
	夕鶴(於 あましんアルカイックホール)	團 伊玖磨	石坂 宏	栗山民也	2013. 10/30
平成 26 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2014. 7/09
	夕鶴(於 あましんアルカイックホール)	團 伊玖磨	石坂 宏	栗山民也	2014. 11/05
平成 27 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	石坂 宏	栗山民也	2015. 7/10
	蝶々夫人(於 あましんアルカイックホール)	G.プッチーニ	城谷正博	栗山民也	2015. 10/27
平成 28 年度	夕鶴	團 伊玖磨	城谷正博	栗山民也	2016. 7/09
	フィガロの結婚(於 ロームシアター京都)	W.A.モーツァルト	広上淳一	アンドレアス・ホモキ	2016. 10/26
平成 29 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2017. 7/10
	蝶々夫人(於 ロームシアター京都)	G.プッチーニ	高関 健	栗山民也	2017. 10/30
平成 30 年度	トスカ	G.プッチーニ	城谷正博	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2018. 7/06
	魔笛(於 ロームシアター京都)	W.A.モーツァルト	園田隆一郎	ウィリアム・ケントリッジ	2018. 10/29
令和 元年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	飯森範親	栗山民也	2019. 7/06
	蝶々夫人(於 ロームシアター京都)	G.プッチーニ	城谷正博	栗山民也	2019. 10/28
令和 2 年度	夕鶴(公演中止)	團 伊玖磨	三ツ橋敬子	栗山民也	
	魔笛(於 ロームシアター京都)	W.A.モーツァルト	園田隆一郎	ウィリアム・ケントリッジ	2020. 10/27
令和 3 年度	カルメン	G.ビゼー	沼尻竜典	アレックス・オリエ	2021. 7/09
	ドン・パスクワレ(於 ロームシアター京都)	G.ドニゼッティ	阪 哲朗	ステファノ・ヴィツィオーリ	2021. 10/26

〈特別企画〉

年度	公演	作曲	指揮		公演初日
令和 2 年度 (公演中止)	子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ Super Angels スーパーエンジェル	渋谷慶一郎	大野和士	台本: 島田雅彦	
令和 3 年度	子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ Super Angels スーパーエンジェル	渋谷慶一郎	大野和士	台本: 島田雅彦	2021. 8/21

〈小劇場オペラ〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 12 年度	オルフェオとエウリディーチェ	C.W.グルック	佐藤正浩	岩田達宗	2000. 6/25
	幸せな間違い	G.ロッシーニ	星出 豊	粟國 淳	2000. 9/07
	アブ・ハッサン／オペラの稽古	C.M.v. ウェーバー ／A.ロルツィング	三澤洋史	井上 光	2000. 12/23
平成 13 年度	ねじの回転	B.ブリテン	松岡 究	平尾力哉	2001. 4/19
	花言葉	R.ロッセリーニ	宮松重紀	今井伸昭	2001. 10/11
	賢い女	C.オルフ	時任康文	伊藤明子	2002. 2/07
平成 14 年度	シャーロック・ホームズの事件簿(告白)	原 嘉壽子	樋本英一	岩田達宗	2002. 4/25
	なりゆき泥棒	G.ロッシーニ	佐藤 宏	恵川智美	2002. 9/12
	無人島	F.J.ハイドン	山上純司	井原広樹	2003. 1/23
平成 15 年度	ドン・ジョヴァンニ	G.ガッツァーニ	松岡 究	今井伸昭	2003. 5/15
	イタリアのモーツァルト	W.A.モーツァルト	平井秀明	恵川智美	2003. 11/13
	外套	G.プッチーニ	神田慶一	粟國 淳	2004. 2/05
平成 16 年度	友人フリッツ	P.マスカーニ	渡邊一正	高岸未朝	2004. 6/10
	ザザ	R.レオンカヴァッロ	服部譲二	恵川智美	2005. 3/03
平成 17 年度	セルセ	G.F.ヘンデル	平井秀明	三浦安浩	2006. 1/12
平成 18 年度	フラ・ディアボロ	D.F.E.オベール	城谷正博	田尾下 哲	2007. 2/15

〈演奏会形式公演〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 20 年度	コンサート・オペラ ペレアスとメリザンド	C.A.ドビュッシー	若杉 弘	若杉 弘(舞台構成)	2008. 6/28
平成 21 年度	コンサート・オペラ ポッペアの戴冠	C.モンテヴェルディ	鈴木雅明	鈴木優人・田村吾郎	2009. 5/15
平成 23 年度	コジ・ファン・トゥッテ(演奏会形式)	W.A.モーツァルト	石坂 宏		2011. 5/15
平成 24 年度	ドン・ジョヴァンニ(演奏会形式)	W.A.モーツァルト	石坂 宏		2012. 4/03
平成 26 年度	さまよえるオランダ人(演奏会形式)	R.ワーグナー	城谷正博		2015. 1/16
平成 29 年度	「ジークフリート」ハイライトコンサート -邦人歌手による-	R.ワーグナー	城谷正博		2017. 5/17

〈こどものためのオペラ劇場〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 16 年度	ジークフリートの冒険 指環をとりもどせ!	R.ワーグナー 「ニーベルングの指環」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	マティアス・フォン・シュテークマン (台本・演出)	2004. 8/06
平成 17 年度	ジークフリートの冒険 指環をとりもどせ!	R.ワーグナー 「ニーベルングの指環」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	マティアス・フォン・シュテークマン (台本・演出)	2005. 7/30
平成 18 年度	スペース・トゥーランドット	G.プッチーニ 「トゥーランドット」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	田尾下 哲(台本・演出)	2006. 7/28
平成 19 年度	スペース・トゥーランドット	G.プッチーニ 「トゥーランドット」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	田尾下 哲(台本・演出)	2007. 7/28
平成 20 年度	ジークフリートの冒険 指環をとりもどせ!	R.ワーグナー 「ニーベルングの指環」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	マティアス・フォン・シュテークマン (台本・演出)	2008. 7/25
平成 21 年度	ジークフリートの冒険 指環をとりもどせ!	R.ワーグナー 「ニーベルングの指環」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	マティアス・フォン・シュテークマン (台本・演出)	2009. 7/24
平成 23 年度	パルジファルとふしぎな聖杯	R.ワーグナー 「パルジファル」による	三澤洋史 (編曲・指揮・台本)	三浦安浩(演出)	2011. 7/22

〈文化庁芸術祭〉

年度	公演	指揮	演出	公演初日
平成 12 年度	国際音楽の日記念コンサート オペラ・ガラコンサート	菊池彦典		2000. 10/01
平成 18 年度	新国立劇場開場 10 周年記念 オペラ・バレエ ガラ公演	渡邊一正(第一部) フィリップ・オーギャン(第二部)		2007. 10/01
平成 21 年度	国際音楽の日記念 メリーメリー・ウィドウ 祝祭版～ちよつと陽気な未亡人～	現田茂夫	飯塚勲生	2009. 10/01
平成 25 年度	国際音楽の日記念 尾高忠明指揮 新国立劇場合唱団が歌う ベルシャザールの饗宴	尾高忠明		2013. 10/01

〈国際交流公演〉

年度	公演	指揮	演出	公演初日
平成 24 年度	2012「日中国民交流友好年」認定行事 オペラ『アイダ』(コンサート形式)	広上淳一		2012. 7/27

〈ニューイヤー オペラパレス ガラ〉

年度	公演	指揮	公演初日
平成 19 年度	ニューイヤー オペラパレスガラ	マウリツィオ・バルパチーニ	2008. 1/05
平成 20 年度	ニューイヤー オペラパレスガラ	渡邊一正(バレエ)／菊池彦典(オペラ)	2009. 1/05
平成 21 年度	ニューイヤー オペラパレスガラ	大井剛史(バレエ)／菊池彦典(オペラ)	2010. 1/05

〈はじめてのオペラ〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 19 年度	カルメン ～楽しいトークとハイライト上演～	G.ビゼー	ジャック・デラコート	鶴山 仁	2007. 12/02

〈舞台芸術国際フェスティバル〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 14 年度	舞台芸術国際フェスティバル ねじの回転	B.ブリテン	松岡 究	平尾力哉	2002. 9/28

〈地域招聘公演〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 17 年度	沈黙(ザ・カレッジ・オペラハウス)	松村禎三	山下一史	中村敬一	2005. 9/16
平成 18 年度	フィガロの結婚(ひろしまオペラルネッサンス)	W.A.モーツァルト	デリック・イノウエ	岩田達宗	2006. 10/15
平成 19 年度	ナクソ島のアリアドネ(関西二期会)	R.シュトラウス	飯守泰次郎	松本重孝	2008. 1/25
平成 21 年度	月を盗んだ話(札幌室内歌劇場)	C.オルフ	柳澤寿男	中津邦仁	2010. 1/13
平成 23 年度	鳴砂(仙台オペラ協会)	岡崎光治	山下一史	岡崎光治	2011. 7/30
平成 25 年度	三文オペラ(びわ湖ホール)	K.ワイル	園田隆一郎	栗山昌良	2013. 7/12
平成 27 年度	いのち(長崎県オペラ協会)	錦かよ子	星出 豊	星出 豊	2015. 7/25
平成 29 年度	ミカド(びわ湖ホール)	A.サリヴァン	園田隆一郎	中村敬一	2017. 8/26
令和 2 年度	竹取物語(びわ湖ホール) (公演中止)	沼尻竜典	沼尻竜典	栗山昌良	